

講演

『学校教育金沢モデル』における学力向上へのプロセスと成果について

講師 北陸大学 未来創造学部教授

石原多賀子さん

プロフィール

北陸大学教養部助教授（金沢市教育委員）から、平成3年4月、金沢市教育委員会教育長に就任。「女性、40代、民間（私立大学教員）出身」という珍しい経歴の教育長ということで注目された。17年間半務め平成20年9月任期満了で退任。この間、中央教育審議会専門委員会委員、教育改革国民会議（総理大臣私的諮問機関）、これからの教育を考える懇談会委員（文部科学大臣私的諮問機関）、文科省独立行政評価委員会教員研修センター一部会会長等を務めるとともに、全国都市教育長協議会会長、中核市教育長会会長等全国の教育団体の会長を務められた。

石川県市町村教育長会の会長を17年間半務め、石川県教育委員会の学力向上推進会議委員や国立大学法人金沢大学経営協議会委員等、小学校から大学までの地元の教育関係の多様な仕事に係わられた。

金沢市の教育改革に力を注がれ、現状を＜実証的に把握＞すること、＜チャレンジ・継続・公開＞をキーワードに、約10年間の試行・準備を経て、「学校教育金沢モデル」を確立。金沢の文化・風土を踏まえながら、グローバル時代に生きる子供たちに必要な「確かな高い学力」と「ふるさとの文化への関心」を育くむことに力を注がれた。

全国自治体で初めて全小学校に英語活動を導入（平成8年）、その成果を踏まえて、「英語特区」を申請し、平成16年国から認められた。

こどもの教育には「家庭・地域・学校・企業・行政」の5者がそれぞれの役割と責任を果たし、主体的に子どもの育成に関わることが大切との切実な思いから「金沢こども条例—こどもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例」を制定（平成13年）し、具体的に実践をするため「金沢こどもを育む行動計画」を策定、毎年度検証をされている。

資料 1

学校教育金沢モデルにおける学力向上の取り組みについて

北陸大学未来創造学部（前金沢市教育委員会教育長）

石原多賀子

- 1 はじめに
- 2 当時の石川県・金沢市の状況
- 3 教育改革・地方分権の流れの中で
 - ・学校週5日制・ゆとり教育、新学力観・活用力、教育行政のあり方
 - ・学校を取り巻く厳しい目と期待に応えるために
 - ・学力低下の実態、学習意欲の問題、こどもと親・教員の関係（海外視察、留学生のコメント） ↓

焦点化と優先順位

4 学力向上のための具体的施策＝「学校教育金沢モデル」

教科（カリキュラム、授業時数、教員、評価）

- ①カリキュラムの充実→「学習指導基準金沢スタンダード」

国の基準への上乗せ、金沢とのつながり

- ②授業時数減少への対策 → 十分な授業時数の確保への工夫

「2学期制」・到達度連絡票

- ③教員研修の充実 → 例、金沢独自の研修「教員海外派遣研修」（ビデオ）

広い視野を養う、参画型の研修、研修先の学校で金沢の文化等について授業
授業を撮影し帰国後分析→金沢のこどもへの効果的な授業、公開研究授業で成
果を広く還元、英語教育特区、学習意欲と授業力向上、教員と学校の国際交流
※ このビデオは、児童・生徒・PTAや地域住民、各種団体にもいろいろな
機会にみてもらった。英語教諭・英語担当者用には、派遣教員による授業
分析を含めた長時間のビデオが活用されている。

5 国の学力・学習状況調査の市教委の活用と学校の取り組み

- ① 金沢市の状況を独自に分析して公表「全国学力・学習状況調査報告書」

施策として取り組むためには、金沢市の平均値だけではなく、学力状況の分布
や学校の状況等を把握し課題の明確化が必要 → 施策の方向性と具体化 学校
への人的支援と予算、授業等への助言、研究校の指定、県教委との連携（人事）

- ② 学校の取り組み 各学校は、児童生徒の学力状況について分析・課題の明確化

教育課程に位置づける。具体的な取り組みは各学校の判断と創意工夫

（習熟度別、少人数、放課後指導員、地域人材の活用、学生ボランティア等）

組織的な取り組み→小学校（担任制）と中学校（教科別）では違う

学力状況の公開は各学校の判断、全学校が公表（地域連携と情報公開）

- 「学力向上の取り組みと検証」について→ 各学校のホームページで公表
- 「学校だより」に学力調査の結果を載せるところも多い。町内会の回覧で校下住民に公開している学校もある。

6 県の「基礎学力調査」の実施と学力状況の分析・課題・公表

国の学力調査で対象になっていない教科・学年の基礎学力調査

小6 社会・理科、小4 国語・算数、中3 社会・理科・英語

7 明確な目標・指標の設定と具体的な取り組み

事例 英語特区（平成16年度）の成果検証（平成17年度から毎年度）

① 小学校児童英検シルバー 小6 全児童

児童の英語学習への積極的な態度を育成するとともに、英語力の定着度

を確認する一助とし指導の改善に役立てるため

平均正答率が80%を超える学校 14校→41校

② 中学校英語能力判定テスト 中3 全生徒

生徒の目標をもった学習態度を育成するとともに英語指導の改善に役

立てるため

英検3級以上レベルの力が十分であると認められる者

約22%→約40%

市教委は学校間格差等への対応・県教委への人事等での配慮を依頼、各学校はそれぞれの実情を踏まえての取り組み

8 連携と一貫について 学校・家庭・地域の連携（役割と責任の明確化）、小中一貫、

連携（カリキュラム、義務教育9年間、中1問題）

幼小連携（小1問題への対応）

9 学力向上への県教委・市教委・学校の役割について

参考 「今、どのような学力が求められているのか」を具体的に保護者や住民に知ってもらい、理解と協力を得ることが大切

OECDの学力調査—生きるための知識と技能、国の学力調査の問題

↓

いろいろな機会に、実際に学力調査の問題(活用)に取り組んでもらった。

(感想 私たちの頃と全然違う問題、このような問題は生活・人生に必要・役立つ、自分で取り組んでみて子どもたちの正答率の高さに脱帽)

※百問は一見、如かず。百見は一考、如かず。百考は一信、如かず。百信は一業、如かず。

『学校教育金沢モデル』における学力向上へのプロセスと成果について

資料一覧

- 資料1-1 参考資料「中核市の教育政策と地域コミュニティの創造―「金沢子ども条例と学校教育金沢モデル」を事例として
(政策研究大学院での講演レジュメ 2010年5月)
- 1-2 地域で育て、地域を育てる学校―金沢市21世紀学校教育ビジョン
- 1-3 学習指導基準金沢スタンダード(小学校) <一部抜粋>
- 1-4 学習指導基準金沢スタンダード(中学校) <一部抜粋>
- 1-5 平成19年度 全国学力・学習状況調査報告書 <一部抜粋>
- 1-6 平成20年度 金沢市立小中学校学力向上の取り組み
- 1-7 参考 中央小学校
- 1-8 弥生小学校
- 1-9 小將町中学校
- 1-10 城南中学校
- 1-11 特集 「世界都市金沢」小中一貫英語教育特区による新しい英語教育の実現に向けて
- 1-12 金沢市立小学校英語活動関係事業(特区以前の取り組み)
- 1-13 「世界都市金沢」小中一貫英語教育特区(申請書より抜粋)
- 1-14 「世界都市金沢」小中一貫英語教育特区(経緯等)
- 1-15 金沢市英語教育副読本(小学校) Sounds Good Book 1
- 1-16 Sounds Good Book 2
- 1-17 金沢市英語教育副読本(中学校) This is Kanazawa
- 1-18 「金沢の教育」パンフレット
- 1-19 「金沢の教育」パンフレット

※網掛番号の資料は、回覧もしくは展示となります。

中核市・金沢市の教育政策と地域コミュニティの創造

—「金沢子ども条例」と「学校教育金沢モデル」を事例として—

(政策研究大学院での講演レジュメより抜粋)

北陸大学未来創造学部教授

石原多賀子

(1) はじめに

大学教員 → 金沢市教育委員会教育長 (平成3年4月～平成20年9月)

教育長新任当初のアドバイス (?)

「何かをすれば何かを言われる。何もしなければ何も言われない。」

「教育行政とは伝達行政である。」

「市町村立学校の教職員は県の職員である。」

教育長新任当初の保護者・市民からの強い要望 (手紙、投書、電話)

学校をよくして下さい。子どもの学力を何とかして下さい。新しい風を!

(2) 地方都市の公教育における政治的社会的状況

地方都市の政治的社会的構造と公教育の位相

知らされた事実と歴史的経緯、地元層と転入者層

(3) 地域・保護者の実状と子どもを取り巻く状況の変化

地域・家庭の教育力低下の広範化と深刻化、マスコミの役割

保護者の就業状況と学校の休業日問題

平成14年4月導入の完全学校週5日制に向けての課題

(4) 「金沢子ども条例」の制定 (平成13年12月制定)

正式名称「子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例」

① (3)を踏まえ、大人の役割と責任を啓発・各団体の実践

② 子どもの発達段階に応じたかかわり方→子どもの自立へ

<参考資料 金沢子ども条例について>

(5) 「金沢子どもを育む行動計画」策定

条例を具現化するため子どもに係わる各団体によって策定。毎年度、「金沢子どもを

育む行動推進委員会」で各団体の取組状況の報告と課題の共有化を図る。

- (6) 「校下コミュニティ」における「地域団体」と「ネットワーク型活動」
子どもへの犯罪が多発し、「安心・安全」な学校・地域づくりが喫緊の課題になる。
スクール・サポーター等の活動
地域での「ネットワーク型」＋「地域団体」の取り組みの成果と課題

(7) 「学校教育金沢モデル」とは

- ・ 地方分権の流れの中で、地域・保護者等の実状やニーズに応じていくため
- ・ 市町村教育委員会に与えられている数少ない権限を最大限に生かして創意工夫し
- ・ 近い将来の教育課題・方向性への見通しのもと
- ・ 具体的な教育施策を推進することにより



金沢市の学校教育を充実・向上

- ① 金沢市の基本構想「金沢世界都市構想」
- ② 地方分権一括法に基づき市町村教育委員会への権限移譲 <学期の制定>
- ③ 地方分権一括法に基づき中核市教育委員会への権限移譲 <教職員の研修>
- ④ 学習指導要領の大綱化・最低基準化

具体的には

- ①→ 1 「世界都市金沢」小中一貫英語教育（教育特区）
英語教育の充実・向上および日本と金沢の歴史・文化を世界へ発信
- ②→ 2 学校2学期制
学校週5日制、授業時数確保、子ども・保護者の生活状況等対応、
- ③④→ 3 学習指導基準金沢スタンダード
国の学力調査を分析し金沢版の学力状況と具体的取組、独自の内容
の3つの金沢市教育施策で構成されている

(8) 「世界都市金沢」小中一貫英語教育（教育特区）

平成7年度 金沢市「金沢世界都市構想」策定 「世界に通じる人づくり」

金沢市立南小立野小学校が「小学校における英会話等に関する研究開発学校」に国から指定される。

平成8年度 英語活動の試行（外国人指導者、民間協力員、活動の手引き・教材作成、）

平成9年度 全小学校で英語活動実施（全国自治体で初めての取り組み）

平成13年度 金沢市小中一貫英語教育推進地域指定（3年間）市指定校

平成15年度 市指定校の研究発表会

小中一貫英語教育への準備、小学校英語副読本策定委員会
平成16年度 「世界都市金沢」小中一貫英語教育特区の認可
英語専門指導者（金沢市公募による）＋学級担任
金沢市小学校英語副読本「Sounds Good」による授業
海外での教職員英語教育研修開始（中国大連市）

※ ビデオ視聴

◎ 特区の内容 小学校3年以上で年間35時間以上の「英語」新設
中学校英語週3時間→4時間へ充実
平成17年度 「全国小中学校英語教育特区研究大会 in Kanazawa」の開催
中学校英語副読本「This is Kanazawa」の活用
中学校の英語と社会科教員による作成
周辺の自治体・教育委員会との連携・支援
平成20年度 全国小中一貫英語教育推進有識者会議開催

(9) 学校2学期制

- ・平成14年度学校週5日制の導入 保護者・地域から授業時数・学習内容の削減に不安の声が上がる。
- ・学習が長期中断する夏休み・9月問題、保護者の就業状況と子どもの長期休業
- ・3学期が授業日と休業日が約半々になるためひとつの学期として成立しにくい。
- ・学力の「履修主義」から「習得主義」への転換
- ・教育委員の視察（2学期制導入校、ゆとりと充実、学校教育全体の生活リズム改革）

↓

「学校2学期制検討委員会」

「モデル校での取り組み」（2年間）と成果報告

↓

「学校週6日制・3学期制」から「学校週5日制・2学期制」へ

- ◎ 授業時数の確保、学習到達度連絡票
- ◎ サマースクール（学校裁量、地域連携—地域の人材・企画等）

(10) 学習指導基準金沢スタンダード

- ・ 国の学力調査（平成13年度実施～）と比較、金沢市の学力状況を把握・分析することによる具体的な学力向上策
- ・ 金沢の子どもが不得意とする領域への具体的な取り組み
- ・ 加えて、国の学習指導要領で削減された内容について、金沢市として上乗せをする。

- ・ さらに、国レベルの内容に金沢市の歴史・文化を関連付けることにより、子どもにとってわかりやすく、また、ふるさとへの関心・愛着を育む



「学習指導基準金沢スタンダード」を作成



各学校で教育課程に入れる

◎ 現在は、さらに各学校で「学校スタンダード」を作成・実施

(11) 学校教育金沢モデル推進を可能にした条件

- ① 保護者・地域の本音のニーズを踏まえ、近い将来の課題へ対応
- ② 金沢市基本構想における人づくり・学校教育の分野での取り組み
⇒ 市長の教育政策における強い期待と指導力
予算の確保、市議会への対応
- ③ 情報の綿密な収集と分析、十分な準備、教職員の参画
- ④ タイムリーな時期への状況判断
- ⑤ 継続を可能にしていく具体的な成果の要求→今までのところそれに応えている
- ⑥ 教育委員会事務局及び学校現場に人材がいたこと

地域で育て、地域を育てる学校

一人一人に確かな学力を身に付け、金沢の豊かな文化を創造する人づくり

金沢市21世紀学校教育ビジョン提言



提言にあたって

金沢市21世紀教育懇話会では、2002年からの新しい教育課程の実施に向けて、金沢市の学校教育の基本的なビジョンについて、3か年にわたり、中央、地元の有識者からなる委員、そして、多くの市民の皆様からのご意見・ご提言に耳を傾けながら、幅広い観点から検討を進めてまいりました。

この間に、新学習指導要領が告示され、「総合的な学習の時間」が一部実施されるなど、国において様々な教育改革が進行し、この懇話会でもこれを受けて、「学力」の問題など新たな課題が提起され、21世紀の金沢の学校教育の在り方をめぐり貴重な議論もさせていただきました。

このたび、わたしたちは、金沢の子どもたちが21世紀の担い手として、世界に発信できるたくましく「生きる力」を身に付けてほしいという共通の願いから、これからの学校教育の在り方について具体的に提言することとしました。

提言の内容は、「ともに生きる力を育む教育の推進」「金沢の個性を生かした教育の推進」「学ぶ楽しさが実感できる授業の充実」「魅力ある学校づくりの推進」「地域に開かれた学校づくりの推進」の5つの視点から構成されています。

とくに、金沢は、他の都市が真似しようとしてきたやぶくできない豊かな個性をもつ都市です。恵まれた自然立地条件と歴史に根付いた伝統文化、学問を大切にする学術都市・公民館を中心とした連帯意識の強さが金沢のアイデンティティといえます。子どもたちにはこのことを大切に、「金沢で学ぶこと」を誇りに思っしてほしいと考えました。

2002年からは、完全学校週5日制が実施されます。これからの学校は、市民からの信頼に応えるため、家庭や地域と一体となって、子どもたちの健やかな成長を促すよう「地域で育て、地域を育てる学校づくり」に、これまで以上に、積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

また、そのためには、新学習指導要領により厳選される教育内容が子どもたち一人一人に確実に身に付けられるよう一層の授業改善を望みますし、楽しくわかる授業の基盤となる「心の居場所」としての学校づくりにも力を尽くしていただきたいと思っております。

新たな世紀が目前にせまっています。

来るべき21世紀において、わが国が活力ある国家として発展し、科学技術創造立国、文化立国を目指していくためには、あらゆる社会システムの基盤となる教育の役割が極めて重要です。

この提言を契機に、21世紀の金沢の学校教育のために、学校関係者はもとより、市民の皆様の間で活発な議論と実践が展開されますよう期待しております。

平成12年12月25日

金沢市21世紀教育懇話会座長

乾 由 明

ともに生きる力を育む教育の推進

① 好ましい人間関係づくりの充実

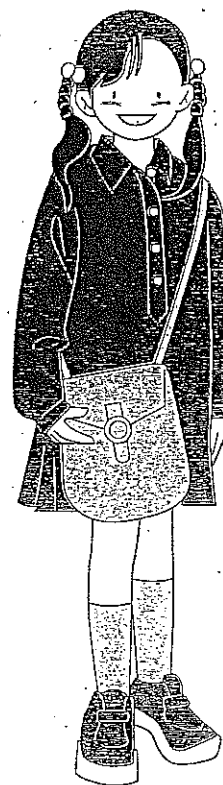
- 望ましい集団活動を通して自立性や社会性、規範意識などを育む。
- 児童生徒理解を深め、生徒指導の充実を図る。
- いじめや不登校問題の解決と未然防止のためのカウンセリング機能の充実を図る。
- 障害のある子と障害のない子が共に生き学び合う学習を充実する。
- 幼児や高齢者などと世代間交流の機会を設ける。
- 児童生徒や保護者のニーズに応じた個別に対応できるサポートシステムをつくる。

② 肌で感じる体験学習の重視

- 自分たちの住む地域に積極的に出かけ、自然体験や社会体験、ものづくり等を通して、感動的な生き方にふれるなど、様々な生き方に学ぶ学習を充実する。
- ボランティア活動などの豊かな体験を通じた道徳教育を充実する。
- 生命を尊重する教育を進める。
- 身近な問題や出来事をもとに実践活動につながる人権教育を進める。

③ たくましく生きるための健康教育や体力づくりの推進

- 指導者の確保や施設の充実を進め、学校体育及び運動部活動等を充実する。



① 金沢を誇りに思う心の育成

- 金沢の恵まれた自然、歴史に育まれた伝統文化、優れた食文化、活発なコミュニティ活動などの個性を生かした教育を充実する。
- 金沢の歴史文化に関する施設などを積極的に生かした教育を充実する。
- 諸外国の文化にふれる機会を持ったり、諸外国の人々との積極的な交流を進め、世界に目を向けた教育を充実する。
- 職人や企業、大学など様々な分野で活躍する方、大学生など金沢に住む方々の力を生かした教育を充実する。

② 科学する心の育成

- 金沢が生んだ科学者等の生き方や業績などに学ぶ。
- 学術都市の特徴を生かし、大学の教官や学生、民間企業など地域の人材による理科学教育を進める。

学ぶ楽しさが実感できる授業の充実

① 自ら学び自ら考える力を育てる授業の充実

- 各教科、道徳、特別活動及び「総合的な学習の時間」で体験的な学習、問題解決的な学習を充実する。
- 各教科等で知的好奇心や探究心、論理的な思考力や表現力の育成を重視した学習を充実する。

② 基礎基本を重視した授業の充実

- 各教科の基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるため、個に応じて繰り返し指導するなど、子どもの学力保障に努める。
- 学習集団の弾力化を図るとともに、小人数による学習指導やチームティーチング等、子ども一人一人に応じた指導法を積極的に取り入れる。
- 「絶対評価」を一層重視し、一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価する個人内評価を工夫する。

③ 教職員の資質向上

- 教育研究センターにおける教職員研修と各学校を基盤とした研修を組み合わせ、教職員のライフステージに応じた研修体系を再構築する。
- 全教職員がコンピュータを操作でき、コンピュータを生かした授業が可能となる研修や英会話の研修を充実する。
- 社会貢献活動や企業体験などを積極的に取り入れた研修を進める。

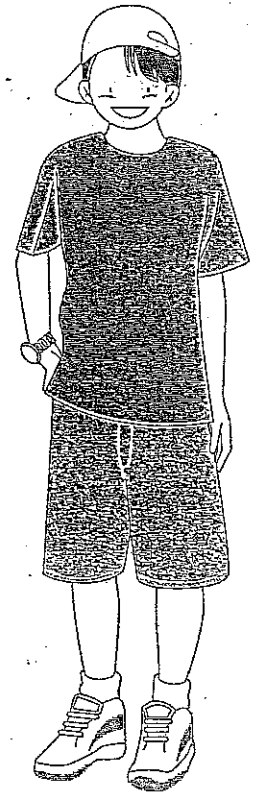


④ 子どもも教師も心のゆとりをとりもどす

- 一日の大半を過ごす学校としてのゆとりと夢のある空間づくり努める。
- 子どもとのふれあいの時間を確保するための学校運営の見直しに努める。

⑤ ゆとりある学習期間の設定

- 長期休業期間や学期の在り方について見直しを図る。
- 夏季休業期間中に子ども対象の長期カリキュラムを提示し、個人差や興味関心に基づいた学習を可能にするサマースクールを充実する。



魅力ある学校づくりの推進

① 今日的な課題についての学習の充実

- 「総合的な学習の時間」を活用して、国際理解、情報、環境、福祉・健康など今日的な課題についての学習に取り組む。
- 地域の人材を招いた地域の特性に応じた特色ある学習を進める。
- 自分たちの住む地域や金沢市の歴史や文化を教材とした学習を進める。

② 小中一貫英語教育の推進

- 小学校英語活動の成果を踏まえ、小、中学校を一貫として、実際に話したり聞いたりすることに重点をおき実際の場で使える英語教育を進める。

③ 情報教育・学校図書館教育の推進

- 校内LAN及びコンピュータ等の整備を進め、各教科等の学習において積極的な活用を図り、情報教育を進める。
- 「学習情報センター」としての機能と「読書センター」としての機能をあわせもつ学校図書館の充実を図る。
- 司書教諭を中心とし、地域の方々の協力を得ながら魅力ある学校図書館づくりに取り組む。

④ 新しいタイプの学校づくりの推進

- 研究開発学校に積極的に応募し、中学校区単位で英語教育や情報教育、環境教育などの新しい試みを進める。
- 学校が自主的に提案する新しいタイプの学校づくりを進める。
- 特認校制度の検討など、通学区域の弾力化に取り組む。

地域に開かれた学校づくりの推進

① 地域住民の信頼に応える学校づくりの推進

- 地域住民の意向を把握し反映し、その協力を得て学校運営を行うための学校評議員制度を導入する。
- 保護者や地域住民に、教育課程の実施状況や子どもの学習状況等の自己点検・自己評価を含めた学校運営の状況を説明する機会をもつ。
- 学校が保護者や地域住民に説明責任を果たすため、スクールフォーラムの開催や学校行事・授業等教育活動の公開などの機会を多くもつ。

② 学校と地域によるコミュニティづくりの推進

- 公民館など地域の教育機関と手を携えて、地域住民の参画によるコミュニティの拠点としての学校づくりに努める。

③ 学校の自主性・自律性の確立

- 校長の強いリーダーシップの下、全教職員による組織的、機動的な学校運営に努める。
- 明確な学校運営方針の下、校長の任期の長期化を図る。
- 学校予算の在り方を見直し、学校の意向が反映される予算編成に努めるとともに、校長の裁量によって執行できる予算措置を工夫する。
- 子どもニーズを踏まえた「学校提案型」の教員加配等を充実する。
- 研究員制度の導入を図るなど、教育研究センターのカリキュラムセンター機能の充実を図る。



金沢市21世紀教育懇話会委員名簿

(敬称略・五十音順)

座 長

乾 由 明 金沢美術工芸大学学長

特別委員

古 村 澄 一 財団法人 教職員生涯福祉財団理事長(元文部省初等中等教育局長)

宮 原 修 お茶の水女子大学文教育学部教授(文部省教育方法の改善に関する調査研究協力者会議委員)

山 極 隆 玉川大学文学部教育学科教授(教育課程審議会委員)

若 井 彌 一 上越教育大学教授(文部省児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議委員)

委 員

新 家 久 司 金沢市PTA 協議会会長(※H12委員)

奥 村 典 子 金沢市PTA 協議会副会長(※H10委員)

金 子 劭 榮 金沢大学教育学部長(※H10・11委員)

木 場 清 子 石川県立看護大学教授・臨床心理士(清泉中学校スクールカウンセラー)

キム・スウェイビー 金沢市小学校英語活動指導員(※H10委員)

沢 飯 英 樹 金沢市議会文教常任委員長(※H10委員)

嶋 崎 丞 石川県立美術館長

新 保 正 石川県教職員組合金沢支部執行委員長(※H10・11委員)

甚 田 和 幸 金沢市PTA 協議会会長(※H10委員)

杉 本 幹 博 金沢大学教育学部長(※H12委員)

寺 中 隆 善 金沢市議会文教常任委員長(※H11委員)

中 島 秀 雄 株式会社中島商店社長

中 本 義 章 金沢大学工学部教授

野 上 兵 一 金沢市PTA 協議会会長(※H11委員)

藤 井 昭 久 金沢市立諸江町小学校長

前 川 信 政 金沢市医師会副会長(※H12委員)

丸 田 恒 彦 金沢市立工業高等学校長

三 木 淳 子 金沢市PTA 協議会副会長(※H11・12委員)

宮 川 昌 江 株式会社シーピーユー社長

森 雪 枝 金沢市議会文教常任委員長(※H12委員)

谷 内 敏 夫 金沢市立野田中学校長

藪 俊 彦 宝生流能楽師

山 口 了 石川県教職員組合金沢支部執行委員長(※H12委員)

横 井 透 金沢市立城南中学校校医(※H10・11委員)

米 田 満 北國新聞論説委員

金沢市21世紀教育懇話会事務局

金沢市教育委員会 学校教育課内

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

TEL(076)220-2449 FAX(076)223-4602

学習指導基準金沢スタンダード

(小 学 校)

金沢市教育委員会 学校指導課

金沢スタンダード（小学校国語）

学習指導要領	金沢スタンダード
<p>第2章 各教科</p> <p>第1節 国語</p> <p>第1 目標</p> <p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</p>	
<p>第2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第1学年及び第2学年〕</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話すことや大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度を育てる。</p> <p>(2) 経験した事や想像した事などについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。</p> <p>(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p>	
<p>2 内容</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア <u>知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すこと。</u></p> <p>イ <u>大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。</u></p> <p>ウ <u>身近な事柄について、話題に沿って、話し合うこと。</u></p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア <u>相手や目的を考えながら、書くこと。</u></p> <p>イ <u>書こうとする題材に必要な事柄を集めること。</u></p> <p>ウ <u>自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考えること。</u></p> <p>エ <u>事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。</u></p> <p>オ <u>文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに注意すること。</u></p>	<p>ア 知らせたい事や知らせたい相手を選び事柄の順序を考えながら、分かるように話すこと。</p> <p>少ない文で話す事から始め、徐々に内容を増やし、言葉や表現を考えて話すこと</p> <p>◆ <u>重点的に指導する内容</u></p> <p>イ 観察・探検・創作・表現などの体験的な活動や自分の生活体験をもとに、書こうとする題材に必要な事柄を集めること</p> <p>◆ <u>重点的に指導する内容</u></p> <p>ウ 自分の考えが明確になるように、はじめ・中・おわりなどの簡単な組立てを考えること ◆ <u>重点的に指導する内容</u></p> <p>オ 自分の文章のよいところや友達の文章のよいところを見つけるなど、書いた文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに注意すること</p> <p>◆ <u>重点的に指導する内容</u></p>

Ｃ 読むこと

- (1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。
- ア 易しい読み物に興味をもち、読むこと。
- イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。
- エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。

[言語事項]

- (1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。
- ア 発音・発声に関する事項
- (ア) 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話すこと。
- イ 文字に関する事項
- (ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語を文や文章の中で使うこと。
- (イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くようにすること。
- (ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。
- ウ 表記に関する事項
- (ア) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。
- (イ) 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。
- エ 文及び文章の構成に関する事項
- (ア) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。
- オ 言葉遣いに関する事項
- (ア) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話し、また、敬体で書かれた文章に慣れること。
- (2) 文字に関する事項の指導のうち、書写については、次の事項を指導する。
- ア 書写に関する事項
- (ア) 姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書くこと。
- (イ) 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

- イ 接続語の使い方や文末表現などにも着目し、時間的な順序、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を読むこと
◆ 重点的に指導する内容

- (ア) 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話すことを継続的に行うこと ◆ 重点的に指導する内容

- (ア) 文の中における主語と述語との関係に注意することを継続的に行うこと ◆ 重点的に指導する内容

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A 話すこと・聞くこと」
「B 書くこと」及び「C 読むこと」
に示す事項の指導は、例えば次のよ
うな言語活動を通して指導するもの
とする。

「A 話すこと・聞くこと」

尋ねたり応答したりすること、自分
が体験した事などについて話をするこ
と、友達の話聞くこと、読んだ本の中
中で興味をもったところなどを紹介す
ることなど

「B 書くこと」

絵に言葉を入れること、伝えたい事
を簡単な手紙などに書くこと、先生や
身近な人などに尋ねた事をまとめるこ
と、観察した事を文などに表すことな
ど

「C 読むこと」

昔話や童話などの読み聞かせを聞く
こと、絵や写真などを見て想像を膨ら
ませながら読むこと、自分の読みたい
本を探して読むことなど

・・・昔話や童話などの読み聞かせ（教
師などの肉声によるもの、VTRやCDな
どの視聴覚教材を活用したもの）を継続
的に聞くこと 重点的に指導する内容

(2) 第1学年において2の内容を指
導するに当たっては、入門期であるこ
とを考慮し、当該学年にふさわしい指
導を行うこと。その際、(1)の言語活
動のうち、尋ねたり応答したりするこ
と、絵に言葉を入れること、昔話や童
話などの読み聞かせを聞くこと、絵や
写真などを見て想像を膨らませながら
読むことなどを主として取り上げるよ
う配慮すること。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目 標

- (1) 相手や目的に応じ、調べた事な
どについて、筋道を立てて話すこと
や話の中心に気を付けて聞くことが
できるようにするとともに、進んで
話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 相手や目的に応じ、調べた事な
どが伝わるように、段落相互の関係
などを工夫して文章を書くことがで
きるようにするとともに、適切に表
現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容の中心をとら
えたり段落相互の関係を考えたりし
ながら読むことができるようにする
とともに、幅広く読書しようとする
態度を育てる。

2 内 容

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことの能力を育
てるため、次の事項について指導す
る。

ア 伝えたい事を選び、自分の考えが

ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分
かるように、順序を考えたり話の中心を

分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。

ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。

B 書くこと

(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。

イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。

ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。

エ 書こうとする事柄の中心を明確にししながら、段落と段落との続き方に注意して書くこと。

オ 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること。

C 読むこと

(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。

ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。

エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要などころは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。

カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。

[言語事項]

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 発音・発声に関する事項

(ア) その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すこと。

イ 文字に関する事項

(ア) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。

(イ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

(ウ) 第4学年においては、日常使

はっきり決めて話したりするなど筋道を立てて、相手や目的に応じた

◆ 重点的に指導する内容

イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の経験や考えと話し手の内容を比較しながら、自分の感想をまとめて伝えること

◆ 重点的に指導する内容

ア 相手や目的に応じて、書く材料の収集や選択・構成を工夫し、適切に書くこと

◆ 重点的に指導する内容

ウ 自分の考えが明確になるように、事柄ごとに書く内容を整理したり、簡単な組立てを考えたり、段落を意識して書いたり段落相互の関係を考えたりすること

◆ 重点的に指導する内容

ア 説明的な題材や詩などいろいろな読み物に

◆ 重点的に指導する内容

イ 目的に応じて、接続語や指示語、文末表現、繰り返し語句などの言葉に着目し、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え文章を正しく読むこと

◆ 重点的に指導する内容

われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

ウ 表記に関する事項

(ア) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。

(イ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。

エ 語句に関する事項

(ア) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

(イ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解すること。

オ 文及び文章の構成に関する事項

(ア) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

(イ) 文章全体における段落の役割を理解すること。

(ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。

カ 言葉遣いに関する事項

(ア) 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話し、また、文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。

(2) 文字に関する事項の指導のうち、書写については、次の事項を指導する。

ア 書写に関する事項

(ア) 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書くこと。

(イ) 文字の大きさや配列に注意して書くこと。

(ウ) 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書くこと。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」に示す事項の指導は、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。

「A話すこと・聞くこと」

身近な話題についてスピーチをすること、要点などをメモに取りながら聞くこと、身近な出来事や調べた事柄について説明したり報告したりすることなど

「B書くこと」

手紙を書くこと、自分の疑問に思った事などについて調べてまとめること、経験した事を記録文や学級新聞などに表すことなど

(ア) 修飾と被修飾の関係や「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などの関係による文の構成について初歩的な理解を持つこと

◆ 重点的に指導する内容

身近な話題や興味のある話題についてスピーチすること、要点を押さえ簡潔書きにすること、要点などをメモにとり、分からないことを確かめながら聞くこと・・・

◆ 重点的に指導する内容

「C読むこと」

読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと、疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むことなど

疑問に思った事、驚きや感動を持った事などについて関係のある図書資料を探して読むこと ◆ 重点的に指導する内容

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

- (1) 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

B 書くこと

(1) 書くことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。

イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。

エ 事象と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

C 読むこと

(1) 読むことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。

イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をと

ア 考えた事や自分の意図がわかるように、順序や話の中心に気を付け、事実と感想・意見との組立て、資料や例示の活用、結論や山場の位置付けなどの話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと

◆ 重点的に指導する内容

イ 話し手の意図を考え自分の考えと比較しながら話の内容を聞くこと

◆ 重点的に指導する内容

ウ 自分の考えを明確に表現するため、文や文章にはいろいろな構成があることを知り、文章全体の組立ての効果を考えること。 ◆ 重点的に指導する内容

オ 自分の考えを明確に表すための表現の効果などについて、確かめたり工夫したり・・・ ◆ 重点的に指導する内容

らえること。

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。

オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

[言語事項]

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 文字に関する事項

(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。

(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

イ 表記に関する事項

(ア) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

ウ 語句に関する事項

(ア) 語句に関する類別の理解を深めること。

(イ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

(ウ) 表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けること。

(エ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

エ 文語調の文章に関する事項

(ア) 易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむこと。

オ 文及び文章の構成に関する事項

(ア) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

カ 言葉遣いに関する事項

(ア) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

(イ) 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。

(2) 文字に関する事項の指導のうち、書写については、次の事項を指導する。

ア 書写に関する事項

(ア) 文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書くこと。

(イ) 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと。

エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、筆者の意見、感想に対する自分の立場からの考えを明確にしなが

◆ 重点的に指導する内容

(ア) 文や文章には、はじめ・中・おわりといった展開、考えの中心となる文の置き方、意見と事実との書き分け方、順序に沿った述べ方などいろいろな構成があることについて理解すること

◆ 重点的に指導する内容

(ウ) 毛筆を使用して、字配りよく書くこと。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」に示す事項の指導は、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。

「A 話すこと・聞くこと」

自分の考えを資料を提示しながらスピーチをすること、目的意識をもって友達のことを聞くこと、調べた事やまとめた事を話し合うことなど

「B 書くこと」

礼状や依頼状などの手紙を書くこと、自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと、経験した事をまとめた記録や報告にすることなど

「C 読むこと」

読書発表会を行うこと、自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むことなど

自分の考えを明確にした意見文や紹介文、感想文などを書くこと

◆ 重点的に指導する内容

読んだ本の内容や筆者の意図を簡潔に押さえノートなどに整理すること

自分の課題を解決するために図鑑や事典、新聞や情報誌などを活用して

◆ 重点的に指導する内容

第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりして、弾力的に指導することができるようにすること。

(2) 第2の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」に示す事項については、それぞれが関連的に指導されるようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。

(3) 第2の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の言語活動の指導に当たっては、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。

(4) 第2の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、日常生活の中に話題を求め、意図的、計画的に指導する機会が得られるようにし、第1学年から第4学年までは年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を開発したり活用したりするな

(4) 第2の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、日常生活の中に話題を求め、意図的、計画的、継続的に指導する機会が得られるようにし、

重点的に指導する内容に関する

どして指導の効果を高めるよう工夫すること。

(5) 第2の各学年の内容の「B書くこと」に関する指導については、文章による表現の基礎的な能力を養うことに重点を置くこと。また、文章を書くことを主とする指導については、第1学年及び第2学年では年間90単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当するようになるとともに、実際に文章を書く活動をなるべく多くしたり特に取り上げて指導したりすること。

(6) 第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること。

(7) 低学年においては、生活科などとの関連を図り、指導の効果を高めるようにすること。

2 第2の各学年の内容の「言語事項」については、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 音声、文字、文法的事項などのうち繰り返して学習させることが必要なものについては、特にそれだけを取り上げて学習させるよう工夫すること。

(2) 毛筆を使用する書写の指導は、第3学年以上の各学年で行い、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにすること。また、毛筆を使用する書写の指導に配当する授業時数は、各学年年間30単位時間程度とすること。なお、硬筆についても、毛筆との関連を図りながら、特に取り上げて指導するよう配慮すること。

(3) 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

ア 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導すること

実際に文章を書く活動をなるべく多くしたり特に取り上げて指導したりし、他教科との関連も図りながら、意図的、計画的、継続的に指導したりすること

重点的に指導する内容に関すること

また、「C読むこと」の指導については、教科書教材における指導にとどまらず、関連した他の教材による指導を取り入れたリノートやワークシートにより個に応じて自ら学ぶことができるようにしたりするなどの工夫をすること

重点的に指導する内容に関すること

また、辞書の利用については、どの領域の学習においても、常時使用するようすることで、中学年の段階から使い慣れるようにすること

重点的に指導する内容に関すること

もできること。

イ 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字を必要に応じて提示する場合は、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担が過重にならないよう配慮すること。

ウ 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。

3 教材については、次の事項に留意するものとする。

(1) 教材は、話すこと・聞くこと的能力、書くこと能力及び読むこと的能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の3の内容の取扱いに掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。

イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。

ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。

エ 科学的、論理的な見方や考え方をする態度を育て、視野を広げるのに役立つこと。

オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。

カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。

ク 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。

ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。

コ 世界の風土や文化などに理解をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(3) 第2の各学年の内容の「C読むこと」の教材については、説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。

エ 漢字の指導においては、その文字で構成されている語彙や語句などを合わせて指導するようにすること

重点的に指導する内容に関すること

注意・・・低学年、中学年では各学年年間15時限程度を、高学年では各学年年間10時限程度を重点的な指導に充てることとする。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの領域において3～5時限の時数を目安とする。「言語事項」については、各領域と関連させて取り扱うようにする。

学習指導基準金沢スタンダード

(中 学 校)

金沢市教育委員会 学校指導課

金沢スタンダード（中学校外国語・英語）

学習指導要領(外国語)	金沢スタンダード
<p>第9節 外国語</p> <p>第1 目標</p> <p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。</p> <p>第2 各言語の目標及び内容等</p> <p>英語</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。</p> <p>(2) 英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。</p> <p>(3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。</p> <p>(4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 言語活動</p> <p>英語を理解し、英語で表現する能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる。</p> <p>ア 聞くこと</p> <p>主として次の事項について指導する。</p> <p>(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。</p> <p>(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ること。</p> <p>(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。</p> <p>(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を正しく理解すること。</p> <p>イ 話すこと</p> <p>主として次の事項について指導する。</p> <p>(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ、正しく発音すること。</p> <p>(イ) 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと。</p> <p>(ウ) 聞いたり読んだりしたことについて、問答したり意見を述べ合ったりすること。</p> <p>(エ) つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が続けるように話すこと。</p>	

ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること。
- (エ) 伝言や手紙などから書き手の意向を理解し、適切に応じること。

エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと。
- (イ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書いたりすること。
- (ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。
- (エ) 伝言や手紙などで読み手に自分の意向が正しく伝わるように書くこと。

(2) 言語活動の取扱い

ア 3学年間を通した全体的な配慮事項

3学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。

- (ア) 実際に言語を使用して互いの気持ちや考えを伝え合うなどのコミュニケーションを図る活動を行うとともに、(3)に示す言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。
- (イ) コミュニケーションを図る活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること。
- (ウ) 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

[言語の使用場面の例]

- a 特有の表現がよく使われる場面
 - ・あいさつ ・自己紹介 ・電話での応答
 - ・買い物 ・道案内 ・旅行 ・食卓など
- b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面
 - ・家庭での生活 ・学校での学習や活動
 - ・地域の行事 など

[言語の働きの例]

- a 考えを深めたり情報を伝えたりするもの
 - ・意見を言う ・説明する ・報告する
 - ・発表する ・描写する など
- b 相手の行動を促したり自分の意志を示したりするもの
 - ・質問する ・依頼する ・招待する
 - ・申し出る ・確認する ・約束する
 - ・賛成する/反対する ・承諾する/断る など

- c 気持ちを伝えるもの。
・礼を言う ・苦情を言う ・ほめる ・謝る など

イ 学習段階を考慮した指導上の配慮事項

生徒の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。

(ア) 第1学年における言語活動

英語を初めて学習することに配慮し、コミュニケーションに対する積極的な態度の育成を重視するとともに、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際、自分の気持ちや身の回りのできごとなどの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

(イ) 第2学年における言語活動

第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年に加え、特に、事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

(ウ) 第3学年における言語活動

第2学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせること。その際、第2学年に加え、特に、様々な考えや意見などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

(3) 言語材料

(1)の言語活動は、以下に示す言語材料のうちから、1の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。

ア 音声

- (ア) 現代の標準的な発音
(イ) 語と語の連結による音変化
(ウ) 語、句、文における基本的な強勢
(エ) 文における基本的なイントネーション
(オ) 文における基本的な区切り

イ 文字及び符号

- (ア) アルファベットの活字体の大文字及び小文字

(ア) 第1学年における言語活動

小学校ですでに英語を学んでいることに配慮すること。生徒の実態を把握した上で、学習段階を考慮し、コミュニケーションに対する積極的な態度の育成を重視するとともに、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際、自分の気持ちや身の回りのできごとなどの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

Show & Tell や簡単なスピーチを通して自分の気持ちを表現する活動に慣れ親しませること。

◆ 重点的に指導する内容

(イ) 第2学年における言語活動

第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年に加え、特に、事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

スピーチやその後の質疑を通して、自分の考えなどを表現する活動に慣れ親しませること。

◆ 重点的に指導する内容

(ウ) 第3学年における言語活動

第2学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせること。その際、第2学年に加え、特に、様々な考えや意見などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

学習段階にふさわしい話題のもとでの意見のやりとりを通し、考えを深める活動に慣れ親しませること。

◆ 重点的に指導する内容

(イ) 終止符, 疑問符, コンマ, 引用符, 感嘆符などの基本的な符号

ウ 語, 連語及び慣用表現

(ア) 別表 1 に示す語を含めて, 900 語程度までの語 (季節, 月, 曜日, 時間, 天気, 数 (序数を含む), 家族などの日常生活にかかわる基本的な語を含む)

(イ) 連語のうち基本的なもの

(ウ) 慣用表現のうち, excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcome, for example など基本的なもの

エ 文法事項

(ア) 文

a 単文, 重文及び複文

b 肯定及び否定の平叙文

c 肯定及び否定の命令文

d 疑問文のうち, 動詞で始まるもの, can, do, may などの助動詞で始まるもの, or を含むもの及び how, what, when, where, which, who, whose, why の疑問詞で始まるもの

(イ) 文型

a [主語+動詞] の文型

b [主語+動詞+補語] の文型のうち,

| 名詞 |

(a) 主語+be 動詞+ | 代名詞 |

| 形容詞 |

(b) 主語+be 動詞以外の動詞+ | 名詞 |

| 形容詞 |

c [主語+動詞+目的語] の文型のうち,

| 名詞 |

| 代名詞 |

(a) 主語+動詞+ | 動名詞 |

| to 不定詞 |

| how (など) to 不定詞 |

| that で始まる節 |

(b) 主語+動詞+ what などで始まる節

d [主語+動詞+間接目的語+直接目的語] の文型のうち,

(a) 主語+動詞+間接目的語+ | 名詞 |

| 代名詞 |

(b) 主語+動詞+間接目的語+ how (など) to 不定詞

e [主語+動詞+目的語+補語] の文型のうち,

(a) 主語+動詞+目的語+ | 名詞 |

| 形容詞 |

f その他の文型のうち,

(a) There + be 動詞+~

(b) It + be 動詞+~ (+ for ~) + to 不定詞

(c) 主語+ tell, want など+目的語+ to 不定詞

(ウ) 代名詞

- a 人称, 指示, 疑問, 数量を表すもの
 - b 関係代名詞のうち, 主格の that, which, who 及び目的格の that, which の制限的用法の基本的なもの
 - (エ) 動詞の時制など
- 現在形, 過去形, 現在進行形, 過去進行形, 現在完了形及び助動詞などを用いた未来表現
- (オ) 形容詞及び副詞の比較変化
 - (カ) to 不定詞のうち基本的なもの
 - (キ) 動名詞のうち基本的なもの
 - (ク) 現在分詞及び過去分詞の形容詞としての用法
 - (ケ) 受け身のうち現在形及び過去形

(4) 言語材料の取扱い

ア (3)の「エ文法事項」の(イ)のcの(b), dの(b)及び(ウ)のbについては, 理解の段階にとどめること。

イ (3)の「エ文法事項」の取扱いについては, 用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し, 実際に活用する指導を重視するようにすること。

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては, 次の事項に配慮するものとする。

ア 各学校においては, 生徒の実態や地域の実情に応じて, 学年ごとの目標を適切に定め, 3学年間を通して英語の目標の実現を図るようにすること。

イ 各学年とも, 2の「(1)言語活動」のうち, 特に聞くこと及び話すことの言語活動に重点をおいて指導すること。

ウ 2の「(3)言語材料」については, 学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導するとともに, 理解の段階にとどめたり表現の段階まで高めたりするなどして効果的に指導すること。

エ 音声指導に当たっては, 聞くこと及び話すことを重視する観点から発音練習などを通して2の(3)の「ア音声」に示された言語材料を継続して指導すること。

また, 音声指導の補助として, 必要に応じて発音表記を用いて指導することもできること。

オ 文字指導に当たっては, 生徒の学習負担に配慮し筆記体を指導することもできること。

カ 語, 連語及び慣用表現の指導に当たっては, 運用度の高いものを厳選し, 習熟を図るようにすること。

キ 辞書の初歩的な使い方に慣れ, 必要に応じて活用できるようにすること。

ク 生徒の実態や教材の内容に応じて, コンピュータや情報通信ネットワーク, 教育機器などの有効活用やネイティブ・スピーカーなどの協力を得ることなどに留意すること。

また, 学習形態などを工夫し, ペアワーク, グループワークなどを適宜取り入れること。

(2) 教材は、英語での実践的コミュニケーション能力を育成するため、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、英語を使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史などに関するものの中から、生徒の心身の発達段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮する必要がある。

ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

イ 世界や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

別表 1

a about across after all am among
 an and another anyone anything are as
 at because before between both but by
 can could do down during each
 either everyone everything for from has
 have he her hers him his how if
 in into is it may me mine must
 my near nothing of off on one
 or other our ours over shall she
 should since so someone something than
 that the their them then these they
 this those through to under until (till) up us
 we what when where which who
 whose why will with without would you
 your yours

その他の外国語

その他の外国語については、英語の目標及び内容等に準じて行うものとする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 必修教科としての「外国語」においては、英語を履修させることを原則とする。

2 選択教科としての「外国語」においては、生徒の特性等に応じ多様な学習活動が展開できるよう、第2の内容その他の内容で各学校が定めるものについて、課題学習、コミュニケーション能力の基礎を培う補充的な学習、発展的な学習などの学習活動を各学校において適切に工夫して取り扱うものとする。

一部抜粋

資料 1-5

平成 19 年度

全国学力・学習状況調査
報告書

2008年2月

金沢市教育委員会

はじめに

平成19年度全国学力・学習状況調査が全国規模として43年ぶりに、平成19年4月24日に実施されました。この調査の趣旨は、平成17年10月26日の中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」の提言にあるように、義務教育の構造を改革して、その質の保証・向上を図っていくことにあります。教育委員会、各学校等においては全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図ることが求められています。

本市の調査結果によれば、小学校6年、中学校3年の国語、算数・数学のいずれにおいても全国の平均正答率を上回る結果でした。これは、本市が推進している「学校教育金沢モデル」の「学校2学期制」による授業時数確保や「学習指導基準金沢スタンダード」による学習内容の充実等が一定の成果に結びついたと考えられますが、何よりも「学校教育金沢モデル」に基づいて、各学校が地道に授業の改善に努めてきた成果でもあると考えます。しかし、一方で全国と同様に児童生徒の知識や技能を活用する力が、まだ十分に身に付いていないことが課題として明らかになりました。

本報告書は、教科調査結果の内容を分析し、課題や改善に向けたポイントを示すとともに、教育施策や日常の学習指導の改善・充実のために児童生徒質問紙、学校質問紙の分析内容等をまとめたものです。調査結果は学力の一部を測定したものであり、分析もその結果に基づいていることに留意することは必要ですが、重要なことは明らかになった課題をいかに改善していくかであると考えます。

各学校においては、学力向上を目指し、先に配付した「金沢市立小中学校学力向上の取組」の冊子とあわせて、本報告書を活用いただき、指導力の向上を図るとともに、創意工夫を生かした授業が実践されることを期待します。

平成20年2月

金沢市教育委員会
教育長 右原 多賀子

平成19年度 全国学力・学習状況調査 報告書

目次

1. 調査の概要		
(1) 調査の目的	1	- 32 -
(2) 調査の対象[対象学年人数]	1	
(3) 調査事項及び手法	1	
(4) 調査日時	1	
(5) 調査結果の解釈等に関する留意事項	2	- 33 -
2. 教科に関する調査結果		
(1) 小学校第6学年 国語	3	- 34 -
(2) 小学校第6学年 算数	9	- 40 -
(3) 中学校第3学年 国語	15	
(4) 中学校第3学年 数学	21	
(5) 国、県、中核市等の状況	27	
(6) 学校の状況	28	- 41 -
(7) 「知識A」と「活用B」の相関	32	- 45 -
(8) 金沢スタンダードに関連する問題の状況	33	- 46 -
3. 質問紙調査の結果		
(1) 児童生徒質問紙	34	- 47 -
・ 小学校	36	- 49 -
・ 中学校	69	- 55 -
・ 小中学校の差異	100	- 57 -
(2) 学校質問紙	104	
・ 小学校	104	
・ 中学校	112	- 59 -
・ 小中学校の差異	120	
※参考図書一覧[国、県が出した報告書等の一覧]	124	

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

①対象学年

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象に実施した。

【小学校調査】

・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

・中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

②本市の対象児童生徒数

・小学校：59校 3,893人 ・中学校：24校 3,703人

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

【国語A、算数・数学A】

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題

【国語B、算数・数学B】

・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施した。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法等に関する取組や学校における人的物的な教育条件の整備の状況及び児童生徒の体力運動能力の全体的な状況等に関する質問紙調査を実施した。

(4) 調査日時

平成19年4月24日（火）

【小学校調査】

1時限目(45分)	2時限目(45分)	3時限目(45分)	4時限目(45分)
国語A(20分) 算数A(20分)	国語B(40分)	算数B(40分)	児童質問紙(40分)

【中学校調査】

1時限目(50分)	2時限目(50分)	3時限目(50分)	4時限目(50分)	5時限目(50分)
国語A(45分)	国語B(45分)	数学B(45分)	数学B(45分)	生徒質問紙(45分)

(5) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況を把握することを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要である。本調査の結果においては、国語A・B、算数・数学A・Bごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみでは必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフなど他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握、分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることが重要である。なお、児童生徒に対する質問紙調査の結果と教科に関する調査の結果とのクロス集計に関しては、必ずしも因果関係を示したものではないことに留意することが必要である。

<用語説明>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中にくる値。 平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。 分布が正規分布になっていると仮定すると、「平均±標準偏差」の間に全体の約70%のデータが含まれる。 なお、P3～P26の標準偏差は、各教科の正答設問数についてのものである。
解答類型	各設問についての正答、予想される誤答などの解答状況を分類し整理したもの。

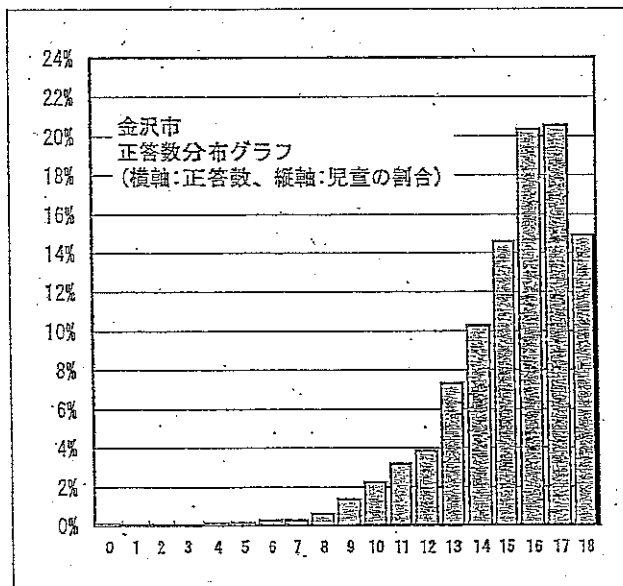
2. 教科に関する調査の結果

(1) 小学校6学年 国語

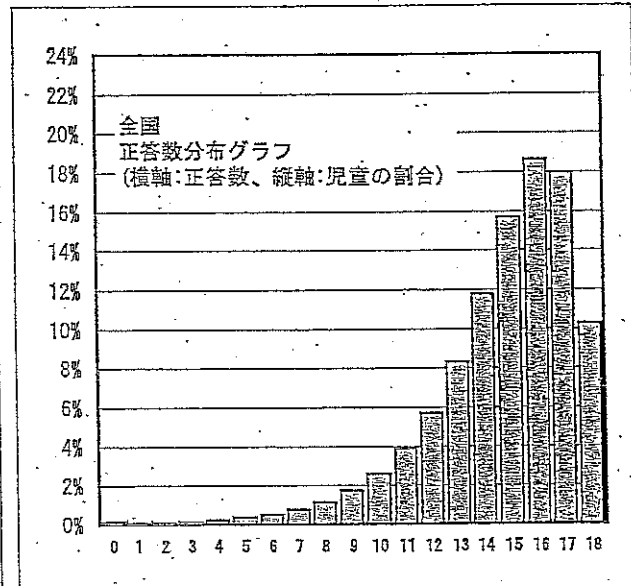
- 国語A(知識)について、金沢市の児童の平均正答率は85.0%であり、全国を3.3ポイント上回っている。全国と比べて、上位層が多く、下位層が少ない分布となっている。
- 国語B(活用)について、金沢市の児童の平均正答率は67.0%であり、全国を5.0ポイント上回っている。全国と比べて、上位層が多く、下位層が少ない分布となっている。

国語A

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
金沢市	15.3/18問	85.0%	16.0問	2.4

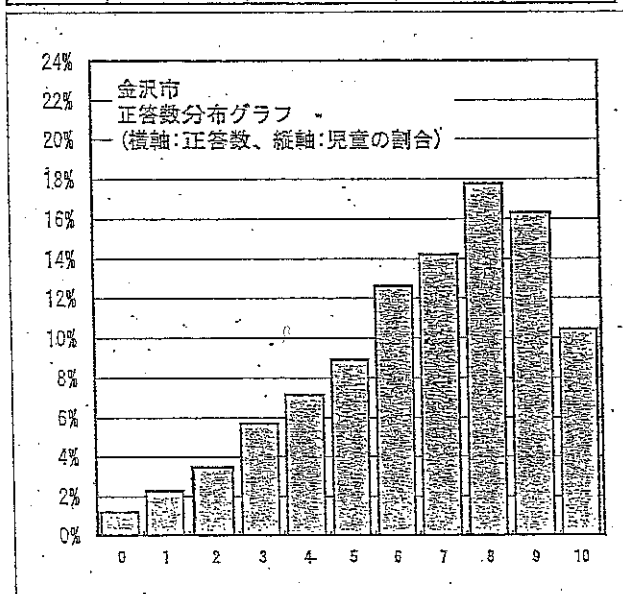


	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国	14.7/18問	81.7%	15.0問	2.8

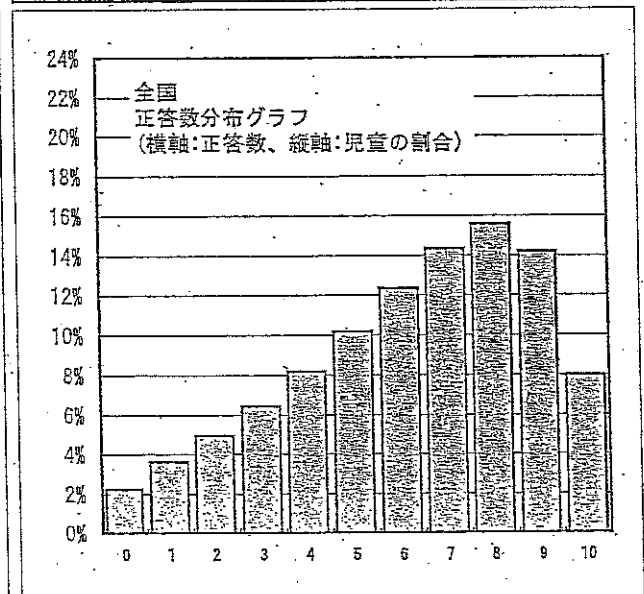


国語B

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
金沢市	6.7/10問	67.0%	7.0問	2.4



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国	6.2/10問	62.0%	7.0問	2.6



○国語A（知識）については、正答率が80%以上の設問数は、全国同様に金沢市も12問である。正答率が60%未満の設問数は、全国は4問であるが、金沢市は0問である。

○国語B（活用）については、正答率が70%以上の設問数は、全国同様に金沢市も3問である。正答率が80%以上の設問数は、全国は0問であるが、金沢市は2問である。

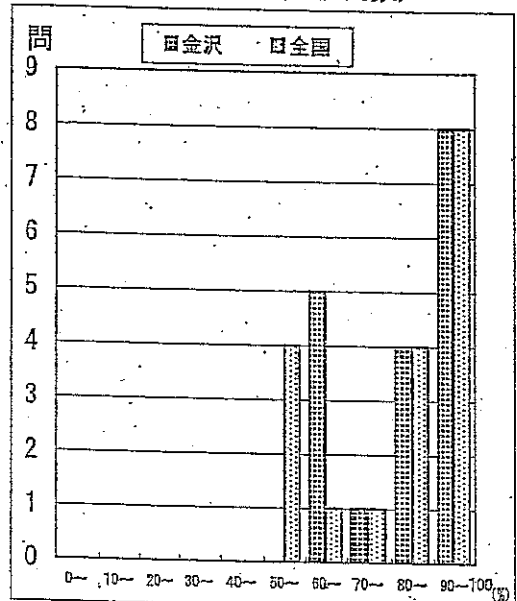
国語A

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)	
			金沢市	全国
学習 指導 要領 の領域	話すこと・聞くこと	2	56.6	56.6
	書くこと	1	85.3	85.3
	読むこと	3	67.3	67.3
	言語事項	13	86.8	86.8
評価 の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	74.7	74.7
	話す・聞く能力	2	56.6	56.6
	書く能力	1	85.3	85.3
	読む能力	3	67.3	67.3
問題 形式	言語についての知識・理解・技能	13	86.8	86.8
	選択式	10	81.6	81.6
	短答式	8	81.8	81.8
	記述式	0		

正答率別問題数

(横軸:正答率、縦軸:設問数)



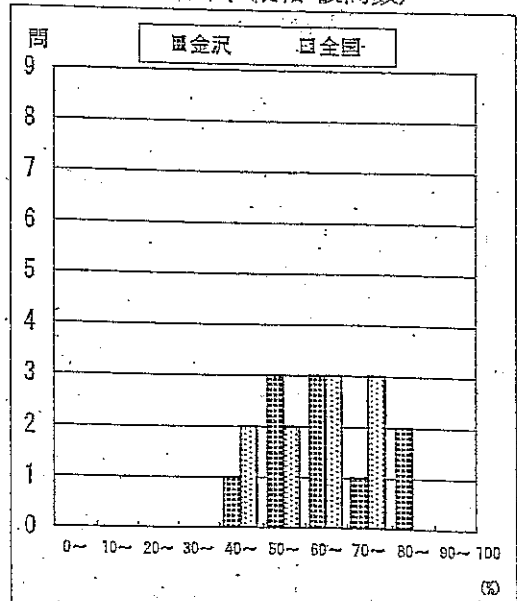
国語B

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)	
			金沢市	全国
学習 指導 要領 の領域	話すこと・聞くこと	2	70.9	70.9
	書くこと	4	61.7	61.7
	読むこと	7	57.7	57.7
	言語事項	1	77.0	77.0
評価 の 観点	国語への関心・意欲・態度	4	66.3	66.3
	話す・聞く能力	2	70.9	70.9
	書く能力	4	61.7	61.7
	読む能力	7	57.7	57.7
問題 形式	言語についての知識・理解・技能	1	77.0	77.0
	選択式	1	62.8	62.8
	短答式	4	62.4	62.4
	記述式	5	62.1	62.1

正答率別問題数

(横軸:正答率、縦軸:設問数)



国語A 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			金沢市		全国	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1- (1)	漢字を読む(リーダーとして勝利に導く)	学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を正しく読む				○					○	○				95.2	1.8
1- (2)	漢字を読む(話し合いを重ねる)					○					○	○				96.2	1.3
1- (3)	漢字を読む(責任をもつ)					○					○	○				97.1	1.3
1二 (1)	漢字を書く(みんなできょうりよくする)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く				○					○	○				94.3	1.7
1二 (2)	漢字を書く(先生にそうだんする)					○					○	○				58.0	7.7
1二 (3)	漢字を書く(魚をさく)					○					○	○				70.7	4.6
2- (1)	文脈に適した接続語を選択する(順接)	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を正しく使う				○					○	○				98.6	0.2
2二	文脈に適した接続語を選択する(添加)					○					○	○				98.3	0.2
2三	文脈に適した接続語を選択する(逆接)					○					○	○				99.1	0.2
3- (1)	指示語の指し示す内容を選択する(語句)	指示語の種類や役割を押さえた上で、文脈の中における働きを理解している				○					○	○				92.6	0.3
3二	指示語の指し示す内容を選択する(内容)					○					○	○				88.5	0.4
4	漢字辞典の効率よい調べ方を選択する	調べたい事柄について、辞書を効率よく利用する				○	○				○	○				81.2	0.4
5	一文を二文に分けて書く	物語の主人公について一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換える				○	○				○	○				57.8	4.4
6	インタビューのメモの工夫を選択する	話の要点を聞き取り、効率よくメモを取る	○					○	○			○				57.5	0.6
7	スピーチでの聞き手に分かりやすい話し方を選択する	聞き手にとって分かりやすいスピーチにするために大切なことを理解している	○					○				○				55.7	0.8
8	べっこうあめ作りの感想を、作り方の説明書にする	目的や様式に応じて必要な事柄を選んで、文章を書き換える				○		○	○			○				85.3	3.5
9	説明文の一部を読んで、内容に合うものを選択する	説明文の段落の内容をとらえる				○					○	○				81.0	2.9
10	物語の一部を読んで、登場人物の心情として適切なものを選択する	物語文の登場人物の心情について、表現や叙述に即して読む				○					○	○				63.1	4.2

国語B 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		金沢市		全国			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)	
1-1	話し合いの内容を整理した司会者の発言を書く	司会者として発言者の提案を聞き、内容を整理する	○					○				○					62.9	4.9
1-2	司会者の進行の良いところを書く	司会者として発言者の意見や提案を受け止め、出席者が納得いくように進行する	○					○	○			○					79.0	6.9
2-1	グラフを読み取り、文章中の空欄に適切な数字をあてはめる	文章とグラフにまとめられた事実を関係付けて読む			○					○		○					60.8	2.2
2-2	古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く	取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての確に読み、その理由を要約する		○	○				○	○		○					45.4	4.0
2-3(1)	古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く	情報の中から必要な事柄を取り出し、新聞の一部に注意点として書き換える		○	○					○		○					49.0	11.5
2-3(2)	ごみを減らすための取り組みを考えて80字以上120字以内で書く	自分の考えを決められた字数で、記事として具体的に提案する		○	○			○	○			○					75.2	10.4
3-1(1)	同じ本を読んで書いた2人の感想文から、共通する書き方の良いところを書く	二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめる			○			○				○					55.9	13.2
3-1(2)					○			○				○					54.9	17.5
4-1	広告の情報を読み取って、正しい内容を選択する	広告の情報を的確に読み取り、正しく説明する			○					○		○					62.8	6.7
4-2	客に対する勧誘の表現を適切に改めて書く	客に対する勧誘の表現や敬意表現を適切に用いる		○	○				○	○		○					77.0	9.4

○全体を通して

- ・正答率は、全設問において、全国を上回っている。
- ・無解答率は、全設問において、全国に比べて低い。
- ・学習指導要領の領域ごとの正答率は、全て全国を上回っている。
- ・学習指導基準金沢スタンダードに取り上げられている設問の正答率は、全て全国を上回っている。

○課題等

話すこと・聞くこと

- ◆(A) 話し方に関する知識（聞き手の反応を確かめながら話すこと）や聞き方に関する知識（要点をメモに取りながら聞くこと）の理解に課題がある。

書くこと

- ◇(A,B) 文章の中から必要な言葉を選んで内容を整理することや、学習指導基準金沢スタンダードに取り上げられている、自分の考えを明確にした文を書くことは、相当数の児童ができている。
- ◆(B) 説明文で述べている事柄の理由を要約すること、資料から必要な事柄を取り出して与えられた条件に即して書き換えることに課題がある。

読むこと

- ◆(A) 物語の登場人物の関係を押さえて心情を把握することに課題がある。
- ◆(B) 文章の内容と資料の情報とを関係付けて正しく読み取ることに課題がある。
- ◆(B) 二つの文章の共通点を評価し、自分の考えをまとめることに課題がある。

言語事項

- ◇(A) 接続語の使い方、指示語が示す内容について、相当数の児童が理解している。
- ◆(A) 文の構成を理解して、1文を2文に書き換えることに課題がある。

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点 ()内の記号は、A=国語A、B=国語B

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

○具体的な言語活動を通して、話すこと・聞くことについての知識・技能の定着を図る指導の重視

- ・聞き手の反応を確かめながら話し方を調整するなどの具体的な言語活動を通して、話すこと（スピーチの仕方など）についての知識・技能の定着を図ることが大切である。
- ・学習指導基準金沢スタンダードに基づき、話の要点を箇条書きにするなどの具体的な言語活動を通して、聞くこと（メモの取り方など）についての知識・技能の定着を図ることが大切である。

書くこと

○文章を要約したり、条件に即して書き換えたりする言語活動の充実

- ・理由を説明するために、本文から必要な情報を取り出し、要約する言語活動を充実することが大切である。
- ・自分の考えを明確にした意見文などを書くという学習指導基準金沢スタンダードに加え、字数や表現様式などの与えられた条件に即して文章を書き換える言語活動を一層重視することが大切である。

読むこと

○物語の登場人物の関係を押さえて心情を把握する言語活動の充実

- ・物語の構造を押さえ、登場人物相互の関係を把握する言語活動を通して、登場人物の心情や性格、考え方などをとらえるようにすることが大切である。

○文章の内容と資料の情報とを関係付ける言語活動の充実

- ・文章とグラフ・図などを含む題材を取り上げ、文章の内容と資料の情報とを関係付けながら的確に読む言語活動を充実することが大切である。

○文章を比べて読み、観点に沿って自分の考えを書く言語活動の充実

- ・複数の文章や資料を取り上げ、観点を設定して比べて読む言語活動を充実することが大切である。
- ・観点に沿って大事なことを取り出し、気付いたことや考えたことを簡潔にまとめる言語活動を充実することが大切である。

言語事項

○文の構成についての理解の定着を図る指導の重視

- ・文章中の文を取り上げ、2つの内容を1つの文にまとめたり、1つの文を内容ごとに分けて書き換えたりする言語活動などを通して、文の構成についての理解の定着を図ることが大切である。

2. 教科に関する調査の結果

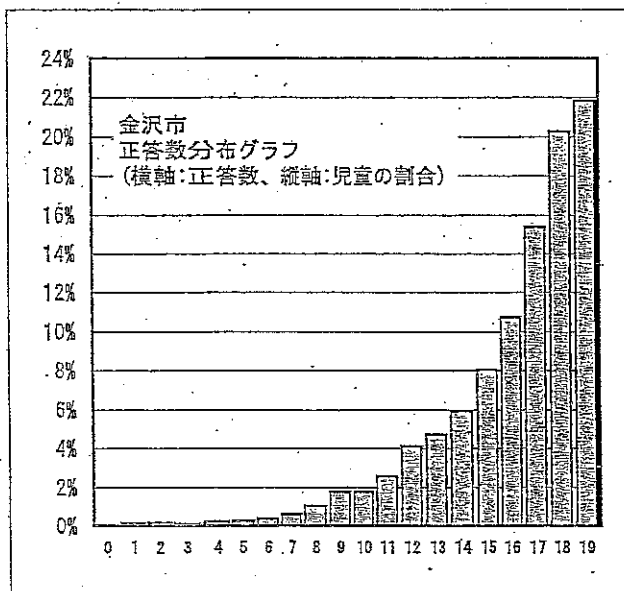
(1) 小学校6学年 算数

○算数A(知識)について、金沢市の児童の平均正答率は84.7%であり、全国を2.6ポイント上回っている。全国と比べて、上位層が多く、下位層が少ない分布となっている。

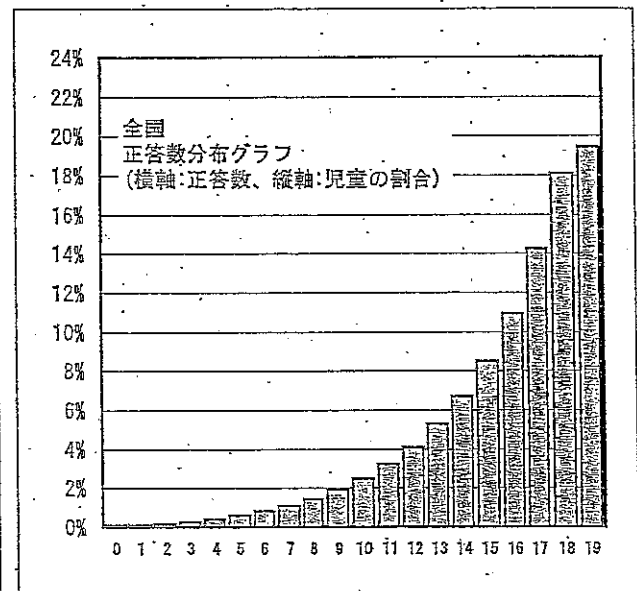
○算数B(活用)について、金沢市の児童の平均正答率は63.6%であり、全国を2.1ポイント上回っている。全国と比べて、上位層が多く、下位層が少ない分布となっている。

算数A

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
金沢市	16.1/19問	84.7%	17.0問	3.1

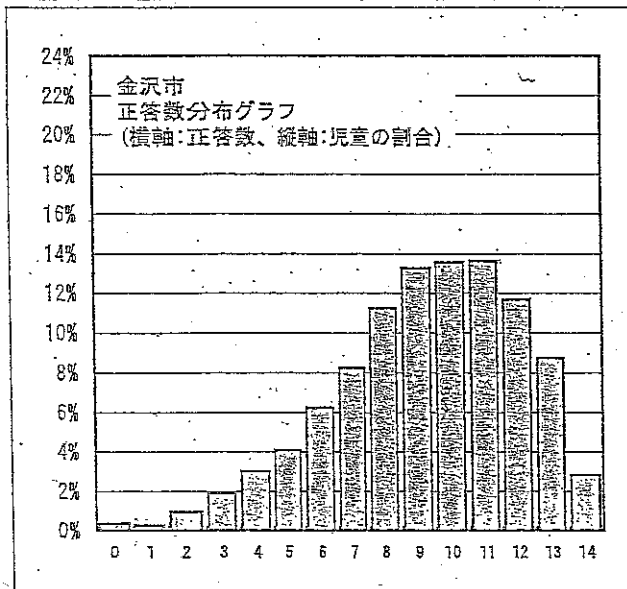


	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国	15.6/19問	82.1%	17.0問	3.4

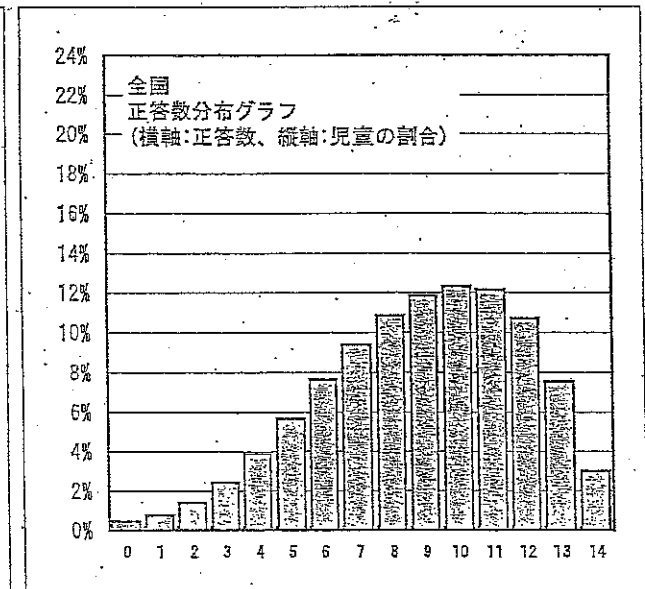


算数B

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
金沢市	9.2/14問	65.7%	10.0問	2.8



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国	8.9/14問	63.6%	9.0問	3.0



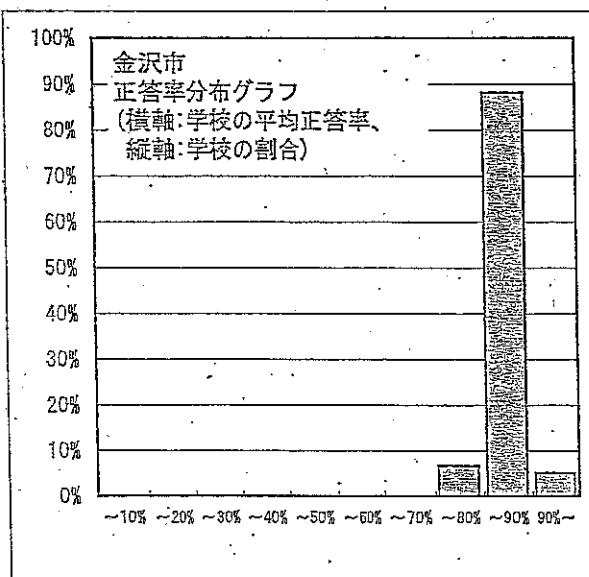
(6) 学校の状況

【小学校】国語

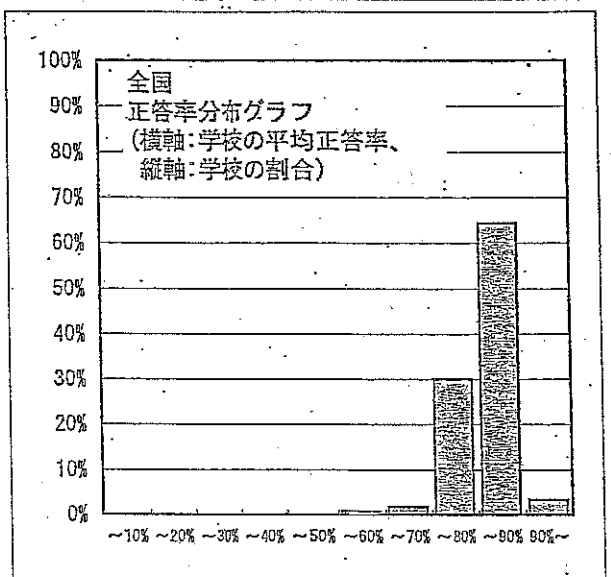
- A (知識)については、平均正答率80%以上の学校数の割合が、全国は70%に満たないのに対して、金沢市は約90%である。
- B (活用)については、平均正答率70%以上の学校数の割合が、全国は20%に満たないのに対して、金沢市は約40%である。
- ばらつきについては、A (知識)もB (活用)も全国に比べてばらつきが小さい。

国語A

金沢市	平均正答数	平均正答率
59校	15.3/18問	85.0%

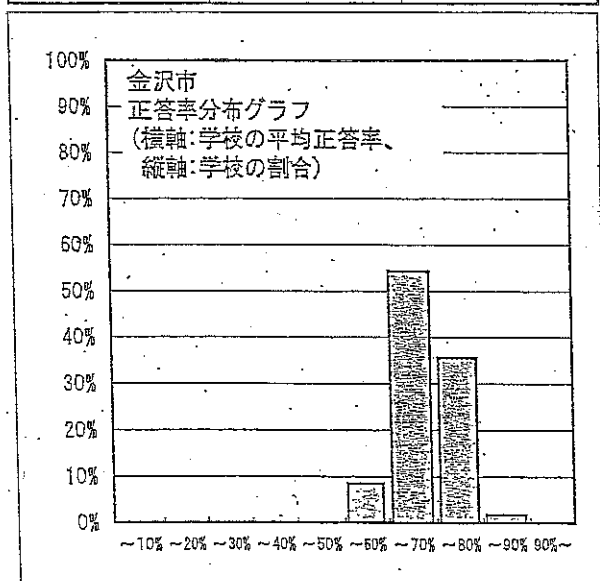


全国	平均正答数	平均正答率
22,071校	14.7/18問	81.7%

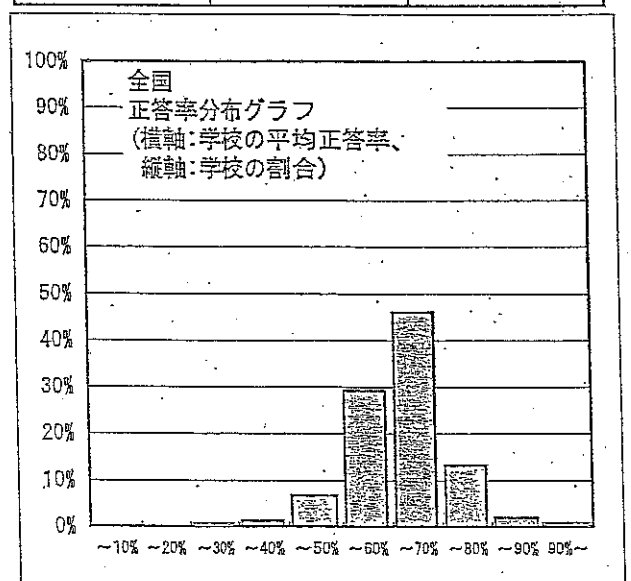


国語B

金沢市	平均正答数	平均正答率
59校	6.7/10問	67.0%



全国	平均正答数	平均正答率
22,067校	6.2/10問	62.0%



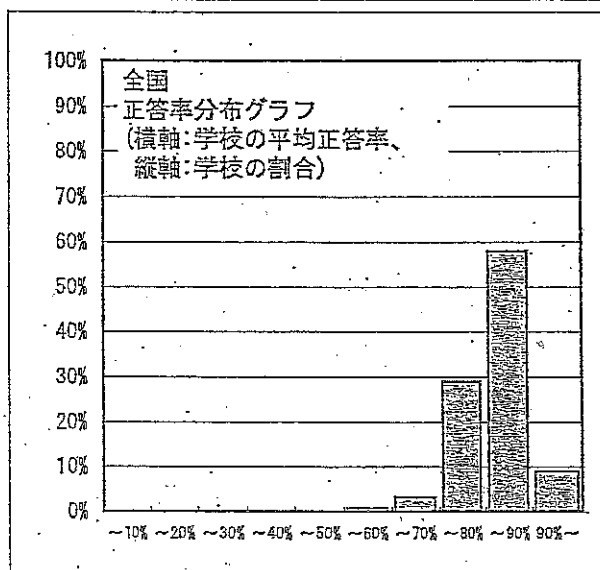
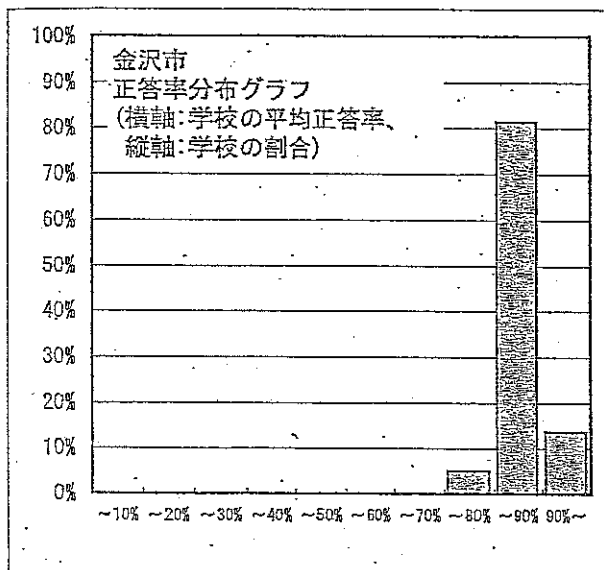
【小学校】算数

- A (知識)については、平均正答率80%以上の学校数の割合が、全国は70%に満たないのに対して、金沢市は約90%である。
- B (活用)については、平均正答率70%以上の学校数の割合が、全国は15%に満たないのに対して、金沢市は約25%である。
- ばらつきについては、A (知識)もB (活用)も全国に比べて、金沢市はばらつきが小さい。

算数A

金沢市	平均正答数	平均正答率
59校	16.1/19問	84.7%

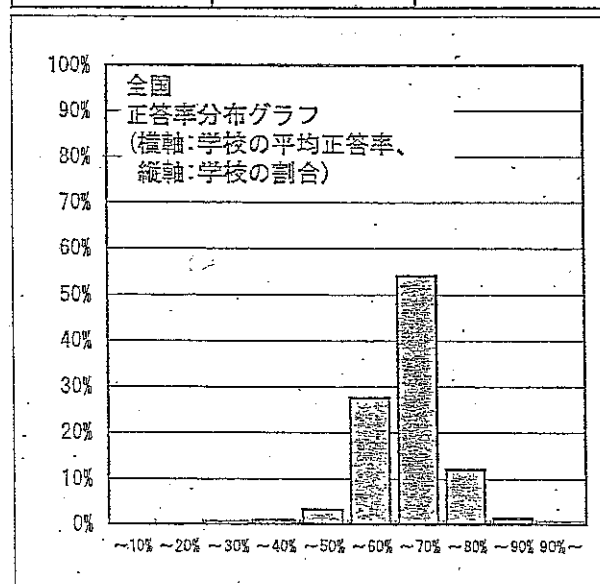
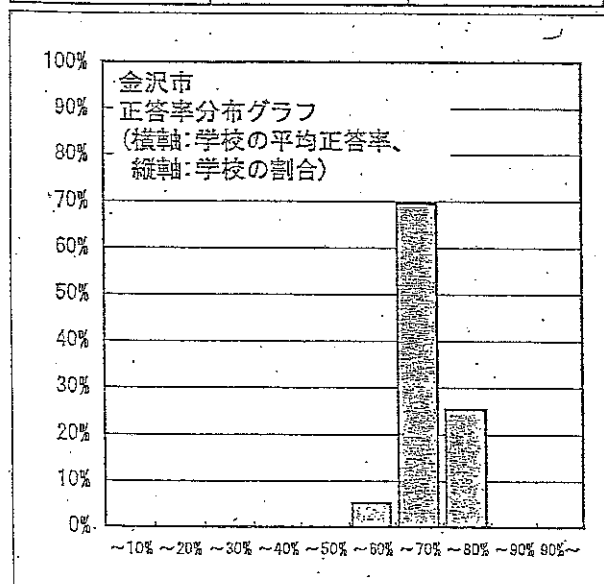
全国	平均正答数	平均正答率
22,071校	15.6/19問	82.1%



算数B

金沢市	平均正答数	平均正答率
59校	9.2/14問	65.7%

全国	平均正答数	平均正答率
22,068校	8.9/14問	63.6%



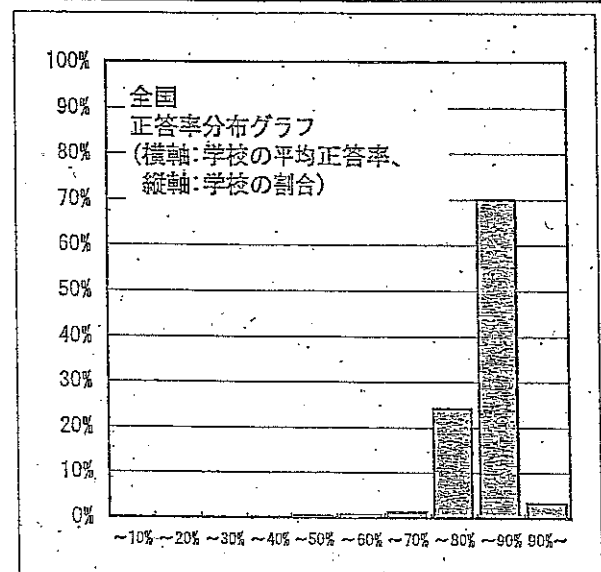
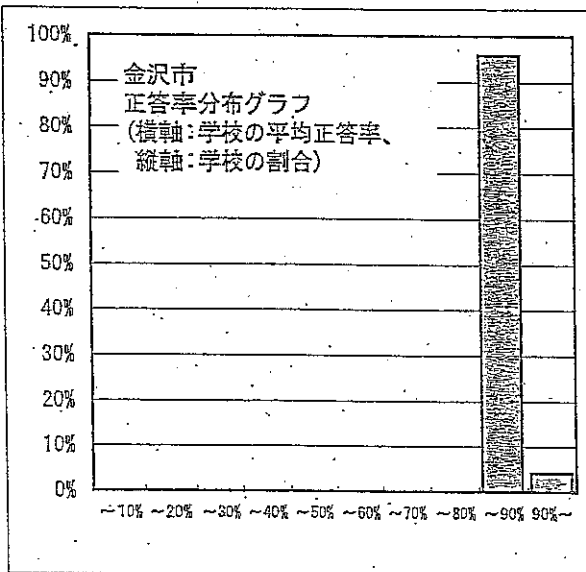
【中学校】国語

○A (知識)については、平均正答率80%以上の学校数の割合が、全国は約70%であるが、金沢市は100%である。
 ○B (活用)については、平均正答率70%以上の学校数の割合が、全国は70%に満たないのに対して、金沢市は約95%である。
 ○ばらつきについては、A (知識)もB (活用)も全国に比べて、金沢市はばらつきが小さい。

国語A

金沢市	平均正答数	平均正答率
24校	31.2/37問	84.3%

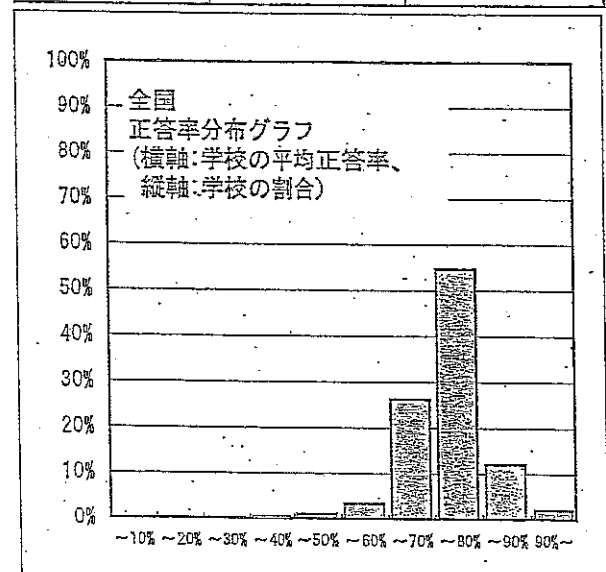
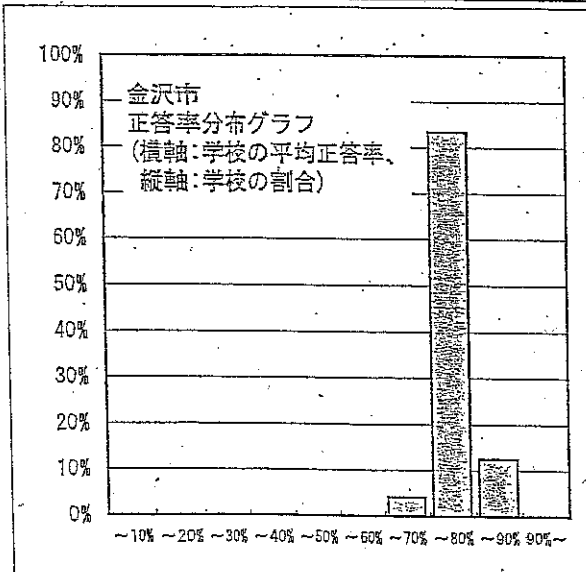
全国	平均正答数	平均正答率
10,535人	30.2/37問	81.6%



国語B

金沢市	平均正答数	平均正答率
24校	7.7/10問	77.0%

全国	平均正答数	平均正答率
10,532校	7.2/10問	72.0%

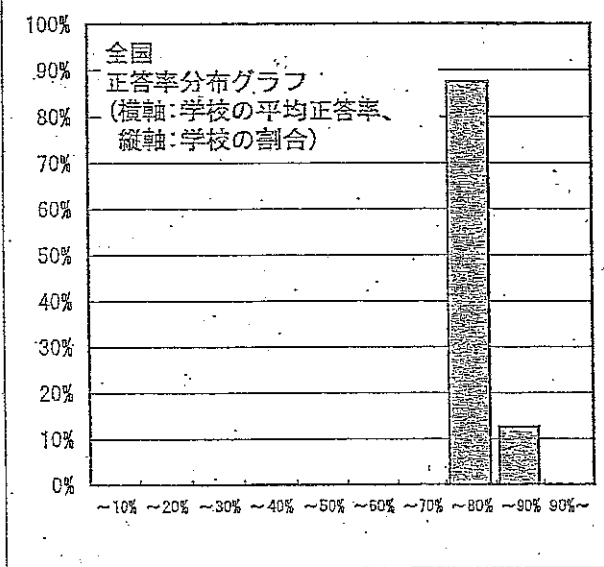


【中学校】数学

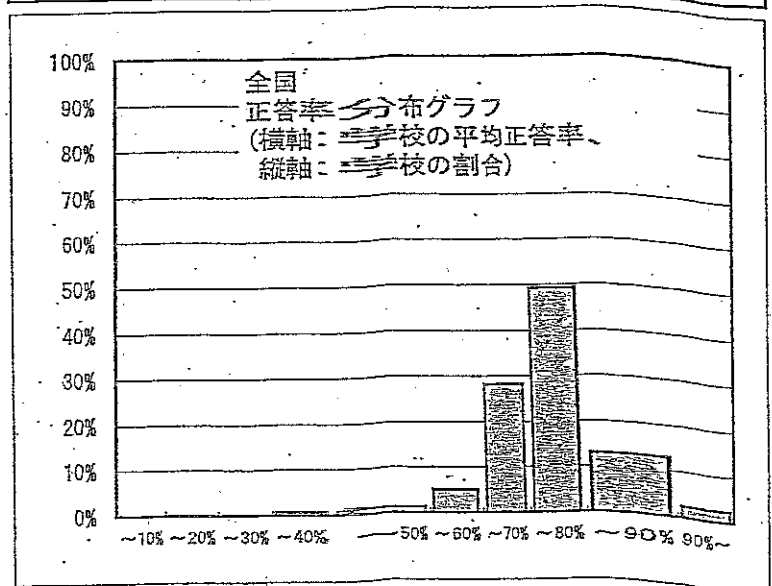
- A (知識)については、平均正答率70%以上の学校数の割合が、全国は約65%であるが、金沢市は100%である。
- B (活用)については、平均正答率60%以上の学校数の割合が、全国は約60%であるが、金沢市は約95%である。
- ばらつきについては、A (知識)もB (活用)も全国に比べて、金沢市はばらつきが小さい。

数学A

金沢市	平均正答数	平均正答率
24校	27.5/36問	76.4%

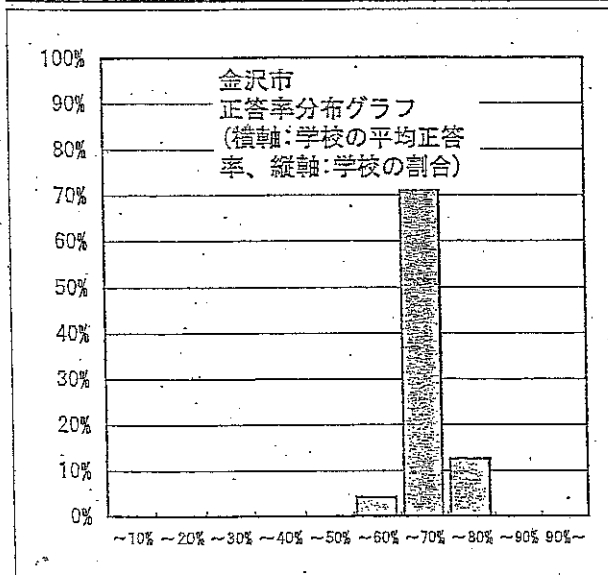


全国	平均正答数	平均正答率
10,533校	25.9/36問	71.9%

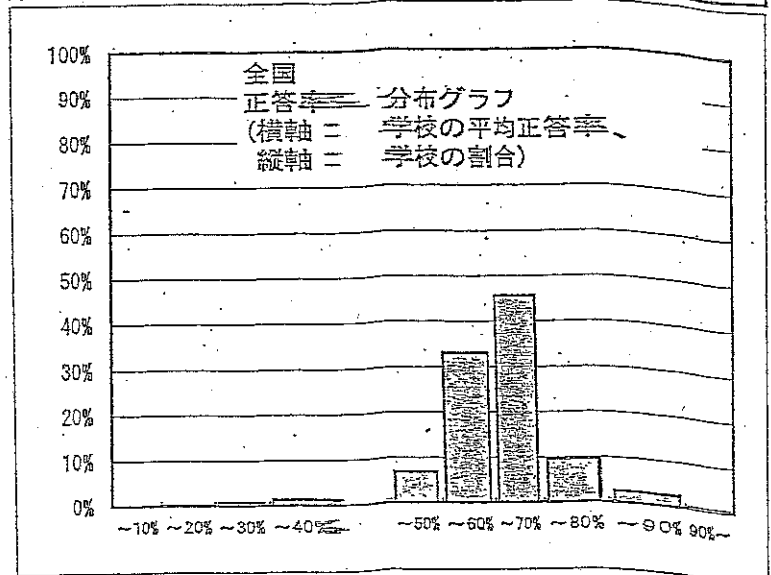


数学B

金沢市	平均正答数	平均正答率
24校	11.3/17問	66.5%



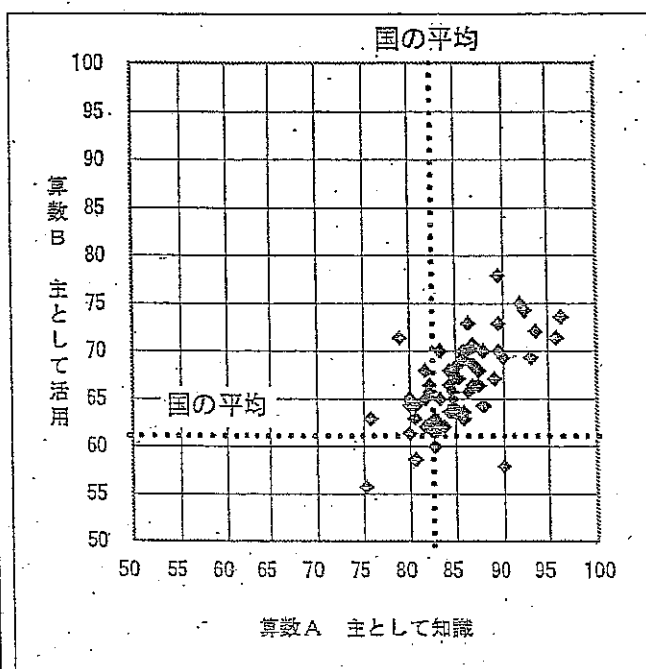
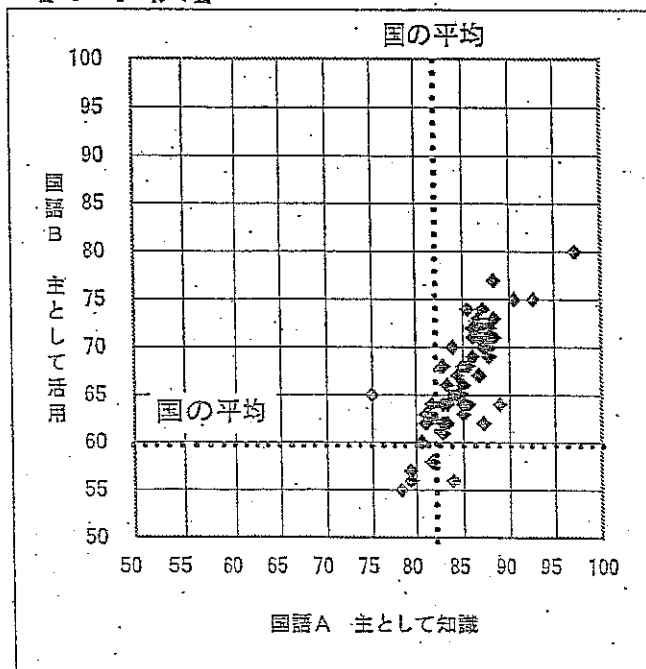
全国	平均正答数	平均正答率
10,526校	10.3/17問	60.6%



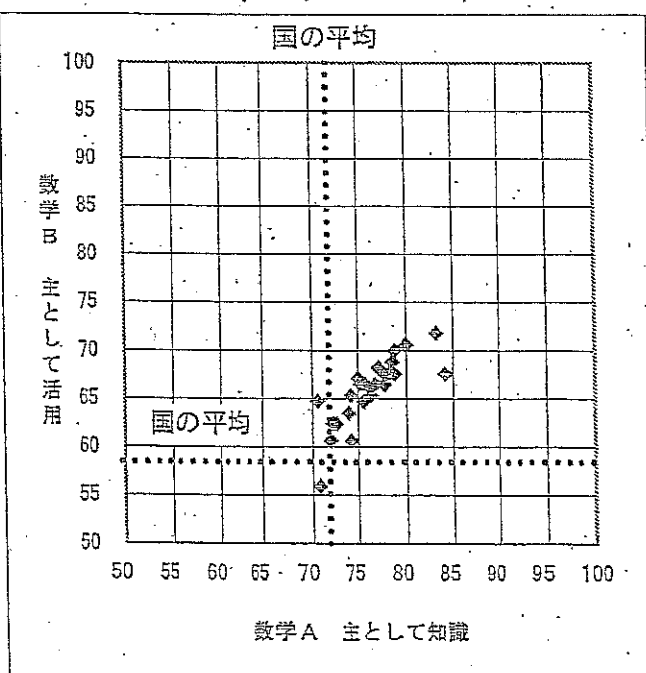
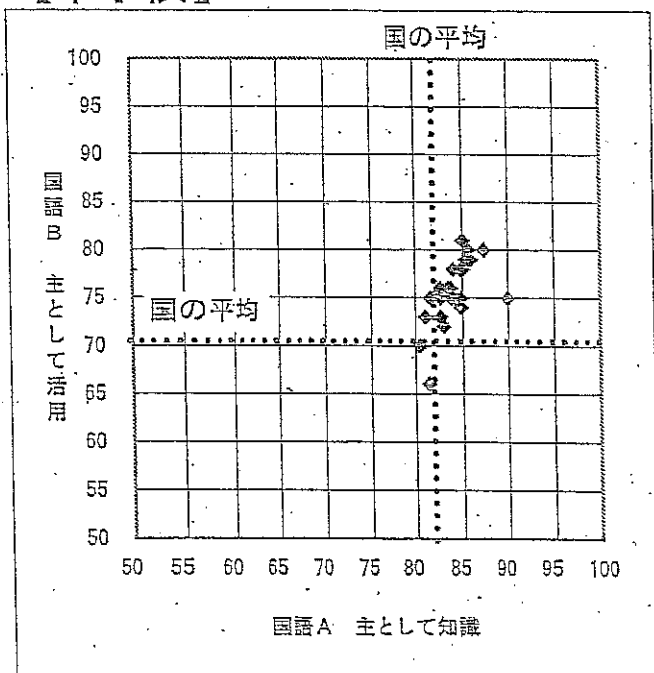
(7) 「A問題：主として知識」「B問題：主として活用」の相関

○国語及び算数・数学において、「A問題：主として知識」の平均正答率が高い学校は、「B問題：主として活用」の平均正答率も高い傾向が見られる。

【小学校】



【中学校】



※◆は、各学校の「国語A」「国語B」「算数・数学A」「算数・数学B」の平均正答率を示す。

※点線は、国の平均正答率を示す。

(8) 学習指導基準金沢スタンダードに関連する問題の状況

○出題設問全 161 問中、学習指導基準金沢スタンダードに関連する設問が 20 問出題され、20 問すべてで全国の正答率を 2.3~9.3 ポイント上回った。

【小学校】

調査種別	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
				金沢市	全国	差
国語A	6	インタビューのメモの工夫を選択する	話の要点を聞き取り，効率よくメモを取る	66.3	57.5	+8.8
国語B	2三 (2)	ごみを減らすための取り組みを考えて80字以上120字以内で書く	自分の考えを決められた字数で，記事として具体的に提案する	78.9	75.2	+3.7
算数A	2	正方形の面積の2/3が塗られている図を選ぶ	分数の意味について理解している	92.8	89.3	+3.5
算数A	4	210×0.6 の式で答えが求められる問題を選ぶ	小数の乗法の意味について理解している	57.0	54.1	+2.9

【中学校】

調査種別	設問番号	設問概要	出題の趣旨	正答率(%)		
				金沢市	全国	差
国語A	8五	文字を読みやすくするための改訂点を選択する	文字の大きさや配列・配置を考えて書く	87.1	83.5	+3.6
国語A	8六	「枕草子」の冒頭を書く	代表的な古典に親しんでいる	93.6	88.0	+5.6
国語A	8八 ア	適切な敬語を選択する(尊敬語)	生活の場面で敬語を適切に使う	96.8	93.8	+3.0
国語A	8八 イ	適切な敬語を選択する(謙譲語)	生活の場面で敬語を適切に使う	91.7	89.4	+2.3
国語B	2二 アイ	「蜘蛛の糸」の一部分を朗読する場合の適切な工夫を選択する	作品の展開や心情の変化に着目して朗読する	75.1	68.5	+6.6
国語B	3三	中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し，違いを説明する	資料に表れているものの見方や考え方を，伝えたい事柄や考えを明確にして書く	45.8	42.6	+3.2
数学A	3 (3)	数量の関係を連立二元一次方程式で表す	数量の関係をとらえ，連立二元一次方程式を立式することができる	76.2	70.4	+5.8
数学A	5 (4)	円柱と円錐の体積を比較し，正しい図を選ぶ	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	45.8	36.5	+9.3
数学A	9 (2)	比例のグラフから式を求める	比例のグラフから式を求めることができる	70.5	66.9	+3.6
数学A	10 (2)	反比例のグラフを選ぶ	反比例の関係を表すグラフの特徴を理解している	72.1	67.9	+4.2
数学A	12 (1)	一次関数のグラフ(時間と道のりの関係を表したグラフ)から速さを求める	速さの求め方を理解している	80.2	74.9	+5.3
数学A	12 (2)	一次関数のグラフ(時間と道のりの関係を表したグラフ)から速さを求める	グラフから速さを求めることができる	67.5	61.0	+6.5
数学A	14 (1)	確率を表した事象を選ぶ	確率の意味について理解している	55.9	49.2	+6.7
数学B	1 (3)	レストランのセットメニューの注文を，条件に合うかを考え，その理由を説明する	筋道を立てて考えることが，数学的な表現を用いて説明することができる	61.2	52.9	+8.3
数学B	2 (2)	連続する5つの自然数の和が5の倍数になることを説明する	ものごとを発展的に考えることができる	47.6	40.9	+6.7
数学B	5 (3)	水温が80℃になる時間を求める方法を説明する	問題解決の方法を数学的に説明することができる	46.6	38.7	+7.9

3. 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒質問紙

○過去に行った他の調査との比較については、平成14年度金沢市教育課程実施状況調査(国立教育政策研究所の「平成13年度教育課程実施状況調査を活用」と平成16年度金沢市教育課程実施状況調査(国立教育政策研究所の「平成15年度教育課程実施状況調査を活用」)を使用している。

	対 象 人 数	
	小学校	中学校
平成14年度金沢市教育課程実施状況調査 (平成14年5月24日実施)	約1,200人	約1,300人
平成16年度金沢市教育課程実施状況調査 (平成16年5月26日実施)	約1,350人	約1,500人

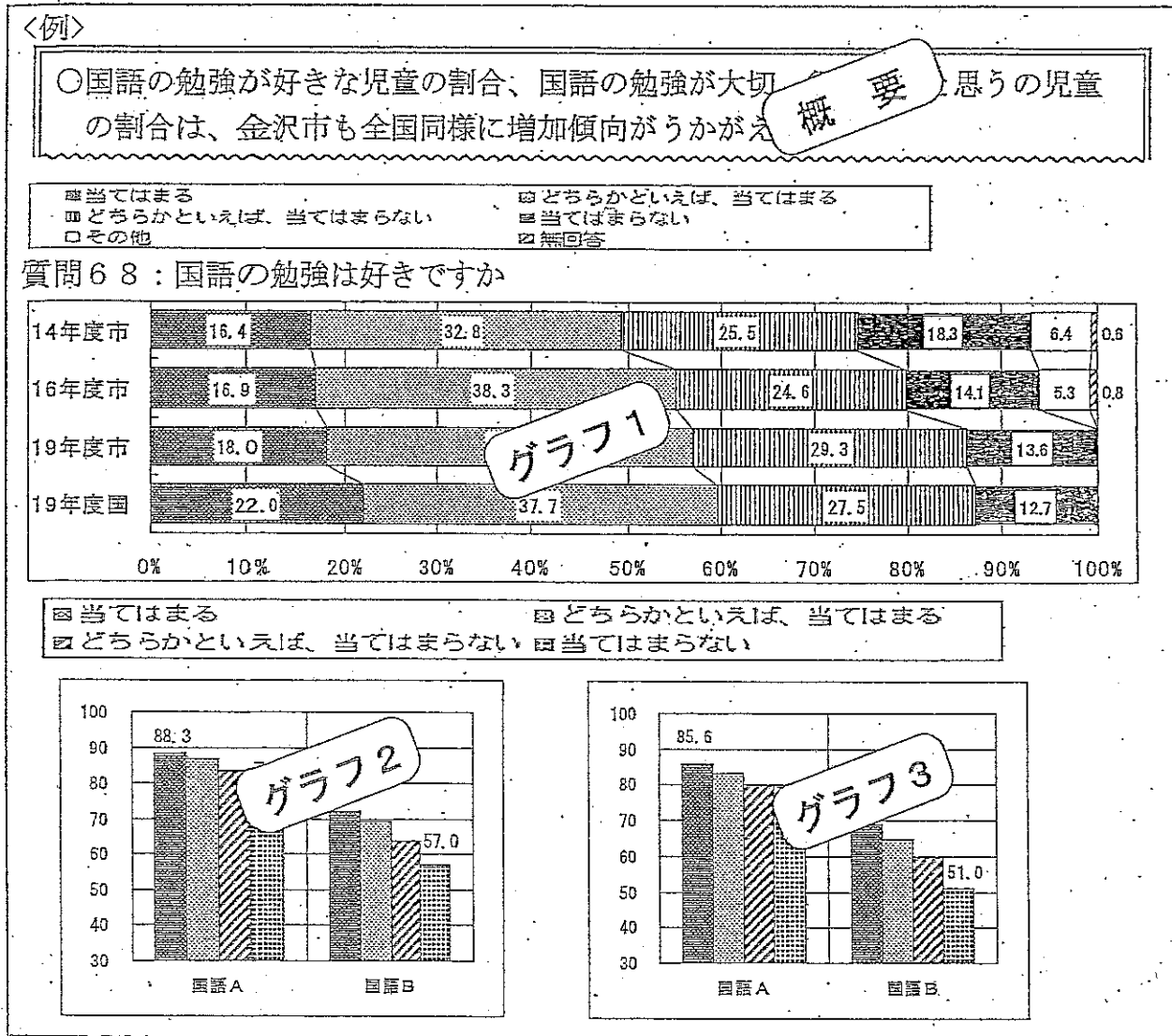
※金沢市立小中学校に在籍する児童生徒のそれぞれ3割程度を抽出して実施した。

※選択肢の「わからない」は、本書の中では「その他」として集計した。

○学力との相関関係の分析については、教科に関する調査における児童の正答率とのクロス集計の結果を使用している。

○児童生徒質問紙調査結果については、国の方法に準じて集計分析を行った。しかし、国の集計分析の仕方が示されていないものや、本市に関する集計データが提供されていないために分析が不可能なものについては行わなかった。

<児童生徒質問紙 - 学校質問紙における「概要」と「グラフ」の説明>



○概要では、「国語の勉強が好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した割合の傾向や全国との比較を述べている。

○グラフ1では、「国語の勉強は好きですか」という質問に対しての、平成14・16・19年度の金沢市の児童の回答割合及び平成19年度の全国の児童の回答割合を示している。

「14年度市」：平成14年度金沢市教育課程実施状況調査における金沢市の児童生徒の回答割合

「16年度市」：平成16年度金沢市教育課程実施状況調査における金沢市の児童生徒の回答割合

「19年度市」：平成19年度全国学力・学習状況調査における金沢市の児童生徒の回答割合

「19年度国」：平成19年度全国学力・学習状況調査における全国の児童生徒の回答割合

○グラフ2、3は、平成19年度の「国語の勉強は好きですか」という質問に対しての、国語の正答率との相関を示すグラフである。国語Aの場合、「国語の勉強が好きですか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の正答率は88.3%であり、「当てはまらない」と回答した児童の正答率は78.9%ということの意味する。

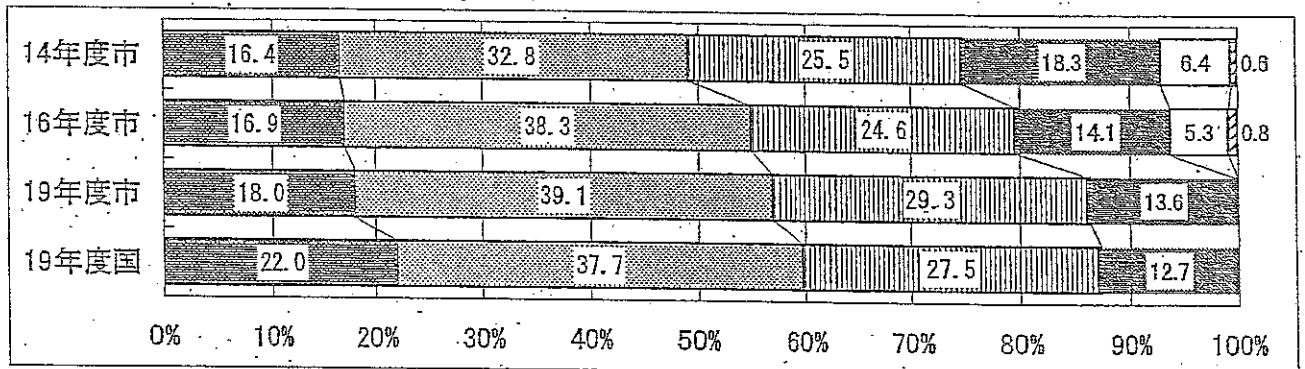
グラフ3は、同じようにして全国の児童の正答率の状況を示したものである。

【小学校】＜学習に対する関心・意欲・態度＞

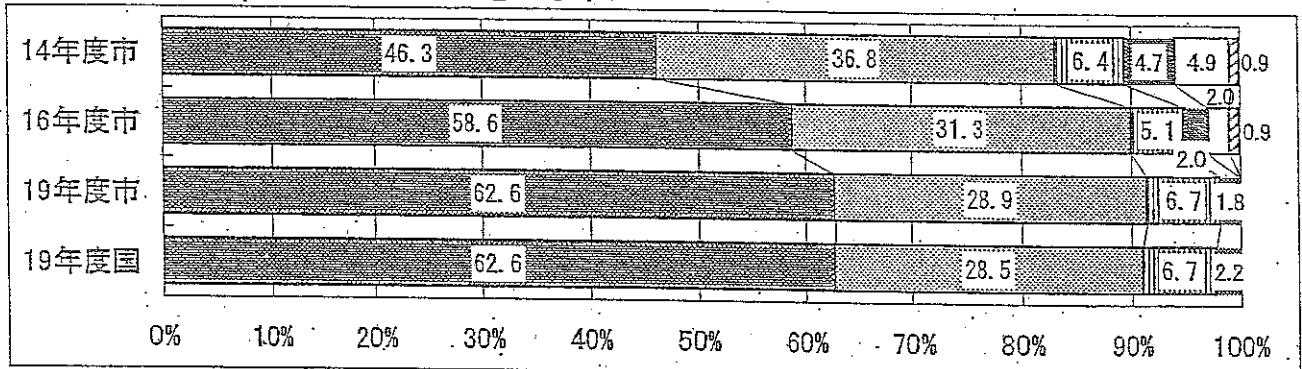
- 国語の勉強が好きな児童の割合、国語の勉強が大切、役に立つと思うの児童の割合は、金沢市も全国同様に増加傾向がうかがえる。
- 国語の勉強が好きな金沢市の児童の割合は約57%であり、全国より2.6ポイント低い。
- 国語の勉強が大切だと思う金沢市の児童の割合は約92%であり、全国と同程度である。
- 国語の授業で学習したことが役に立つと思う金沢市の児童の割合は約88%であり、全国と同程度である。
- 国語の授業の内容が分かる金沢市の児童の割合は約80%であり、全国より1.6ポイント高い。



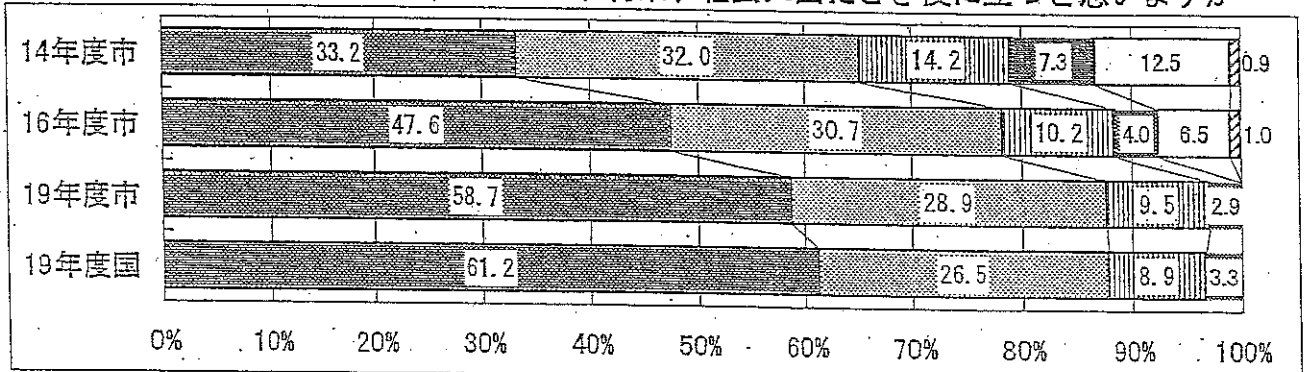
質問68：国語の勉強は好きですか



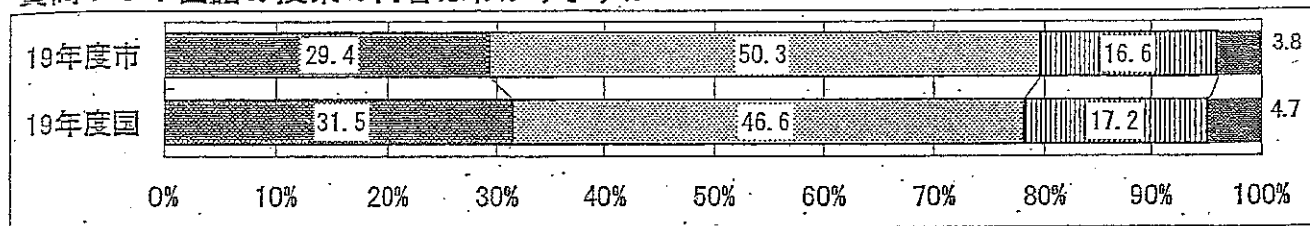
質問69：国語の勉強は大切だと思いますか



質問74：国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思いますか



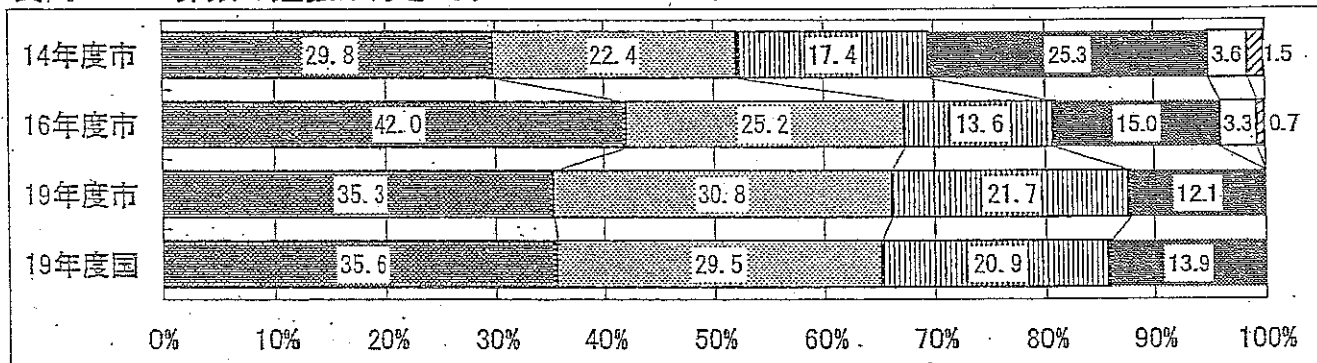
質問70：国語の授業の内容はわかりますか



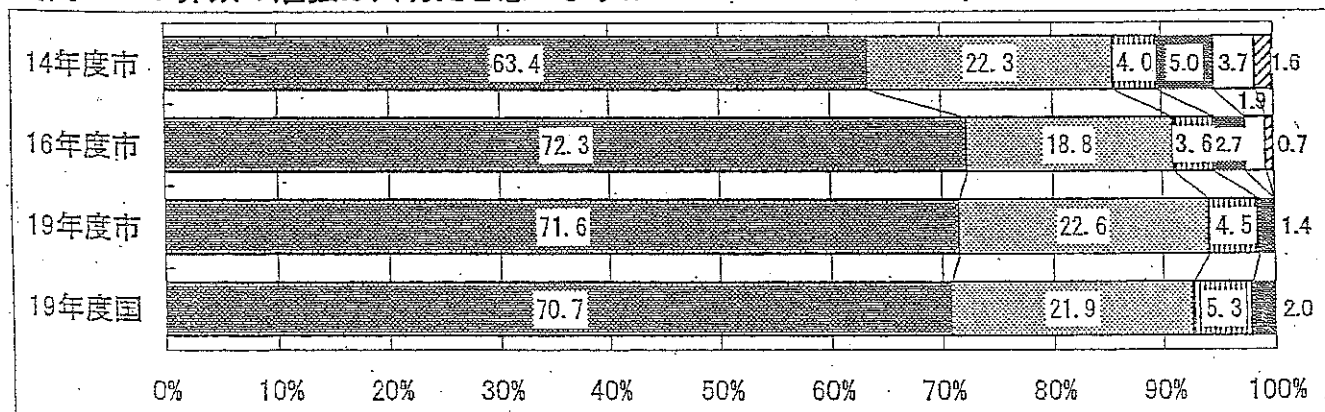
- 算数の勉強が好きな児童の割合は、16年度市とほぼ同程度であるが、算数の勉強が大切、役に立つと思う児童の割合は、金沢市も全国同様に増加傾向がうかがえる。
- 算数の勉強が好きな金沢市の児童の割合は約66%であり、全国より1.0ポイント高い。
- 算数の勉強が大切だと思う金沢市の児童の割合は約94%であり、全国より1.6ポイント高い。
- 算数の授業で学習したことが役に立つと思う金沢市の児童の割合は約92%であり、全国より1.3ポイント高い。
- 算数の授業の内容が分かる金沢市の児童の割合は約80%であり、全国より2.4ポイント高い。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 その他
 無回答

質問79：算数の勉強は好きですか

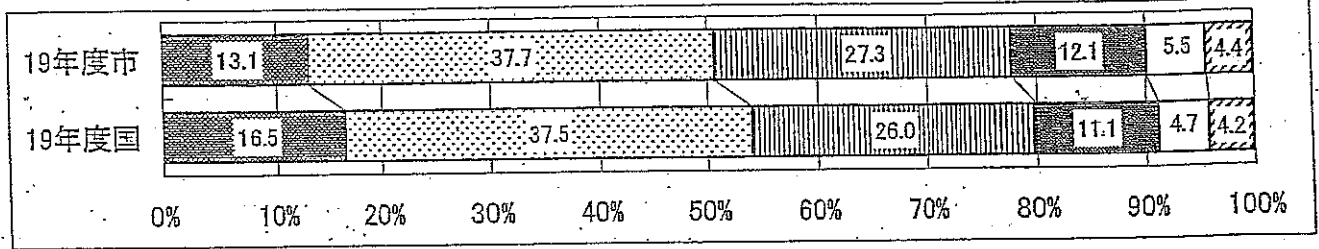


質問80：算数の勉強は大切だと思いますか



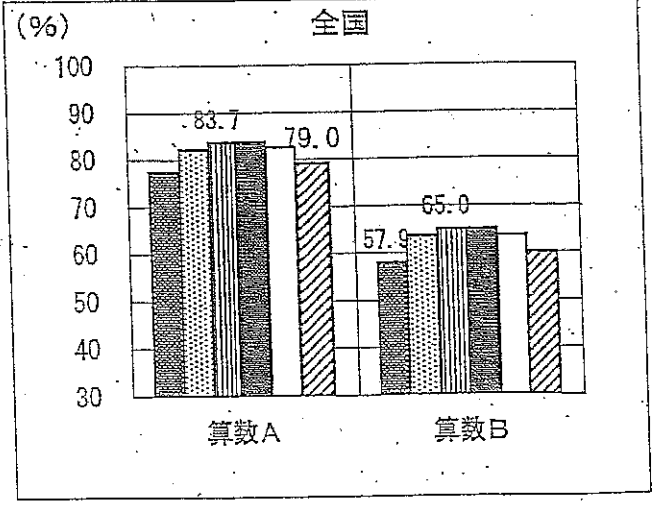
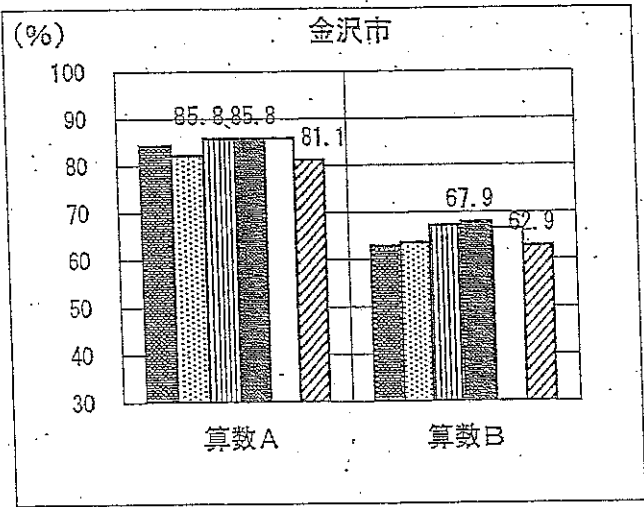
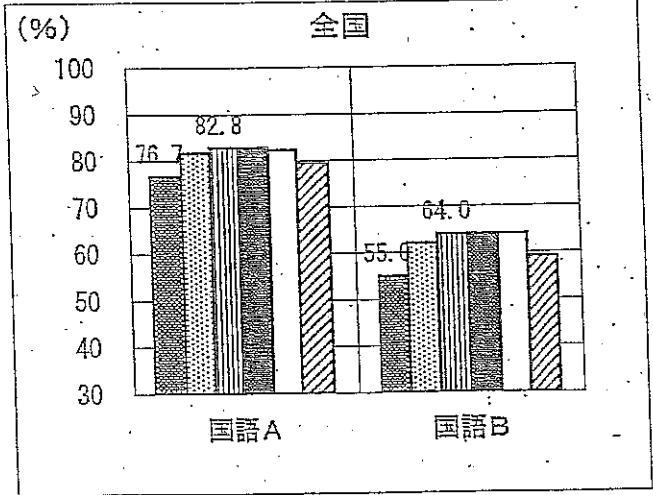
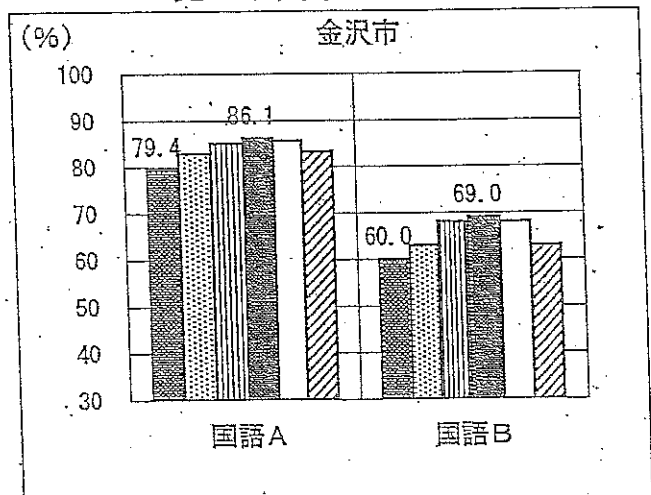
全くしない 1時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
 2時間以上、3時間より少ない 3時間以上、4時間より少ない 4時間以上

質問18：普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームやインターネットをしますか

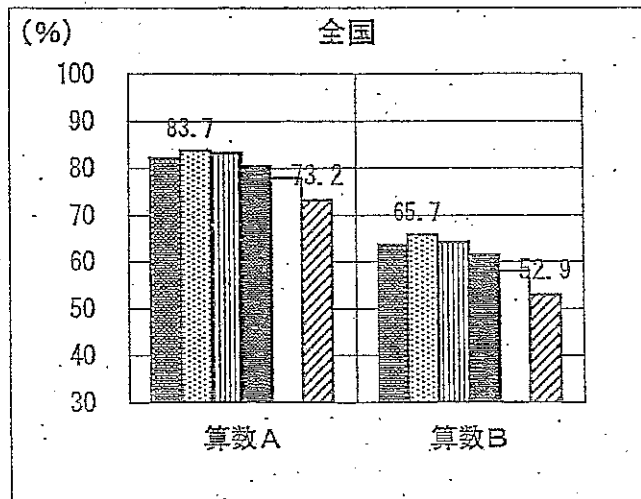
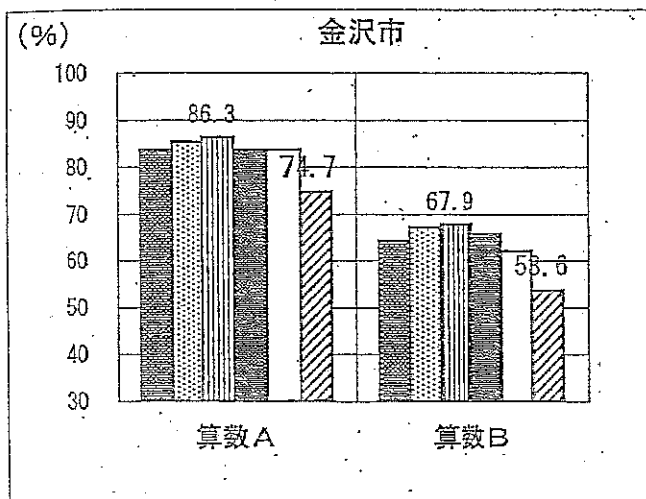
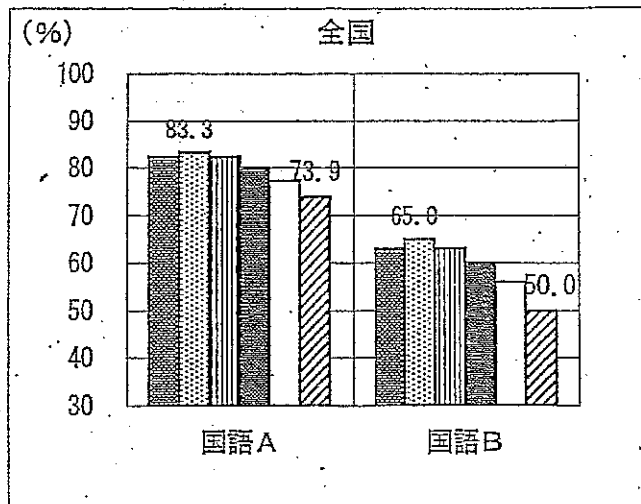
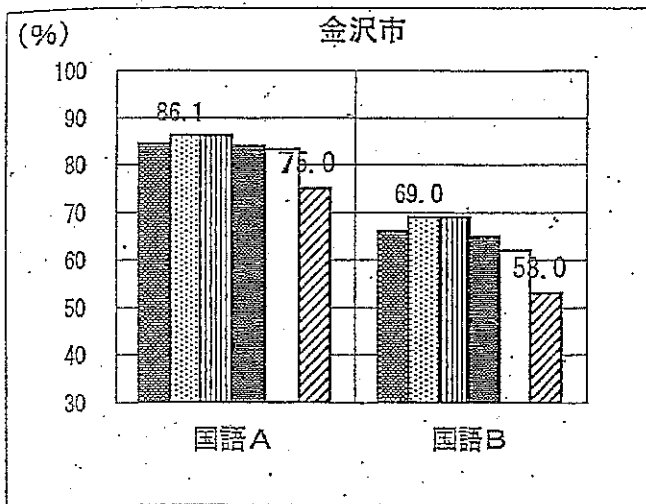


○テレビやビデオ等を見る時間が短い児童の方が、正答率が高い傾向が、全国同様に金沢市にも見られない。
 ○テレビゲームやインターネットをする時間が短い児童の方が、正答率が高い傾向が、全国同様に金沢市にも見られる。

質問17：普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか



質問18：普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームやインターネットをしますか



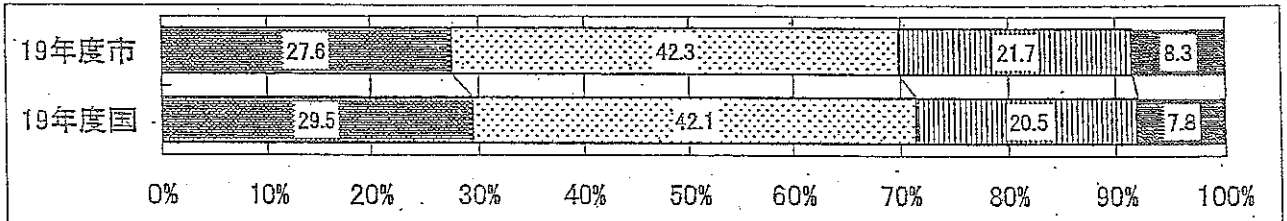
【小学校】 <自尊意識・規範意識等>

- 自分には、よいところがあると思う金沢市の児童の割合は約70%であり、全国より1.7ポイント低い。
- 将来の夢や目標を持っている金沢市の児童の割合は約81%であり、全国より3.1ポイント低い。
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う金沢市の児童の割合は約91%であり、全国と同程度である。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う金沢市の児童の割合は約92%であり、全国と同程度である。
- ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある金沢市の児童の割合は約93%であり、全国と同程度である。

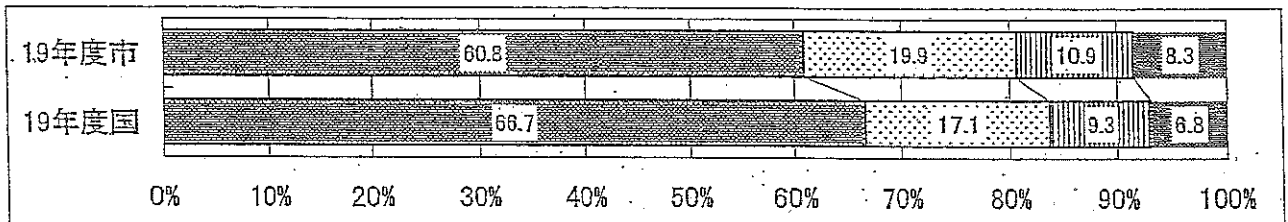
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 当てはまらない
 その他

どちらかといえば、当てはまる
 当てはまらない
 無回答

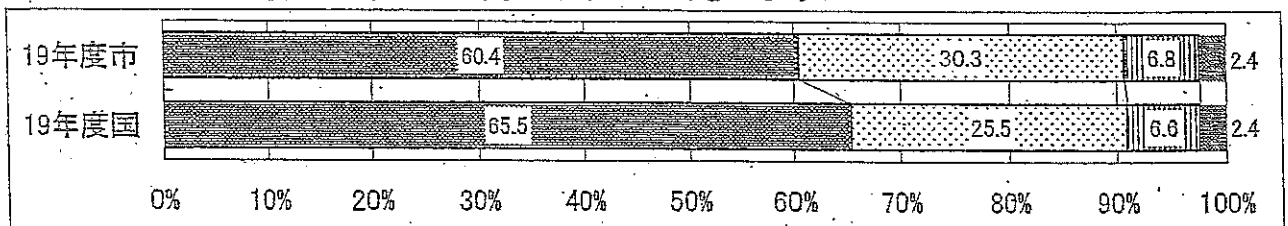
質問11：自分には、よいところがあると思いますか



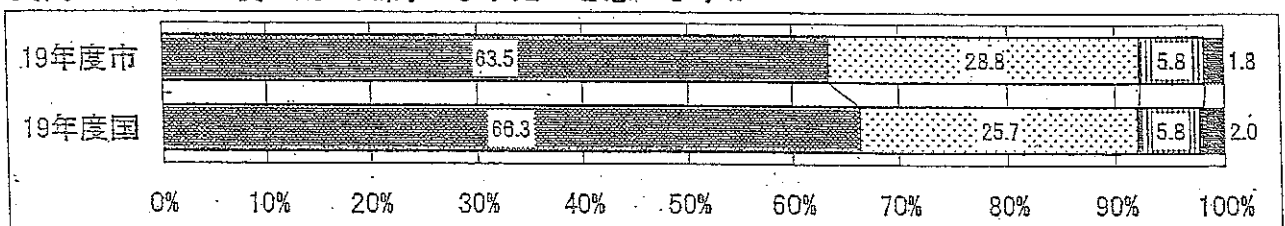
質問12：将来の夢や目標を持っていますか



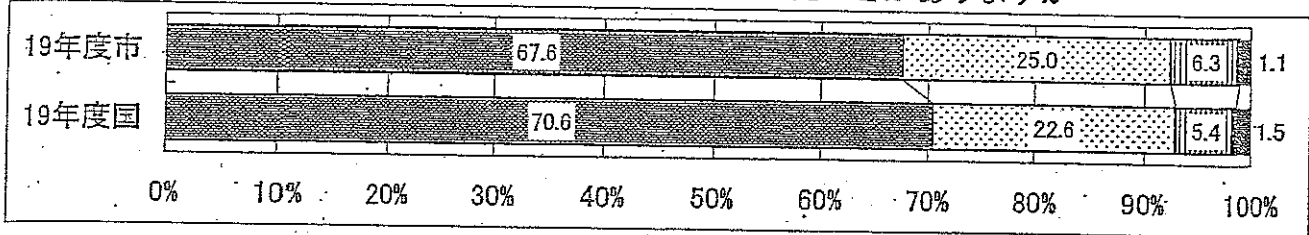
質問48：人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



質問50：人の役に立つ人間になりたいと思いますか



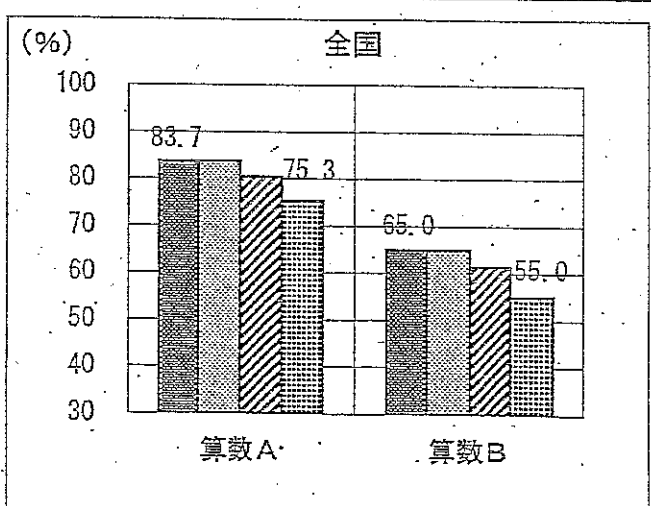
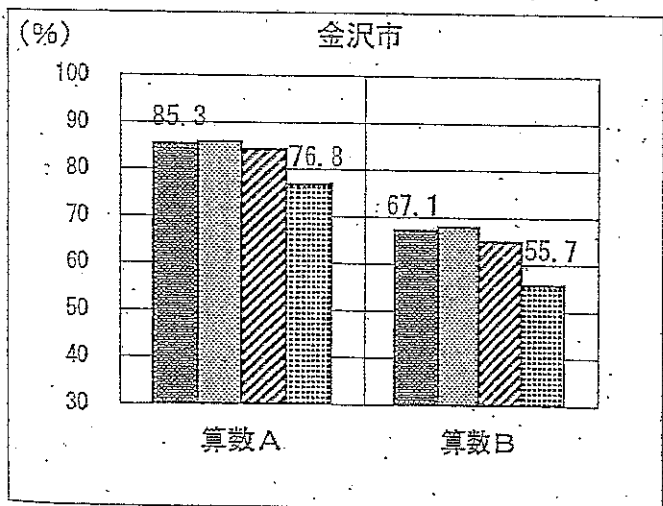
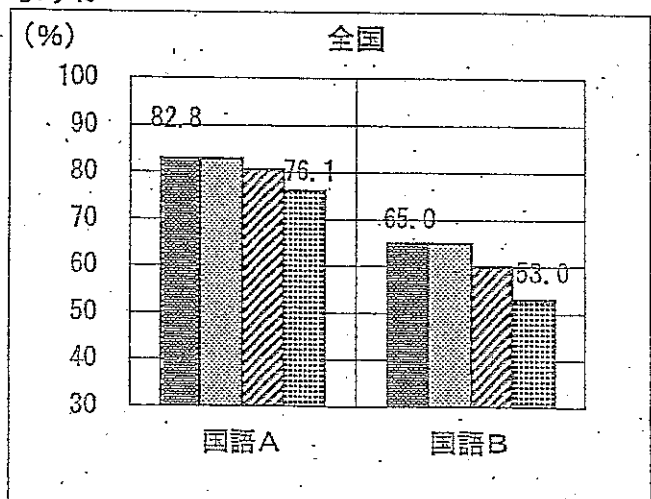
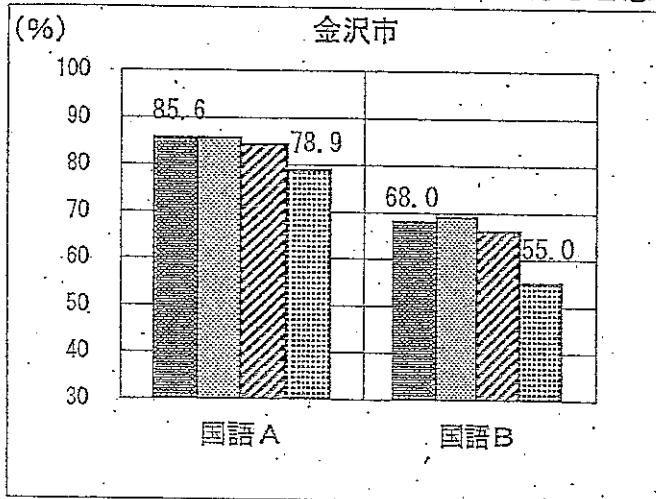
質問9：ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか



○自分にはよいところがある、人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童、ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある児童の方が、正答率が高い傾向が、全国同様に金沢市にも見られる。

該当ではまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

質問1-1：自分には、よいところがあると思いますか

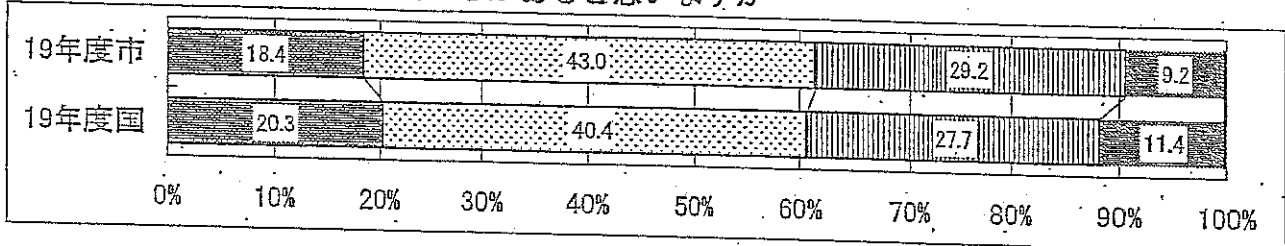


【中学校】 <自尊意識・規範意識等>

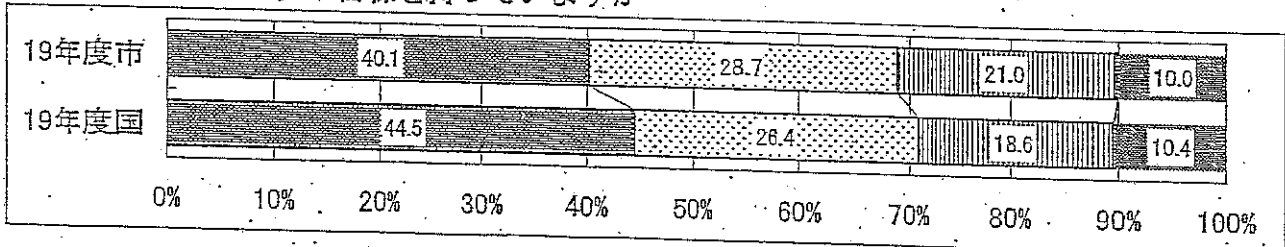
- 自分には、よいところがあると思う金沢市の生徒の割合は約61%であり、全国と同程度である。
- 将来の夢や目標を持っている金沢市の生徒の割合は約69%であり、全国より2.1ポイント低い。
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う金沢市の生徒の割合は約91%であり、全国と同程度である。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う金沢市の生徒の割合は約90%であり、全国と同程度である。
- ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある金沢市の生徒の割合は約92%であり、全国と同程度である。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 その他
 どちらかといえば、当てはまる
 当てはまらない
 無回答

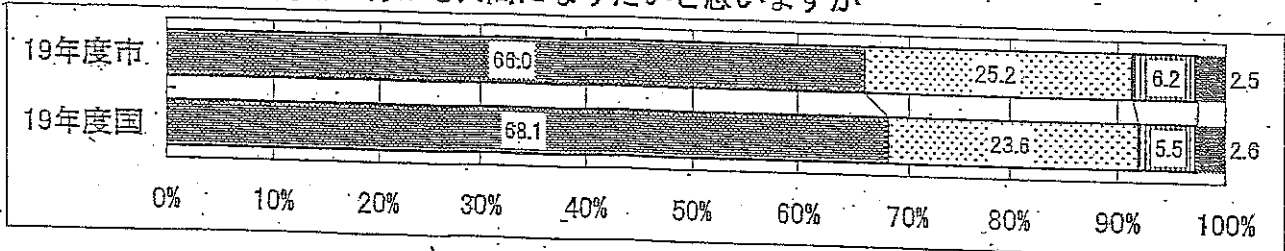
質問 1 1 : 自分には、よいところがあると思いますか



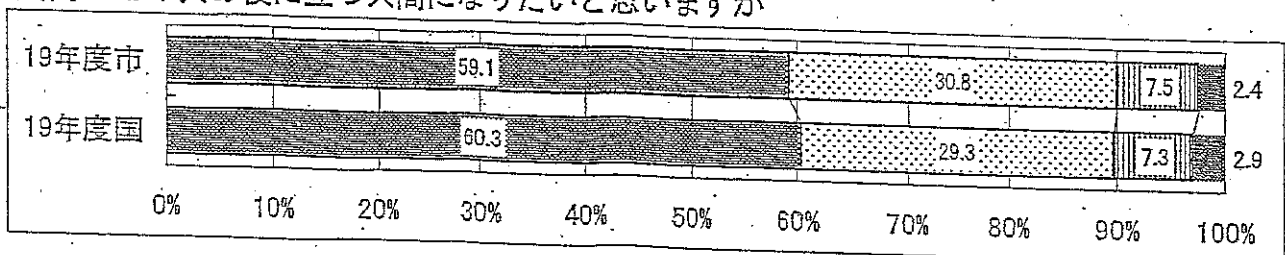
質問 1.2 : 将来の夢や目標を持っていますか



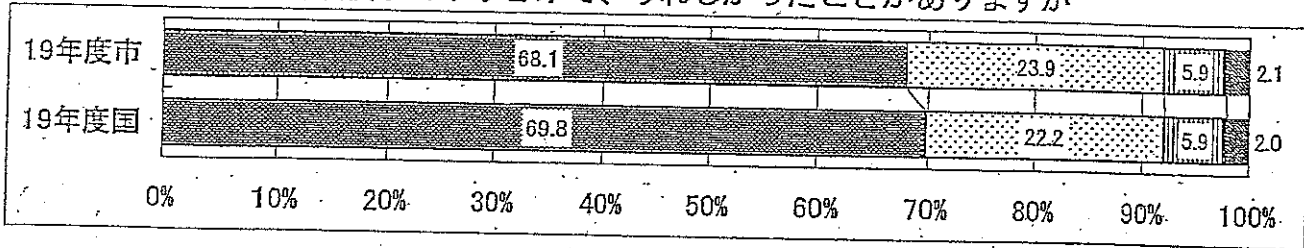
質問 5 0 : 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



質問 5 2 : 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



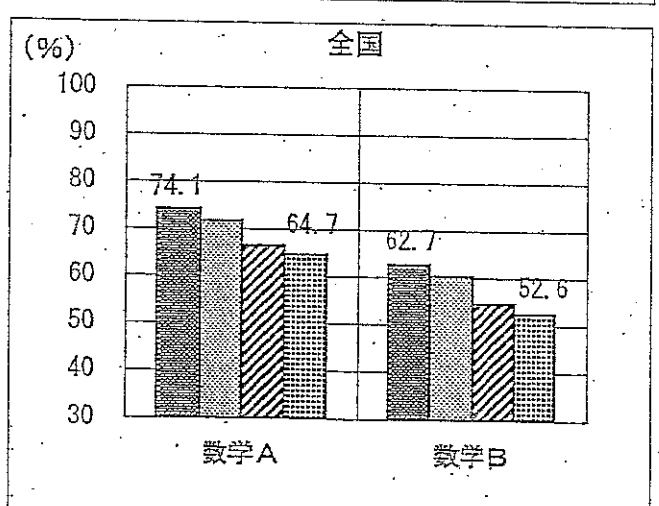
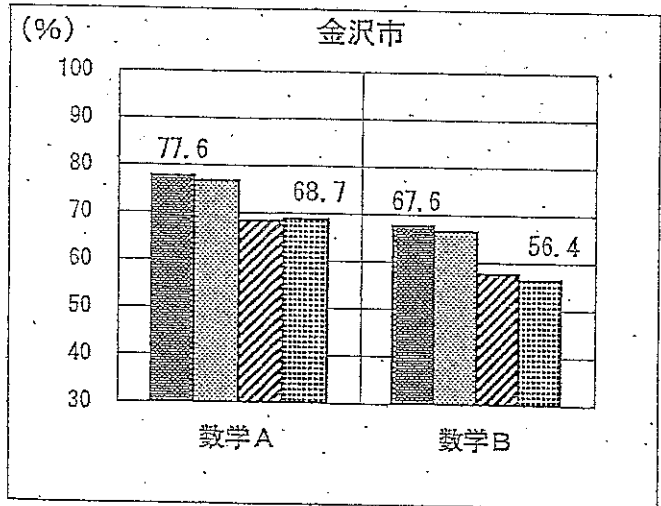
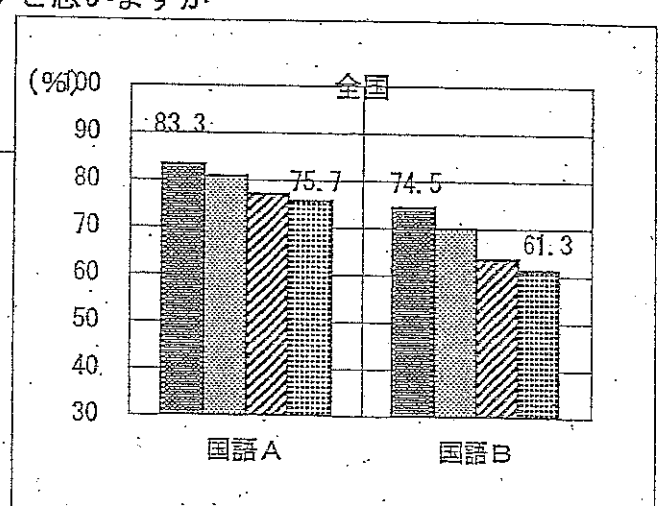
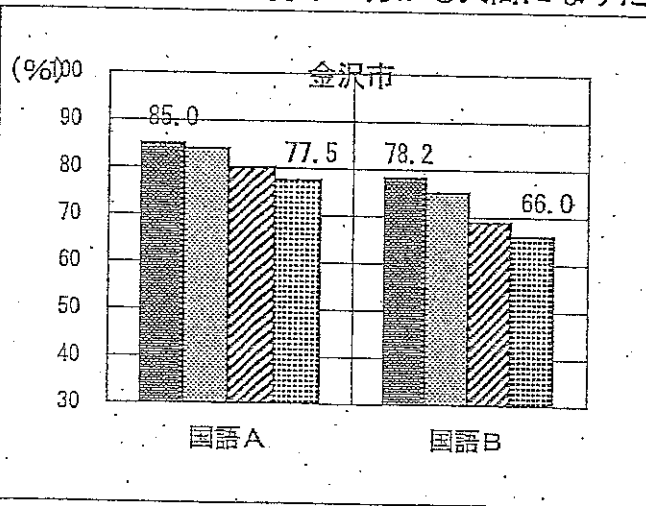
質問9：ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか



○人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒、ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある生徒の方が、正答率が高い傾向が、全国同様に金沢市にも見られる。

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

質問50：人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



<小学校調査と中学校調査の結果の差異>

○全国で小学校における児童質問紙の結果と中学校調査における生徒質問紙の結果について、20ポイント以上(※1)の差異があった質問に対して、金沢市の小学校と中学校の差異を示したものである。

○全12項目の質問項目の中で、6項目について金沢市の児童と生徒の肯定的な回答割合の差が全国よりも大きかった。差が大きかった質問は以下の通りである。

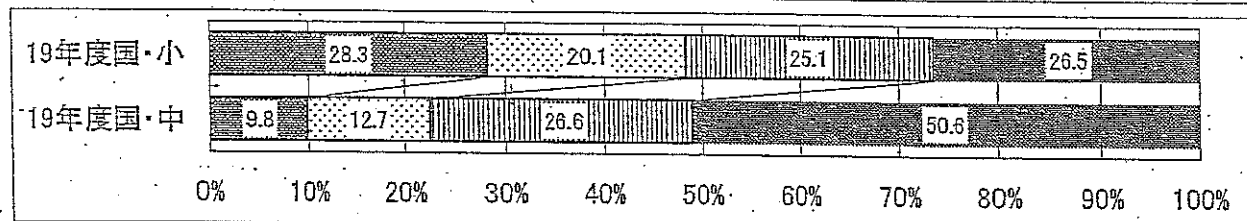
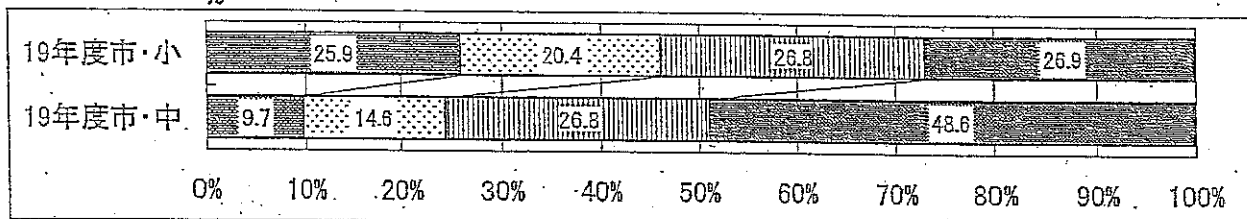
質問 37(39)・43(45)・65(67)・67(69)
 ・84(86)・86(88)

※1：選択肢が4つの質問においては、肯定的な選択肢2つを足した結果の差異

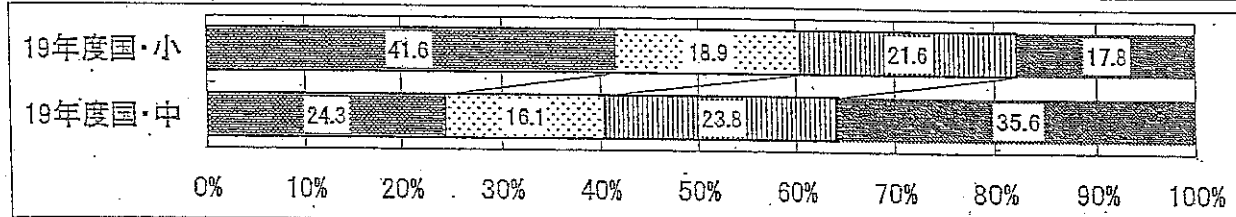
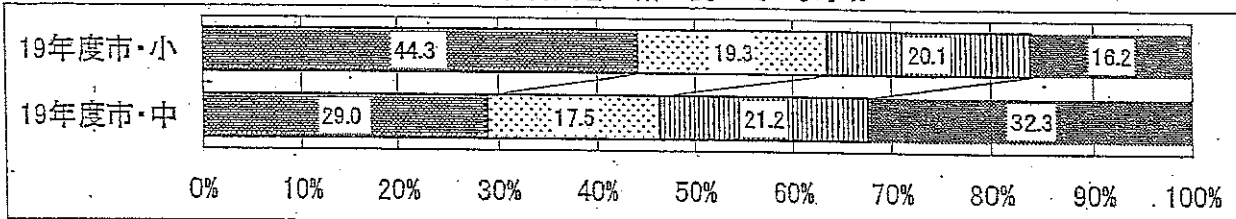
※2：以下()内の質問番号は、中学校調査の質問番号

- 当てはまる/している/そう思う
- どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、している/どちらかといえば、そう思う
- どちらかといえば、当てはまらない/あまりしていない/どちらかといえば、そう思わない
- 当てはまらない/全していない/そう思わない
- その他
- 無解答

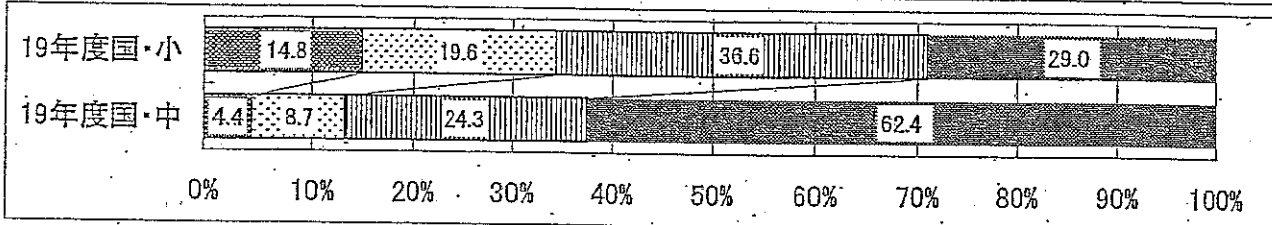
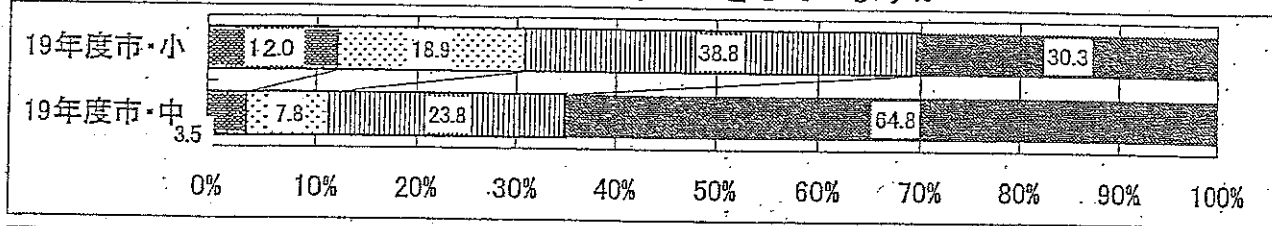
質問 7(7)：テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか



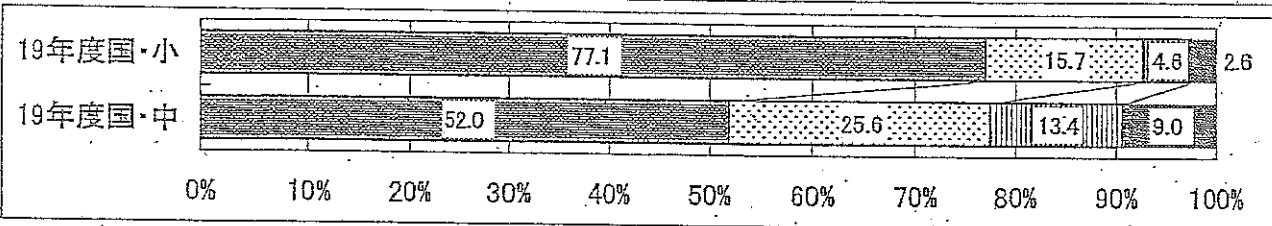
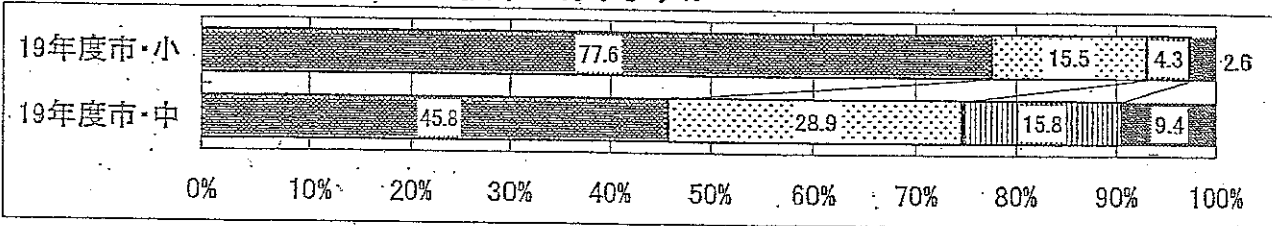
質問 25(26)：家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか



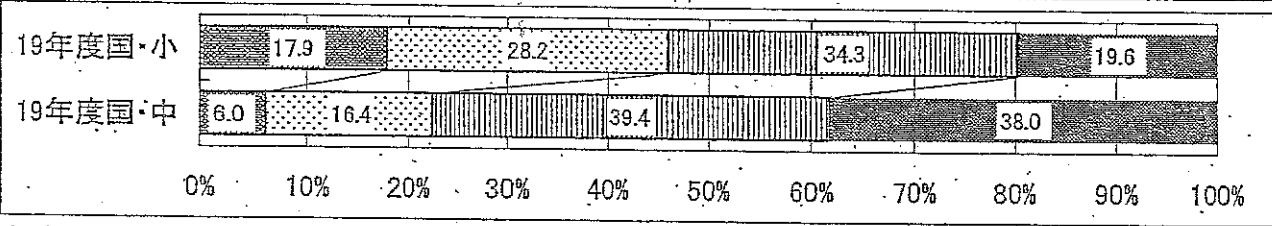
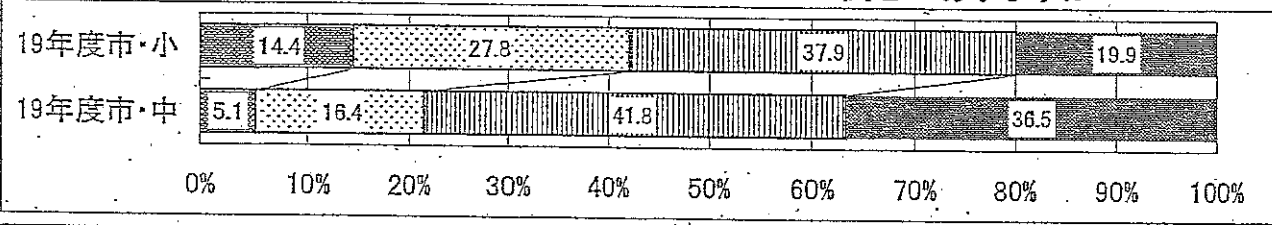
質問28(29)：家の人と一緒に運動・スポーツをしていますか



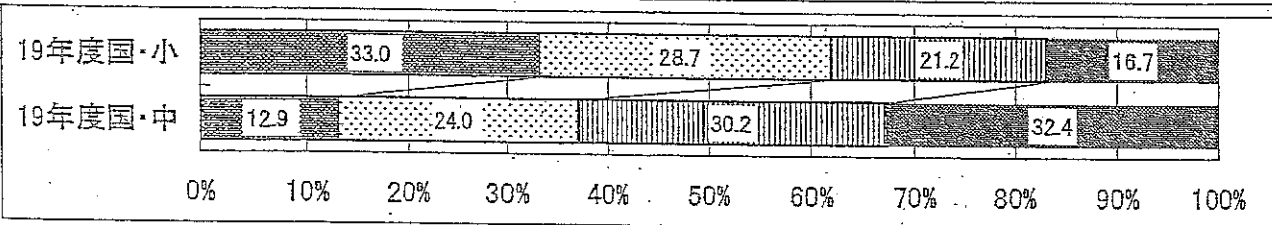
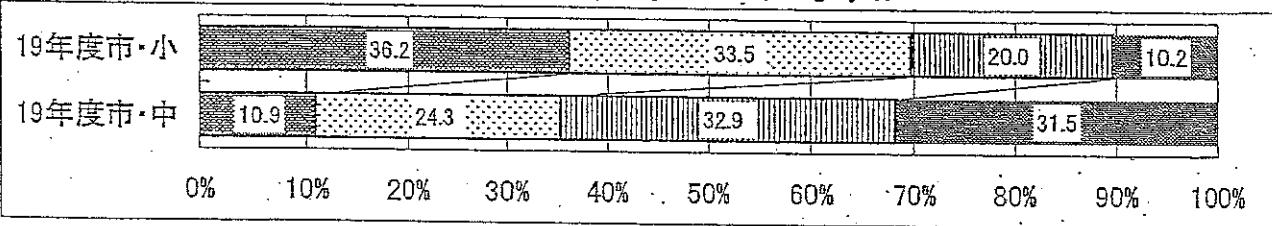
質問37(39)：学校で好きな授業がありますか



質問42(44)：今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか



質問43(45)：今住んでいる地域の行事に参加していますか

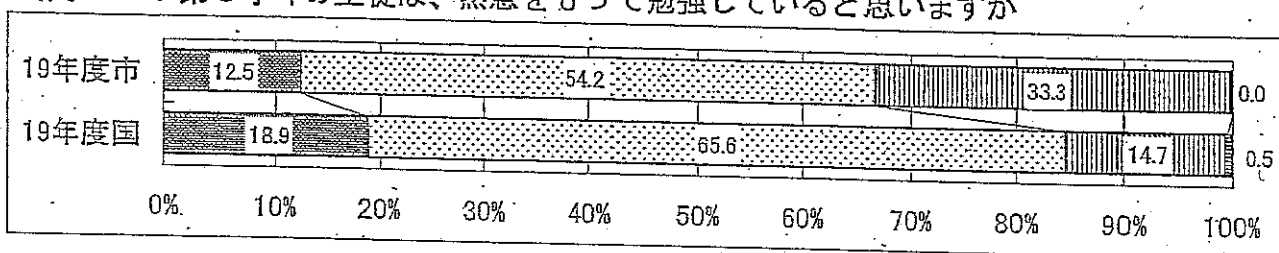


【中学校】 <学習態度>

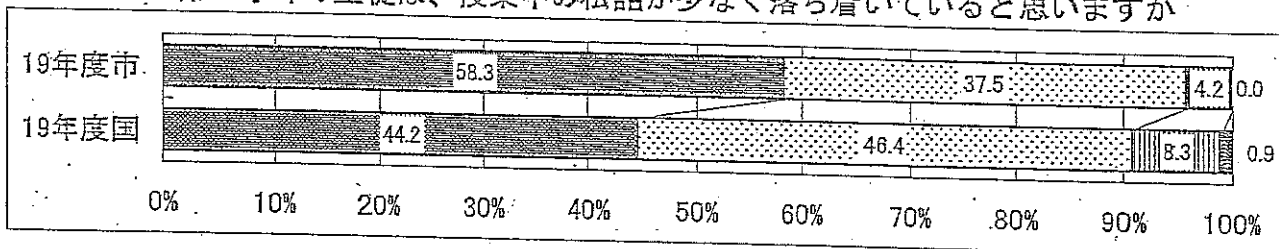
- 生徒が熱意をもって勉強していると思っている金沢市の学校の割合は約67%であり、全国より17.8ポイント低い。
- 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思っている金沢市の学校の割合は約96%であり、全国より5.2ポイント高い。
- 生徒が礼儀正しいと思っている金沢市の学校の割合は約83%であり、全国より4.2ポイント低い。

■ そう思う □ どちらかといえば、そう思う ▨ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない □ 無回答

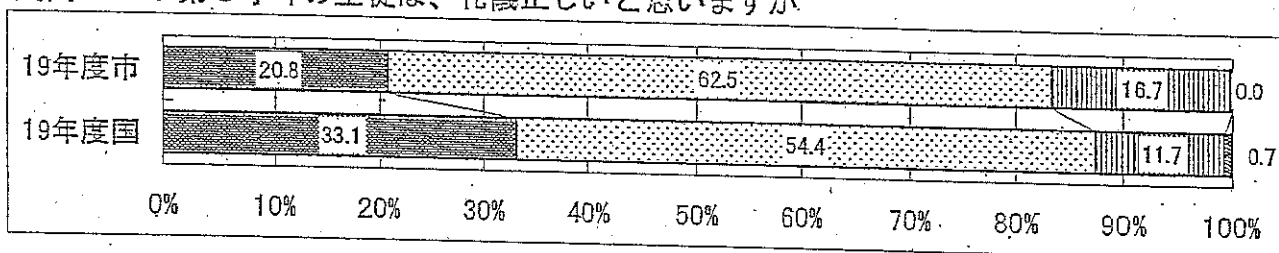
質問16：第3学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか



質問17：第3学年の生徒は、授業中の私語が少なく落ち着いていると思いますか



質問18：第3学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか

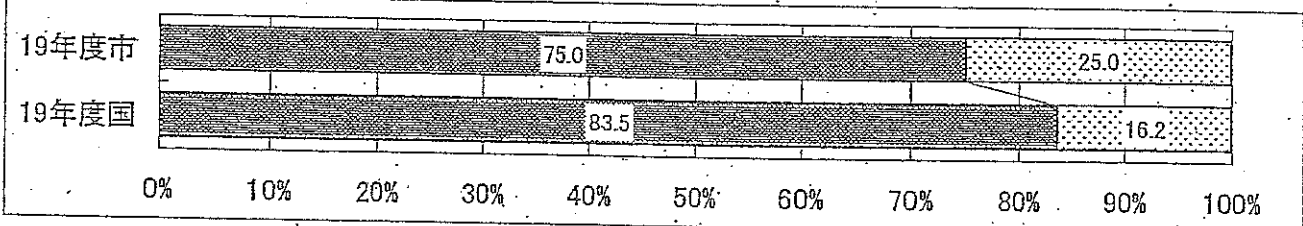


【中学校】 <学力向上に向けた取組>

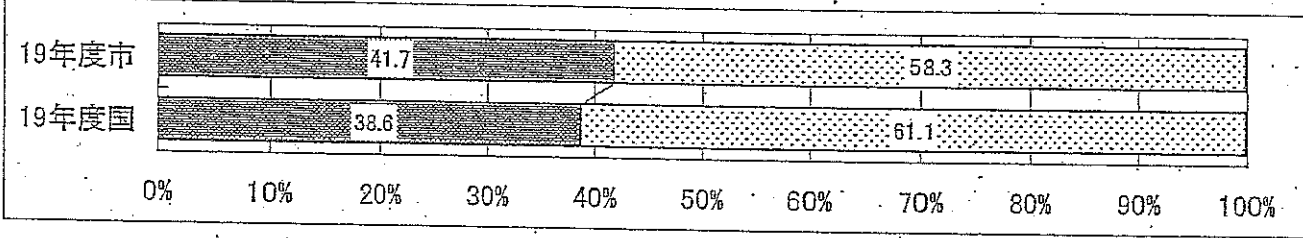
- 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている金沢市の学校の割合は約75%であり、全国より8.5ポイント低い。学校図書館を活用した授業を計画的に行っている金沢市の学校の割合は約42%であり、全国より3.1ポイント高い。
- ICTを活用した授業を行っている金沢市の学校の割合は約96%であり、全国より16.0ポイント高い。

■はい □いいえ ▨その他、無回答

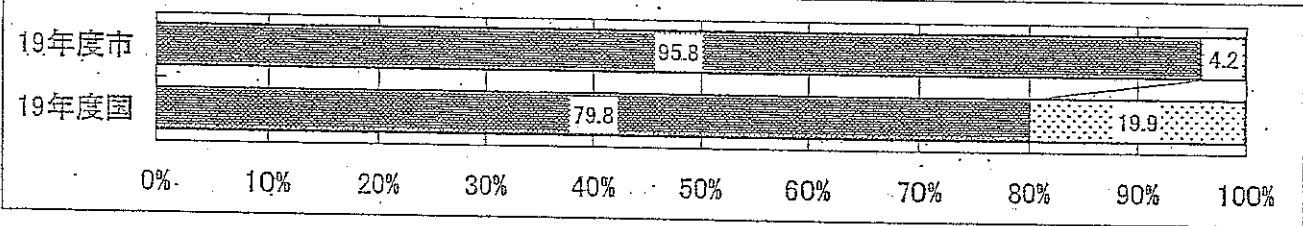
質問32：第3学年の生徒に対して、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか



質問33：第3学年の生徒に対して、学校図書館を活用した授業を計画的に行っていますか



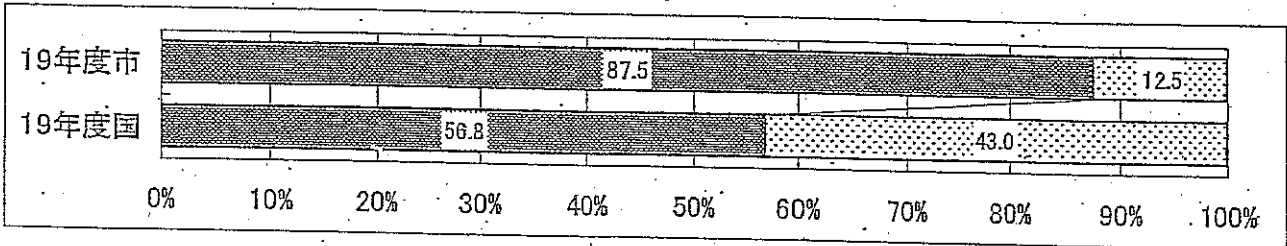
質問34：第3学年の生徒に対して、ICTを活用した授業を行っていますか



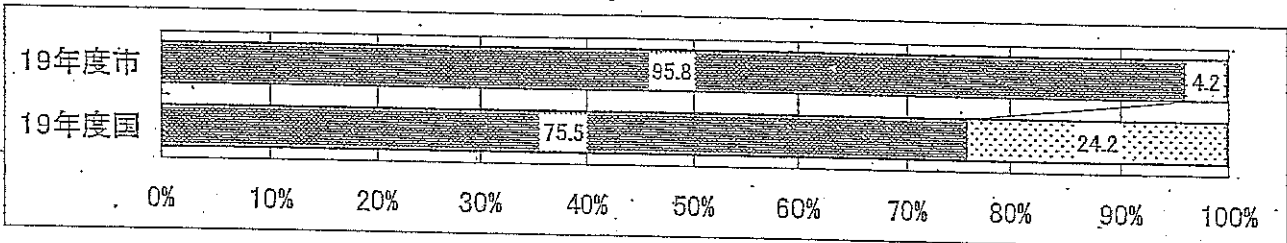
○放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している金沢市の学校の割合は約88%であり、全国より30.7ポイント高い。長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施している金沢市の学校の割合は約96%であり、全国より20.3ポイント高い。

■はい... □いいえ... ▨その他、無回答

質問35：第3学年の生徒に対して、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していますか



質問37：第3学年の生徒に対して、長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施していますか

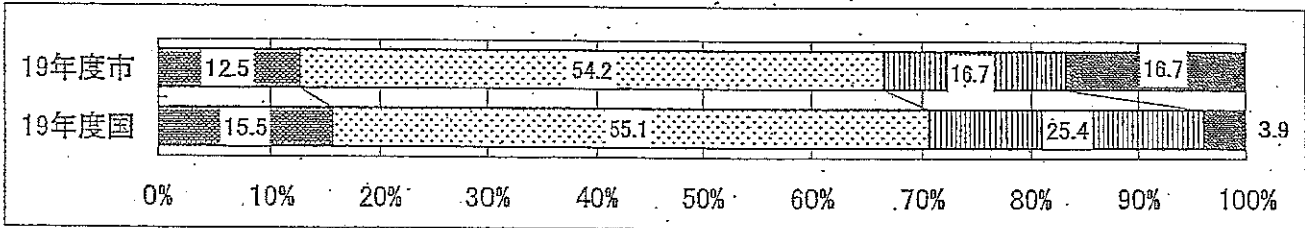


【中学校】 <国語科の指導方法>

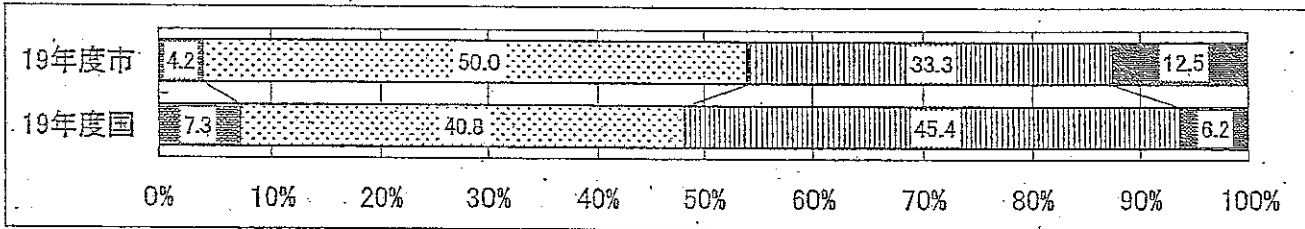
○国語の指導として、補充的な学習を行った金沢市の学校の割合は約67%であり、全国より3.9ポイント低い。発展的な学習の指導を行った金沢市の学校の割合は約54%であり、全国より6.1ポイント高い。
 ○国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた金沢市の学校の割合は約71%であり、全国より13.5ポイント低い。

■よく行った □どちらかといえば、行った ▨あまり行っていない ■全く行っていない □その他、無回答

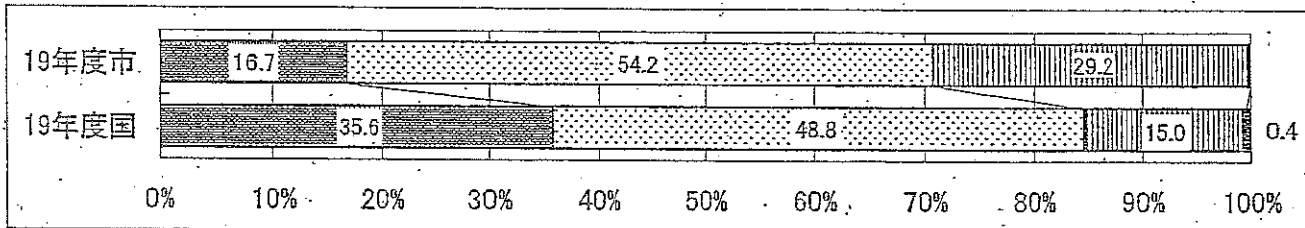
質問51：第3学年の生徒に対する国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか



質問52：第3学年の生徒に対する国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか



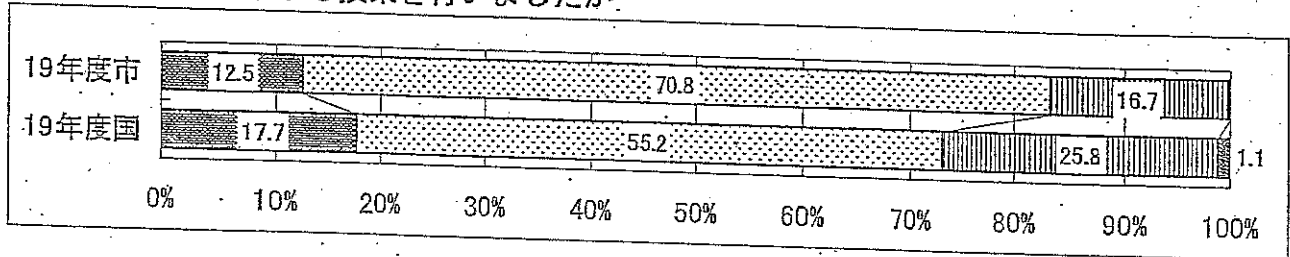
質問53：第3学年の生徒に対する国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



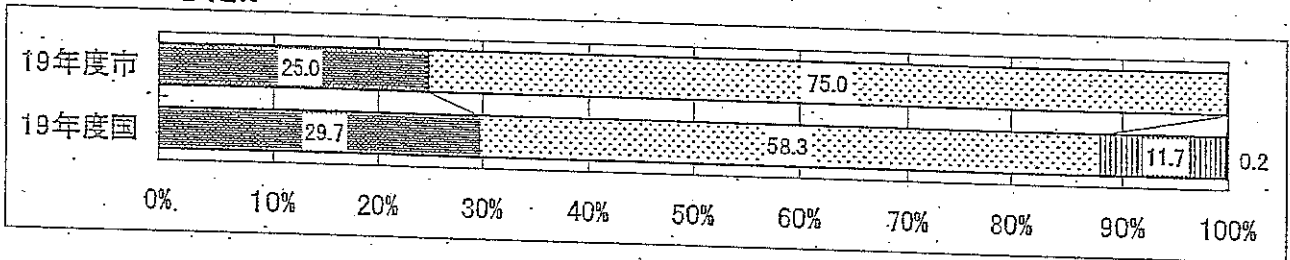
- 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った金沢市の学校の割合は約83%であり、全国より10.4ポイント高い。
- 国語の指導として、書く習慣を身に付ける授業をした金沢市の学校の割合は100%であり、全国より12.0ポイント高い。
- 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業をした金沢市の学校の割合は約79%であり、全国より3.4ポイント低い。
- 漢字・語句など基礎的・基本的な内容を定着させる授業をした金沢市の学校の割合は100%であり、全国より3.0ポイント高い。

■よく行った □どちらかといえば行った ▨あまり行っていない ■全く行っていない □その他、無回答

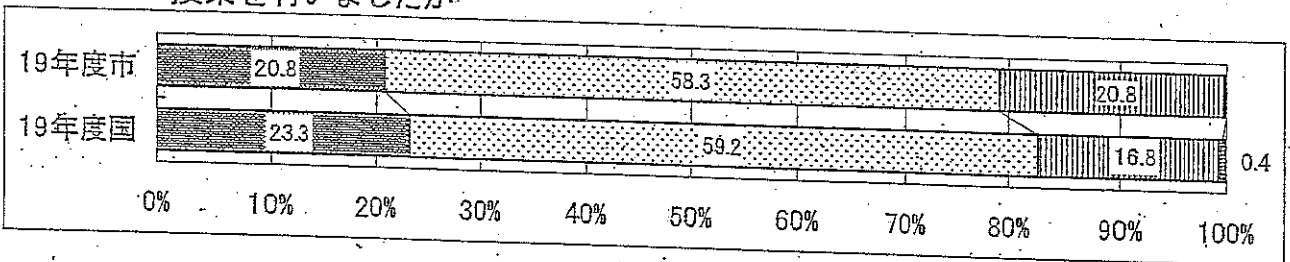
質問54：第3学年の生徒に対する国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか



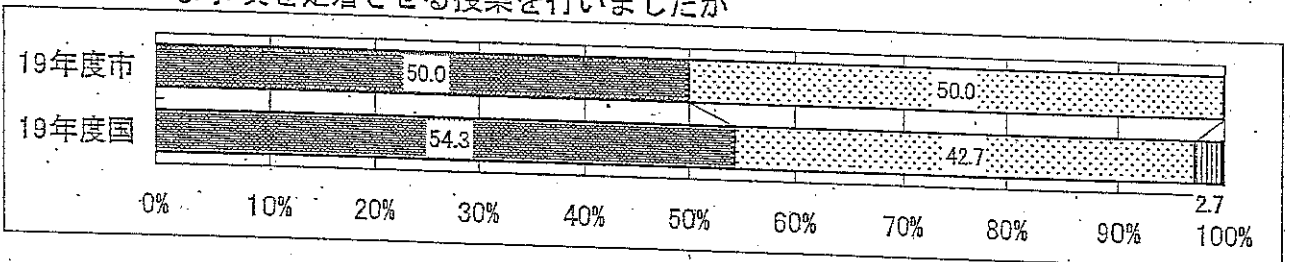
質問55：第3学年の生徒に対する国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか



質問56：第3学年の生徒に対する国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか



質問57：第3学年の生徒に対する国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか

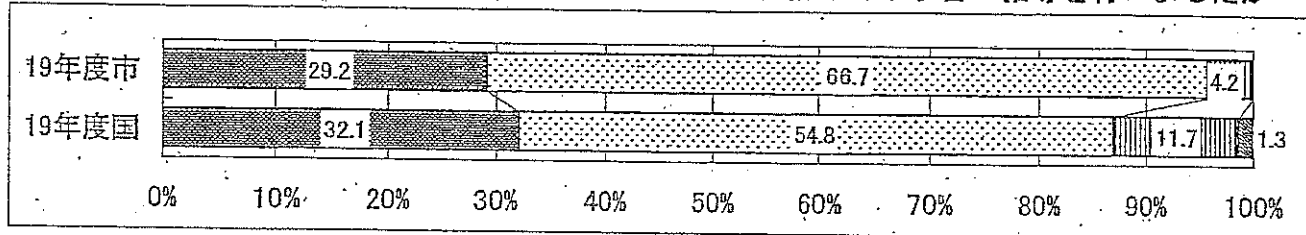


【中学校】 <数学科の指導方法>

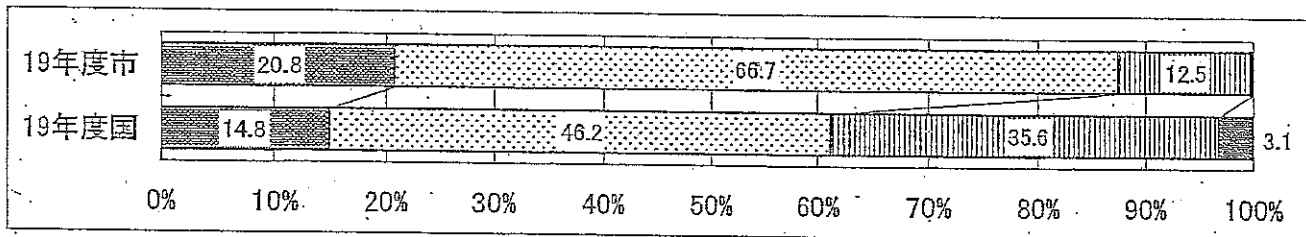
- 数学の指導として、補充的な指導を行った金沢市の学校の割合は約96%であり、全国より9.0ポイント高い。また、発展的な学習の指導を行った金沢市の学校の割合は約88%であり、全国より26.5ポイント高い。
- 数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた金沢市の学校の割合は約88%であり、全国より1.3ポイント低い。

■よく行った □どちらかといえば、行った ▨あまり行っていない ■全く行っていない □その他、無回答

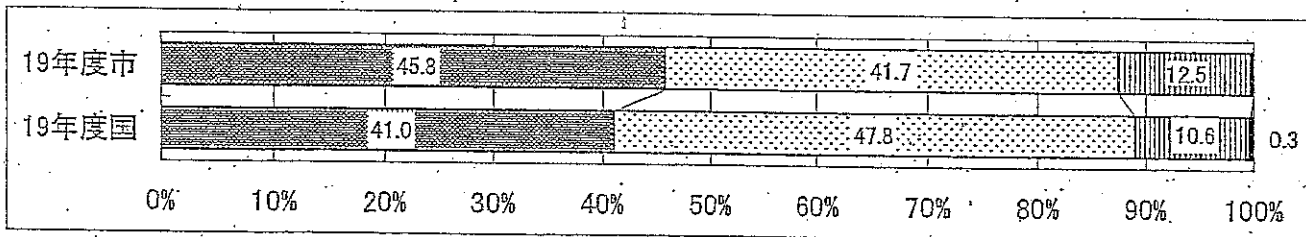
質問58：第3学年の生徒に対する数学の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか



質問59：第3学年の生徒に対する数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか



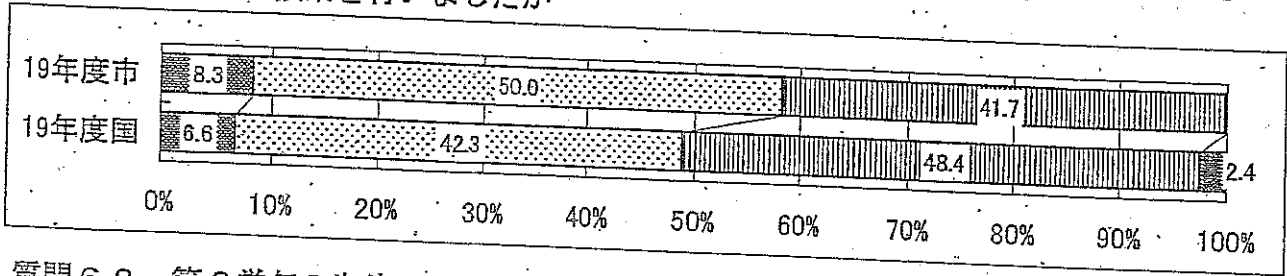
質問60：第3学年の生徒に対する数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



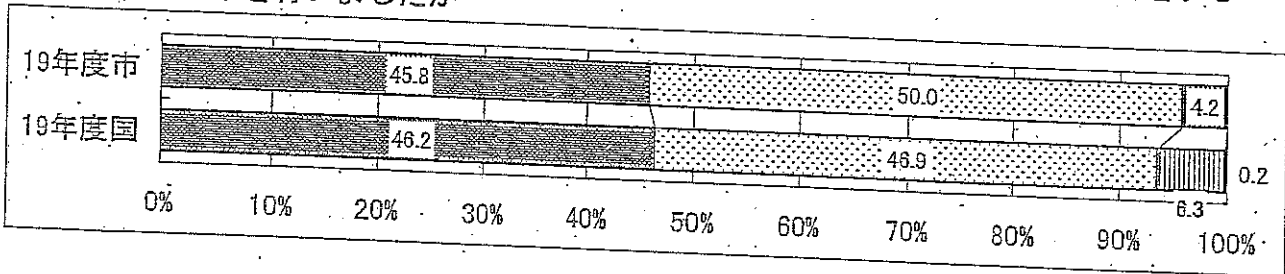
○数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った金沢市の学校の割合は約58%であり、全国より9.4ポイント高い。
 ○計算問題などの反復練習をする授業をした金沢市の学校の割合は約96%であり、全国より2.7ポイント高い。

■よく行った □どちらかといえば、行った ▨あまり行っていない ■全く行っていない □その他、無回答

質問6 1：第3学年の生徒に対する数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



質問6 2：第3学年の生徒に対する数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか

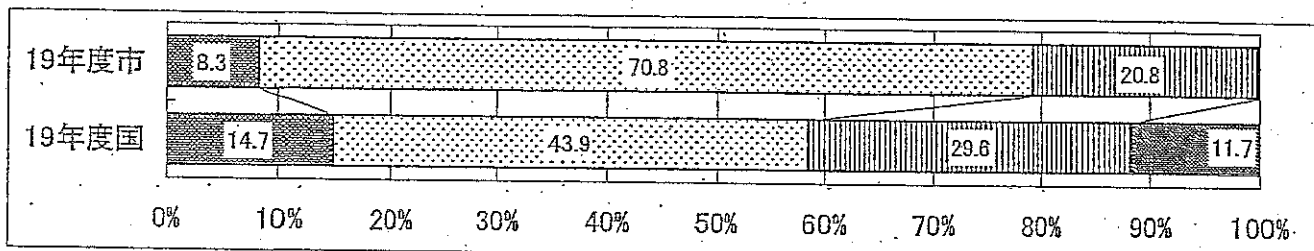


【中学校】 <地域の人材の活用>

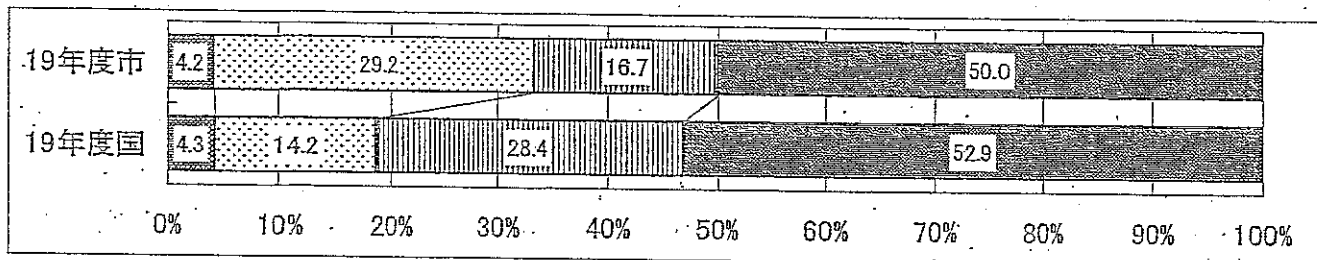
○地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った金沢市の学校の割合は約79%であり、全国より20.5ポイント高い。また、ボランティア等による授業サポート（補助）を行った金沢市の学校の割合は約33%であり、全国より14.9ポイントも高い。

●よく行った □どちらかといえば、行った ▨あまり行っていない ■全く行っていない □その他：無回答

質問65：第3学年の生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか



質問66：第3学年の生徒に対して、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか





中央小学校

所在地：金沢市長町1丁目10番35号

電話：076-262-8560

F A X：076-261-3779

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/chuuou-e/>

校長名：池端 弘久

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別学級	合計
児童数	85	89	105	95	87	93	0	555
学級数	3	3	3	3	3	3	0	18

	校長	教頭	教諭等								養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	他					
職員数	1	1	3	3	3	3	3	3	0	4	1	1	1	7	34

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

(1) 成果

- 単元導入で出会わせる事象や出会わせ方を工夫したり、自作教材教具を開発、製作して活用したりすることで、学習対象に興味・関心を持たせるとともに、進んで学習対象にかかわり、こだわりを持って追究させることができた。さらに、単元の見通しを持って、問題解決的に学習を進めることができるようになった。
- 協同学習が学習過程のいろいろな場面で活用されることで、子どもが集団の中で自分の素朴概念に対して助言や意見をもらい、自ら素朴概念を変容させ、個別の「理」がみんなで創った「公理」に高めることができた。
- ルーブリック評価を活用することで、子ども達に自己評価や相互評価をする力、協同学習の中で教え合ったり補い合ったりする力が身に付いてきた。

(2) 課題

全教科において、言語力（考えをわかってもらえる語彙力に裏打ちされた効果的な話し方、教科の正しい用語を使った話し方ができる力）の底上げと、知識理解の定着、及び用語等を活用した表現に課題がある。そこで、主たる教材である教科書の活用を進めるとともに、かかわり合いを生む話し方（話形）・聴き方の継続的な指導を中心に進めていく。さらに、一人一人が自分の考えを持ち関わり合えるように、ノートに書く時間を保障したり、学習の見通しを持たせるワークシートの工夫をする。また、教師から評価の視点やノートやレポート等の評価例を伝えた上で、子ども達による自己評価や相互評価を積極的に取り入れ、子ども達の確かな学びと自信に繋げる。

2 学力等の現状分析

(1) 国語科

- 言語事項では、漢字の読み・書き取り、筆順、段落や句読点などはよく身に付いている。
- 書くことでは、段落や句読点など文章を書く上での決まりごとはよく身につけている。
- 2つの文章を読んで内容を理解し、共通点や相違点を見つけて、それをまとめて書いたり、文章全体の構成とその効果を考えることに弱点がある。
- 「読むこと」では、物語を読んで指定された部分のあらすじを書いたり、文章の中から条件にあったものを選びそれを選んだ理由を書くことに弱点がある。

(2) 社会科

- 地球儀や地図の基本的な理解、特に経度と緯度についての理解に問題がある。
- 地図帳を読み取る問題で、縮尺を考えて2点間の距離を求めることが苦手である。
- 資料のグラフを読み取り、わかったことに加えて、自分の考えを述べることに弱点がある。
- 自動車工場の仕事についての基本的な知識が定着していない。

(3) 算数科

- 図形の作図、四則演算、数直線の読み取り、身近なかさの量感覚はよく身に付いている。
- 割合の意味の理解はよくできている。
- 情報の取り出しで、資料の読み取りが苦手な子が多い。
- 記述式の問題形式に弱点があり、図形では日常の事象を数理的にとらえ、必要な情報を選択したり、見方を変えた別の解決方法を考えること、数量関係では情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することが苦手である。

(4) 理科

- ・月の動き、流れる水のはたらきでの堆積作用、昆虫の体のつくりが定着していない。実際にフィールドへ出て観察する単元に弱点がある。
- ・ふりこの正確なデータを得るための実験方法を記述する問題など、論理的に手順を説明する問題に弱点がある。

3 学力向上の取組

(1) 中央スタイルⅠ（授業スタイル）の確立

ア 授業構成の改善と共通実践、教材開発

(ア) 達成する姿を明確化（学習評価）

- ・目指す姿、ゴールを明確にする。目当てが達成された姿を子どもがイメージして授業に望めるようにする。

(イ) かかわり合う場（協同学習）の充実

- ・デモンストレーション、ペア学習、グループ学習、一斉学習の中でどのようにかかわり合う仕掛けをしていくか考え実践する。

イ ノート、レポートの充実

- ・ループリック（評価指標・評価規準）を作成して学習を展開したり評価活動を行ったりする。
- ・事実や根拠、引用などを明確にして書く場面を設け、自分の考えやまとめを与えられた条件の中で書かせる。
- ・時間毎にB基準のノートを設定しその時間のループリックに照らした評価と助言を行い、その規準以上のノートを書ける子どもを増やす。

(2) 中央スタイルⅡ（授業を支える基礎力作り）の取り組み

ア 教科書の活用

- ・教科書には、各教科の文脈、修辞上の特色、用語などがあるので、内容とともに、教科の本質を大切にす。
- ・教科、単元、状況、学年などに応じて、予習をして授業に臨む。教科書を読んで、わからないこと（言葉の意味が分からない、もっと詳しく知りたい）、やってみたいことを明らかにして、問題を作ったり、考えを出し合ったりして解決していく。
- ・学習終了後、教科書の内容を理解できているよう復習をていねいにする。

イ 国語辞典の活用

- ・2年生から国語辞典を使用し、語彙力を付ける。
- ・あらゆる教科で国語辞典を活用し、検索した言葉をマーカーでチェックしたり、付箋を貼ったりする。

ウ 単元末テスト・期末テストの充実

- ・3年生以上の学年は、期日・出題範囲・復習ポイントなどを事前に告知し、教科書をしっかり読ませるなどした上で、学期末テストに臨ませるようにする。
- ・得点分布などを分析し、改善策を考える。
- ・C評価の児童には、補習+再テストなどのケアを行い、B基準に引き上げる努力をする。
- ・国語と算数で、学力テストの活用力を問う過去問題に取り組む。

エ 「わかった」、「できた」、「のびた」感覚の実感

(ア) 計算力の質的、量的向上

- ・算数の時間の始めや、すぐすぐタイムなどに、5分間程度でできる内容のプリントを準備し実施する。
- ・繰り返し計算プリントに取り組むことで、正解率が上がることや解答時間が早くなること、解決できる問題のレベルが上がることを実感させる。

(イ) 文章読解力の向上

- ・教科書単元と同じようなレベルの文章（説明文、物語文）に数多く出会わせる。
- ・音読・熟読・精読・速読をさせ、辞書を引いて言葉を調べたり、簡単な設問に答えさせたりする。

オ 自学ノートの取組

- ・宿題としての自学ノートから、自ら進んで取り組む自学ノートへと転換していくことを目指す。



弥生小学校

所在地：金沢市弥生1丁目2番2号

電話：076-242-3245

F A X：076-242-3244

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/yayoi-e/>

校長名：細川 章

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	転入	転出	合計
児童数	78	59	68	93	52	63	6		419
学級数	3	2	2	3	2	2	3		17

	校長	教頭	教諭等								養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	他					
職員数	1	1	3	2	2	3	2	2	3	5	1	1	1	4	31

1 平成21年度学力向上の取組内容の検証

基礎学力の定着と向上を図るために、学年会・教科部会などを通して、各学年・学校全体の各教科の傾向及び対応策を協議し、共通実践を行った。

(1) 成果

ア 国語

- ・ あらすじや要旨をとらえる活動や内容の中心を意識して話す活動などを継続的に進めることで少しずつ力がついてきた。
- ・ 学習の様々な場面で、国語辞典を使い繰り返し調べる活動を取り入れたり、既習の漢字を使って短文作りを行ったりしたことで、基本的な語彙力や漢字力が徐々に伸びてきた。

イ 社会

- ・ 各階の掲示板を活用し、地図の達人コーナーとして地図記号クイズや弥生小校区紹介のコーナー、地図に関する図書の紹介コーナーなどを設けることで、地図に関する興味・関心を高めることができた。
- ・ 体験的な活動や具体物を活用した思考や理解を重視し学習の中で計画的に位置づけることで、調べたことや分かったことなどを自分の言葉で表現することができる子が増えてきた。

ウ 算数

- ・ 45分間の授業構成を整理し、授業の最後に練習問題をする時間を確保したり、スキル学習の計画的な運用を図ったりすることで、基礎学力が徐々に定着してきた。

エ 理科

- ・ 観察・実験の基本的な知識や技能を少しずつ高めたり、絵や図等を使って自分の考えを表現する機会を少しずつ増やしたりすることができた。

(2) 課題

ア 国語

- ・ 目的や意図を明確にし、「はじめ・中・終わり」の組み立てや段落の役割を意識した学習や、自分の考えやまとめを文章で表したりする学習に関して、継続的に取り組むことができず文章力に課題が見られる。

イ 社会

- ・ 思考の根拠を挙げながら話し合わせ、思考を整理したり、深めたりする場を大切にできたが、その場における思考の焦点化が十分に図られていない。

ウ 算数

- ・ ねらいに応じた算数的活動を十分取り入れることができず、操作と思考を結びつける力に課題が見られる。

エ 理科

- ・ 時間を十分にとり、視点を明確にした観察記録の機会を保障することができていない。

2 学力等の現状分析

(1) 本校の学力分析の方法

今年度も昨年度に引き続き、6年は全国学力調査・県学力調査、4年は県学力調査、他に2年～5年を対象に本校独自の学力調査を実施した。それぞれの結果と日常の児童の様子を考

慮し、学年ごとに学力分析を行った。その分析をもとに教科部会を開催し、教科ごとに本校全体の課題と傾向をまとめ、全体会で共通理解を図った。

(2) 各教科（国語、社会、算数、理科）における本校の課題と傾向

ア 国語

- ・ 自分の考えや伝えたいことをわかりやすく書く力が十分でない
- ・ 文章表記や漢字を正しく書く力が十分でない

イ 社会

- ・ 地図を活用したり、資料を丁寧に読み取ったりする力が十分ではない。
- ・ 資料などから読み取った事実をもとに社会的事象の意味を考えたり、社会科の用語を使って表現したりする力が十分でない。

ウ 算数

- ・ 数のしくみや相対的な大きさを捉える力が十分でない。
- ・ 文章や式、表や図の表わしている意味を捉える力が十分でない。

エ 理科

- ・ 自然事象への関心が低く、生活の中で十分生かせていない。
- ・ 観察記録する力や結果から考察し絵図や言葉で表現する力が弱い。

3 学力向上の取組

(1) 本校の学力向上に向けての組織作り

各学年の学力分析と対応策を低中高分科会・学年会・教科部会等で検討し、全体研究会で確認・共通理解のうえ教育課程（弥生プラン）へ位置づけ、確実な実施・検証を行う。

(2) 各教科における対応策

ア 国語

- ・ 日記や学習のふり返りの場で、主語・述語や文章構成を意識して書かせ、推敲する時間を確保する。
- ・ 音読したり、国語辞典を使って調べたり、既習の漢字を使って短文作りしたりする学習を継続的に取り入れる。

イ 社会

- ・ 授業の始めの5分間、地図や資料の習熟タイムを設けたり、中心資料を学習に位置づけ、視点を明確にして読み取る時間を十分に保障したりする。
- ・ 根拠をはっきりさせて考えるとともに、社会科の用語を使って表現することができるようにする。

ウ 算数

- ・ ある大きさを1とみたり、～の〇つ分で表わしたりするなどの算数的活動を通して、数の相対的な大きさを理解させる。
- ・ ～の〇つ分などの算数的な用語や数直線を用いた説明などの算数的な表現を日常的に使い、式や図を説明する機会をより多く設けていく。

エ 理科

- ・ 対象物を身近に置き、実体験の場を多くして関心を持たせる。
- ・ 観察視点を明確化しながら観察や考察の時間を十分確保したり、児童が発表したことを観察視点を整理しながら教師が板書したりするなど、授業のパターン化を図る。

4 その他の取組

(1) 朝タイム（さわやかタイム）

スキルタイムとして位置づけ、曜日によって計算練習・漢字練習・英語のショートタイムを実施し、計算力や語彙力の向上を図る。

(2) 読み聞かせ

定期的に図書ボランティアによる読み聞かせの時間を実施し（朝タイム：第1・3週低学年、第2週 中学年、第4週 高学年）、言語環境の充実を図る。

(3) 県の体力向上事業への参加や校内の体力づくりの推進

「スポチャレいしかわ」への参加や校内マラソンタイム、なわとびタイム等の設定を通して、体力・気力・集中力を養う。

小將町中学校

所在地:金沢市小將町1-15

電話:076-262-6272 F A X:076-262-6273

HPアドレス: <http://www.kanazawa-city.ed.jp/koshoumachi-j/>

校長名:寺井 雅樹

学年	1年	2年	3年	特別支援学級	合計
生徒数	84	92	76	23	275
学級数	3	3	2	4	12

	校長	教頭	教諭等					養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	特学	他					
職員数	1	2	5	5	4	6	0	1	1	1	1	27

(分校含む)

1 平成21年度学力向上の取組内容の検証

本校では、学力向上のために、「①基礎・基本の定着」、「②授業改善」、「③教材の開発」の3つの視点に授業規律の徹底指導を加え、全教科共通の課題として全教員の取り組んでいます。特に授業改善には力をいれており、教員各人が授業改善の課題を設定し、その達成に向けて授業改善に取り組んでいます。また、生徒にとってわかりやすい板書の工夫にも力を入れ、授業の課題やめあてがわかり、まとめにも活用できる板書の研究も進めています。また6月7月に本校、分校ともに研究授業(要請訪問)を行い、その授業に対する助言や生徒による授業評価を参考にしながら、授業改善の検討をすすめました。10月の市教育委員会の総合訪問でもさらに指導、助言を受け、全職員が共通の視点で取り組むことができました。また、8月、1月の研修会では各教科の取組状況を報告し、全教職員で取り組みの進捗状況を共通理解ができました。

しかしながら、生徒による授業評価では「授業がほとんどの教科でよくわかる」の設問において12月の評価では肯定的な評価は分校では95%を超えていましたが、本校においては80%であり、5人に一人が否定的な回答であり、それが今後の課題となっています。

2 H22年度の学力等の現状分析

(1)全体の傾向

どの教科においても、基礎基本の知識が身につけている生徒が多い状況です。生徒質問紙による調査では学習の必要性を十分に感じている生徒の数が多く、またテストにも最後まで粘り強く取り組み、宿題もきちんとしています。しかし、家庭学習(予習、復習)を苦手と感じている生徒やテストで間違えた所の学習が十分でない生徒も多く、この点が課題であると考えています。

(2)教科ごとの分析

ア 国語科

基本的な事項がおおむね身につけており、それを使って使って活用する力を持っており、どの観点(関心意欲態度・話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと・言語について)の知識理解技能)においても十分な力がついている。

自分の考えを相手にむけて発信する力が伸びてきている。

表現することへの意欲を失わせることなく、それぞれが満足のいく表現をできるような

工夫が必要である。

自分の考えと他者との考えを合わせて、思考の深化を図る場面が必要である。

イ 社会科

どの観点(社会的事象への関心意欲態度・社会的な思考判断・資料活用の技能表現・社会的事象への知識理解)においても概ね力がついているが、さらに基礎基本の定着を図る必要がある。課題を見つけ出す力や表現する力を養うための発表の機会を設定し、発展的な学習にも力を入れていく必要がある。

ウ 数学科

学習に対し意欲的に取り組もうとする姿勢と、内容を理解する力が高く、どの観点(数学への関心意欲態度・数学的な見方や考え方・数学的な表現処理・数量図形などに関する知識理解)においても十分な力がついている。

文章をよく読み、問題を読み解こうとする意欲と的確に処理する力がついている。

図形についての空間認識や数力関係を表す力はもっと伸ばしていく必要がある。

エ 理科

どの観点(理科への関心意欲態度・科学的な思考・技能表現・知識理解)においても概ね力がついている。

特にグラフの問題はよく読み取ることができている。

電流の計算や、化学反応式の確認、2分野(火山と溶岩、天気の変化)については定着を確実にしていきたい。

オ 英語科

4つの領域(聞く・話す・読む・書く)について平均的に力がついており、特に書く領域については基本的な例文を正しく書く能力がついている。

情報を整理して読み取る力については十分とは言えないので、文章の読み取りに力を入れていきたい。

3 H22年度の学力向上の取組

(1) 学力向上に向けての3つの視点

本校は研究主題「自ら学び創造する意欲をもった生徒の育成」として研究を進めており、副題を「確かな学力の定着に向けて」とし、生徒一人ひとりの学力の向上に努め、学力調査等の結果などから一定の成果をあげてきていると考えています。生徒は落ち着いた雰囲気の中で意欲的に学習していますが、集中力や家庭学習の定着、基礎学力の定着に課題のある生徒もいます。今年度も活用力、思考力を含めた学力の向上に努めており、確かな学力の定着に向けて「①基礎・基本の定着」、「②授業改善」、「③教材の開発」の3つの視点で取り組んでいます。特に、②「授業改善」の重点として、「表現力(伝える力、聞き取る力)の向上」に取り組んでいます。

(2) 教科ごとの重点項目

ア 国語科

(ア) 学習したことをもとに、自分の考えを持たせ、それを表現する活動を取り入れる。

(イ) 交流活動による、相互評価や自己評価の場を設ける。

イ 社会科

(ア) 毎時間「まとめ」の板書を行い、自己評価を行うことで学習の振り返りを行う。

(イ) 地域を題材として生徒の興味関心を高め、理解を深める授業を実施する。

(ウ) 課題を見つけ出す力や表現する力を養うために発表する機会を設定し、発展的な学習に力を入れる。

ウ 数学科

(ア) 授業の中で個々の学習到達度を把握し、学習方法について適切なアドバイスを行う。

(イ) 個々の学力に対応できる教材の工夫を行い、身近にある事象を題材にした教材をさらに開発する。

(ウ) 自分の考えを伝えたり、いろいろな考え方を聞く場面を設定する。

エ 理科

(ア) 移行措置の指導法について工夫を行う。

(イ) ワーク、プリントの点検や小テスト、単元末テストにより、基礎事項の定着を確実なものとし、1分野の計算練習に時間をとる。

(ウ) 班での話し合い、発表する授業展開を多く取るようにする。

(エ)学力等の現状分析で苦手とする項目について見直しをおこない定着を図る。

オ 英語科

(ア)小テスト(単語テスト、基本文テスト)を実施していく。

(イ)めあて(本字の課題・目標)の提示とまとめの段階での確実な確認を行う。

(ウ)文章の読み取り力の向上および、発表活動を多く取り入れて伝える力と聞き取る力の向上をはかる。

4 その他の取組

表現力育成のため、総合学習の時間において、国語・英語・理科・社会科の学習内容を利用して、3年生全員が、「小論文」、「英語スピーチ」、「理科のプレゼンテーション発表」、「新聞記事のポスターセッション」の4つの課題に取り組み発表を行います。(11月26日(金)5, 6限)



城南中学校

所在地：金沢市城南1-24-1

電話：076-221-6979

F A X：076-221-6970

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/jyouman-j>

校長名：米田 茂

学年	1年	2年	3年	転校生	合計
生徒数	165	131	191	0	487
学級数	5	4	5	0	14

	校長	教頭	教諭等					養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	特学	他					
職員数	1	1	8	7	8	0	1	1	1	1	4	33

1 平成20年度学力向上の取組内容の検証

学校のさまざまな活動の中で、「読解力の向上」のために表現活動を重視し、グループ学習を通して学び合い、意見を交流する場を大切にしようという取組が行われた。週1回のリーディングタイムを活用し、幅広い分野の文章に触れ、自分の考えを書く活動を行っている。また、理由を含めて自分の意見を書いたり、述べたりすることを授業等で行っているが、まだまだ十分力がついたらとはいえない。また、基礎学力が不足していると考えられる生徒の割合が減っておらず、個に応じた取組をより充実させる必要があると考える。

2 学力等の現状分析

(1) 全体の様子から

学習に取り組む態度や姿勢、テストの結果から見える学力はあまり向上が見られない。今年度は学習の定着度については個人差が大きく、基礎学力が不足している生徒が多いため、今後はより一層、個の理解度に応じた取組を考えていく必要がある。また、昨年度は「資料やテキストを読み取る力が弱いという傾向」や「文章を書く力が弱いという傾向」については、取組の結果、改善の方向にあったが、今年度は「読み取りの力」「文章力」とともに課題が見られる。

(2) 学力調査の結果から

多くの教科で基礎学力が定着していないことが分かる。これらの改善のために、基礎的なドリルを充実させ、繰り返し学習させることで定着を高める必要がある。また、「思考・判断」「表現」の能力に課題が見られ、今後は学習したことを活用する力についてさらに育成していく必要がある。

(3) 教科別の課題

ア 国語科

全学年とも漢字の読み書きの力が定着していない。一年生は書く領域において推敲する力が弱い生徒が多く、2、3年生は文法が身につけていない生徒が多い。特に言語事項において語彙や知識が身につけていない。また、読解する場面においても想像力を働かせて自分の言葉で表現する力が不十分である。

イ 社会科

資料の読み取りや、読み取った資料をもとに考察することに力を入れて指導してきたが、特に地理分野における資料の読解や考察に関する力について、今後取り組んでいく必要がある。

ウ 数学科

計算問題に力をいれて取り組んでいるが、なぜそういう答えになるのか、なぜ間違えたのかと後で振り返りを行うことが十分でない生徒が多い。また、授業では学習内容を理解できる生徒も定着には至っておらず、家庭学習時間が無いまたは少ない生徒が多い。

エ 理科

計算によって値を導き出す力が弱く、その事象を確かめる実験方法を考えることや、グラフを正確に描くことなどの力が不足している。また、実験の結果から考察することを苦手とする生徒が多く、論理的に文章で表現したり自分の言葉でわかりやすく説明したりする力が不十分である。

オ 英語科

日常会話表現の知識理解は十分であるが、場面に応じてそれらを活用する力が十分とは言えない。また、限られた時間内に長い英文を読み、その内容を理解する力が弱い。1、2年生では「書くこと」、3年生では「文章構成に気をつけて英作文を書くこと」を苦手とする生徒が若干いる。

3 学力向上の取組

(1) 全体を通しての取組

さまざまな学習の基礎である『ことば力』を育成するという面から学力向上にせまる取組をしている。教育活動すべてにおいて、読む・書く・聞く・話す力を高めることを重視していく。

ア 読む・書く力について

1、2年の学年で朝読書、全学年で週1回のリーディングタイム（まとまりのある文を読み、与えられた課題に適した文を書く）を実施し、読む・書く機会を増やす取組を継続する。また、「ことば力向上」のためのスキルアップの時間（ことばの時間）を、総合的な学習の時間の中で、1、2年生は年間20時間、3年生は年間10時間程度実施している。

イ 聞く・話す力について

聞く・話す機会を増やすために、授業の中でグループ学習をできるだけ多く取り入れる取組をしている。また、総合的な学習の時間を中心に発表する場を多く設けている。また、「わかる授業」「楽しい授業」「個性を伸ばす授業」を目指し、その成果を検証するために、生徒による授業評価を実施し、授業改善に努めている。また、きめ細かな指導の充実のために数学において少人数指導を実施している。

(2) 教科別の取組

ア 国語科

1年生は授業開始前の漢字練習や作文の推敲の練習をしていく。2年生は朝自習時の漢字練習時間を設けるとともに、漢字テストを継続して実施する。文法についても問題の解答をさらに丁寧に行っていく。3年生は漢字問題練習に取り組む。文法は1年次からの復習を随時実施して定着を図る。読解力については授業の課題設定を工夫し、豊かな表現ができる手立てを考え実施していく。

イ 社会科

地理分野の資料の読み取りに関して、具体的にステップを踏まえ、資料を読み取り、それをもとに考察し、文章で表現する指導を徹底していく。

ウ 数学科

3年の基礎確認コースでは、反復練習の時間を増やすと共に、授業の終わりには1、2年の学習内容の復習の時間をとるなど、問題を多く解く環境を整えている。また、途中式をきちんと書かせ、前時でやったことの違いや、章全体で見たときや過去の問題との関連など、広い視野で計算問題に取り組ませるようにしていく。

エ 理科

計算問題に多く取り組ませ、反復して行うことで定着を図る。観察・実験のレポート作成の機会を多く設け、きめ細かな添削指導を行うことで、グラフを正確に描くことや科学的な思考力を高めさせていく。また、発表の機会ごとに他に分かりやすく説明することを意識させ、論理的な表現の力を充実させていく。

オ 英語科

1、2年生では毎時間「書くこと」を意識的に取り入れ、自己表現力育成の基礎とする。3年生では「速く正確に読む」力を身につけるために、長文読解や多読に取り組む。その中で事実を把握し、自分の考えを話したり言いたりする力をつけることを目指す。また、コミュニケーション能力をつけるために、各学年でペア学習やグループ学習を多く取り入れ、授業の中でより多くの英語を使うことで日常表現を身につけ、定着を図っていく。

特集

「世界都市金沢」小中一貫英語教育特区による新しい英語教育の実現に向けて
～実践的なコミュニケーション能力を身に付け、英語で自国文化や金沢の歴史を語れる子に～

ねらい	特区になることで	導入年度
<p>「金沢世界都市構想」の理念に基づく人材の創生</p> <p>金沢市は、「金沢世界都市構想」の理念に基づき、「世界都市金沢」の次代を担う子どもの育成を目指し、平成8年から小学校に英語活動を導入し、平成14年度からは3年生以上の「総合的な学習」に小学校英語教育を週1時間実施してきました。</p> <p>これらをふまえ、小学校で培ってきた力を更に中学校へつなげ、児童生徒が豊かなコミュニケーション能力を身に付け、金沢の文化を伝えることができるよう、より高い英語力を取得した人材の創生を推進することを目指します。</p>	<p>①教育課程の弾力的な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校3年生以上に、年間35時間の「英語科」を設置します。 ○中学校英語科における必修英語授業時数を年間140時間とします。 <p>②教科書の早期給与</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校6年生に、主たる教材として中学1年生の英語教科書を早期給与します。 ○中学校1、2年生に、それぞれ上学年の英語教科書を早期給与します。 	<p>導入年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中学校ともに、平成16年度4月より導入します。 ○指導内容は市教育委員会が示すカリキュラムに基づいて実施します。 ○移行期間を設け、 小学校は平成17年度、 中学校は平成18年度を完全実施年度とします。

*教育特区とは、構造改革の一環で、既成の法律などに縛られずに、教育の分野で先進的な取り組みをする学校や地域を、国が認定し、その取り組みを支援するシステムをいいます。

小中一貫英語科学習指導基準の具体的実践

小学校

中学校

- 3年生以上で教科としての「英語科」の新設
- 小学校英語副読本を活用した英語科授業
- 英語指導講師等と担任と英語科担当者との協働的指導

- 必修英語140時間と選択英語「発展コース」「補充コース」の実施
- 小学校英語教育を踏まえたカリキュラムの編成と実施
- 英語科教員だけでなく、学校全体での取り組みの強化

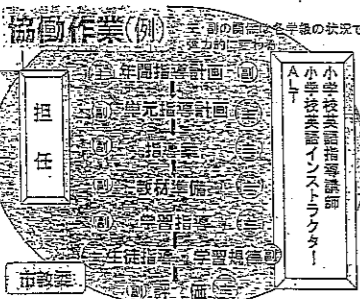
協働的指導

●指導に当たっての準備や計画や評価等において、協働的な指導に努めること。

英語担当者

- ◆打ち合わせの時間確保状況
- ◆学力の定着状況の把握
- ◆英語教育の企画・立案・方針・提案など

担任 英語指導講師
英語インストラクター
ALT



受け入れ体制の充実

- 受け入れ体制作り
- 4月の派遣初日を迎えるまでに、校内で受け入れ準備を整えておくこと。
- 氏名等を職員で確認
- 職員室の位置や下駄箱等の確認
- 児童の状況の説明・・・等。

	小学校1年	小学校2年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学1年	中学2年	中学3年									
ねらい	【第1期】聞く・話すを中心とした指導			【第2期】聞く・話すを重視し、読む・書くを段階的に指導			【第3期】聞く・話すを読む・書くにつなげる指導		【第4期】聞く・話す・読む・書くのバランスのとれた4技能指導									
	*英語の音に慣れ親しみ簡単なあいさつができる			*身の回りのものを英語で言える簡単な自己紹介ができる			*身近な人の紹介や簡単な文を読んだり書いたりできる	*中学1年の前期程度の学力	*中学2年の前期程度の学力	*中学3年の前期程度の学力	*高校1年の前期程度の学力							
教育課程	時数		年間10単位時間				年間35単位時間+週1回以上のシュートタイム				年間140単位時間							
	指導内容と年次計画		副読本1		副読本2		中1教科書		中2教科書		中3教科書							
	教科書等		副読本1		副読本2		中1教科書		中2教科書		中3教科書							
評価	総合的所見欄に記入		① 3観点による観点別評価				② コミュニケーションへの関心				③ 表現の能力				④ 理解の能力			
	総合的所見欄に記入		① 4観点による評価				② ミュニケーションへの関心				③ 表現の能力				④ 理解の能力			
指導体制	英語科の授業		単独またはチームティーチング 学級担任 + スクールサポーター等				チームティーチング 学級担任 + 英語指導講師・英語インストラクター・ALT				単独またはチームティーチング 英語科教員：必修英語及び選択英語を担当							
	シヨウトム		担任単独授業 繰り返し指導により深い定着を図る (例) あいさつ・簡単な日常的な会話・副読本の内容の復習等								ALT：必修英語以外に選択英語(発展)で チームティーチング 英語指導講師：選択英語を担当							

学校全体での取り組み

- 豊かなコミュニケーション能力を身に付けるためにすべての教科等において、授業内容や指導法を工夫すること。
- 中学校では、英語科教員だけの問題とするのではなく、総合的な学習の時間の在り方や選択教科の在り方について、学校全体で検討すること。

教育課程の編成

- 小学校での履修を十分に生かし、小学校と連携した教育課程を編成すること。
- 中学校の出口は、高校1年前期程度の学力を目指すこと。

授業の改善

- 生徒の学習段階に応じて「英語での授業進行」や「英語の活用場面の設定」を多くすると共に適時適切に評価を行うこと。
- 学習指導基準金沢スタンダードや学習指導要領に沿って、系統的・発展的な指導を展開すること。

金沢市立小学校英語活動関係事業経過

人的支援

小学校英語活動民間指導協力員(EAA)・募集・登録・研修

EAAを各学校に派遣

小学校英語活動外国人指導員(EAC)制度導入・要請訪問

EACの訪問の在り方検討及び新システム(1週間訪問・1日訪問)の開始

中学校に県費負担教職員の研修権限の委譲

新学習指導要領移行時数増拡大傾向

ALT小学校訪問システム導入
・中学校を拠点校に中学校区の小学校に定期訪問
・小中のALTの訪問を通しての連絡会設定

巡回EAAシステム企画
・複数の中学校校区の4～7校の小学校を定期的に訪問する。
・5、6年を担当する。

巡回EAAシステム導入

新指導者体制

英語指導講師または、インストラクターを全小学校に派遣。担任とTTの指導体制

導入の経過

平成8年度英語活動の導入

背景：「金沢世界都市構想」策定
・金沢市立南小立野小学校が「小学校における英語等に関する教育研究開校」に指定される

課題：目的・内容設定、指導協力者活動資料配付

小学校英語活動導入検討委員会設置
構成：学識経験者、PTA代表、国際交流員(CIR)、外国語指導助手(ALT)、学校関係者

ワーキンググループ員による調査・研究
構成：小学校教頭、小学校教諭、中学校教諭

説明会・活動デモンストレーション

平成9年度英語活動本格実施

課題：指導者の充実
・研修会の企画
事例研修会開催

課題：教材資料の充実
・研修会の充実

「小学校英語活動実践研究会」の設置
構成：小学校教諭、中学校教諭

英会話研修・英語活動研修会開催

平成10年度英語活動継続

英語活動研修会開催(全5回継続)

平成12年度英語活動の進展(小中一貫英語教育検討開始)

課題：段階的、系統的な年間計画の必要性
・担任単独による活動方法

年間10回の英会話講座開設
夏季英語活動研修会

小中一貫英語教育実施検討委員会設置
構成：学識経験者、PTA代表、経済界代表、学校関係者

ワーキンググループ員による調査・研究
構成：小学校教諭、中学校教諭

平成13年度英語活動の進展(小中一貫英語教育推進地域指定)

課題：階数増に対応する人的支援、カリキュラムの支援、研修充実

地区別(4ブロック)小学校英語研修会開催(継続9回)

小中一貫英語教育推進地域指定、研究開始

平成14年度英語教育へ

課題：カリキュラムの支援、研修充実
地区別(4ブロック)小学校英語研修会開催(継続9回)
・夏季小学校英語活動研修会

平成15年度小学校英語副読本作成

課題：カリキュラムの支援、研修充実
地区別(4ブロック)小学校英語研修会開催(継続9回)
・夏季小学校英語教育研修会
・小中一貫英語教育担当者研修会

小学校英語副読本等作成委員会立ち上げ
構成：学識経験者(監修)・校長(1名)
小学校教諭・中学校教諭
小中一貫英語教育推進地域研究公開発表

平成16年度「世界都市金沢」小中一貫英語教育特区導入

カリキュラム支援

具体的活動例作成

「英語活動の指針Ⅰ」策定
・基本的な考え方
・活動事例

「英語活動指針Ⅱ」を各学校に配付
・基本的な考え方
・活動事例
・年間計画例
・学校用語集・教室英語
・教材資料集

実践事例集作成

「金沢市小学校英語活動実践事例集」を各学校・EAAに配付

情報紙による広報活動開始

「英語活動指針Ⅱ」の見直し及び「指針Ⅲ」の作成

「英語活動指針Ⅲ」を各学校に配付
・基本的な考え方
・年間教材60レッスン一覧
・活動の展開例
・教室英語

ワーキンググループ会で小中一貫英語教育、教育課程編成資料作成

学校担任のための電子ノートアクティビティ事例集配付(CD-ROM付)
・指針Ⅲの活動の詳細
・ピクチャーカード

「小中一貫英語教育・教育課程編成資料」配付

各小学校に「小学校英語・教育課程編成資料」配付
・「小中一貫英語教育・教育課程編成資料(小学校の部)」配布

H15小学校英語副読本作成

小学校英語副読本配付